

KONYA-SITE

# 紺屋遺跡

—第1次発掘調査報告書—

県営広域農業農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

2001. 3

長坂町教育委員会  
峡北土地改良事務所

KONYA-SITE

# 紺屋遺跡

—第1次発掘調査報告書—

県営広域農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

2001. 3

長坂町教育委員会

峡北土地改良事務所

## 序

長坂町は広大な八ヶ岳南麓のほぼ中央に位置し、国蝶オオムラサキの生息地として全国的に知られているように、自然に恵まれた高原の町です。それとともに、およそ200ヶ所に上る遺跡の密集地帯としても知られています。

長坂町教育委員会では各種の開発事業に際し、このように数多い遺跡の保護をはかりつつ、必要に応じて発掘調査を実施し、記録として遺跡の内容を後世に伝えるための文化財保護事業を推進しております。

本書は平成10年度に県営広域営農団地農道整備事業にともない発掘調査を実施した紺屋遺跡の調査報告書です。紺屋遺跡では縄文時代の集落、平安時代の集落、中世の墓地が多数の遺物とともに発見されました。中でも、中世の墓地からは五輪塔が数多く出土し、最近発掘調査された高根町横森赤台（東下）遺跡や蘷崎市石之坪遺跡（東地区）からも紺屋遺跡以上に五輪塔が多数出土しており、それらの遺跡との比較が注目されます。また、第2次調査で発見された方形堅穴状遺構との集落内における位置関係等も興味深いものがあります。

最後に、紺屋遺跡の調査にあたり、格別なご理解をいただいた長坂下条地区的皆様をはじめとする関係各位に厚く御礼申し上げます。本書が広く教育や研究の場で活用されることを期待しています。

2001年3月

長坂町教育委員会  
教育長 瀬戸龍徳

## 例　　言

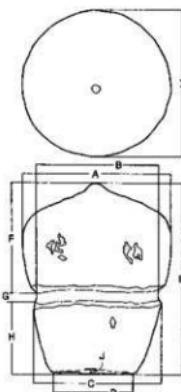
1. 本書は、1998（平成10）年度に実施した山梨県北巨摩郡長坂町長坂下条字紺屋地内に所在する紺屋遺跡の第1次発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、県営広域管農団地農道整備事業に伴う事前調査であり、山梨県県北土地改良事務所より委託を受けて長坂町教育委員会が実施したものである。
3. 本書の執筆・編集は、村松佳幸（長坂町教育委員会学芸員）が行った。
4. 発掘調査および整理作業において一部の調査・業務を以下の各機関・各位に委託および依頼した。  
基準点測量・航空測量　佛シン技術コンサル  
人骨鑑定　梶ヶ山寅里（国立科学博物館 人類研究部 非常勤研究員）
5. 遺構・遺物の写真撮影は村松が行った。
6. 本報告書に関わる出土品及び記録図面・写真等は、長坂町教育委員会に保管している。

7. 発掘調査および報告書作成にあたっては、下記の方々に多大なご指導、ご教示を賜った。記して深く感謝の意を表す次第である。  
畠大介　宮澤公雄　平野修　梅原功一（山梨文化財研究所）　間間俊明（韮崎市教育委員会）　渡邊泰彦（大泉村教育委員会）　野代幸和（山梨県埋蔵文化財センター）　出澤力（佐久市教育委員会）　長谷川誠（國學院大學大学院生）

## 凡　　例

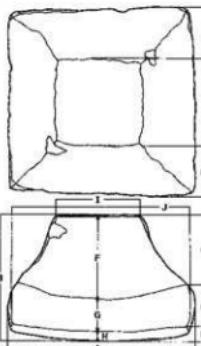
1. 掲載した遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として下記のとおりである。  
遺構　調査区全体図：1/100  
住居跡・竪穴状遺構・溝：1/60  
炉・カマド：1/30  
土坑・五輪塔集中地点・五輪塔散在地点：1/30  
遺物　繩文土器：1/3または1/4  
黒曜石原石：2/3  
石皿・台石：1/6  
それ例外の石器：1/3  
土師器・須恵器・灰釉陶器：1/4  
鉄滓：1/3　五輪塔：1/6　古銭：2/3
2. 第1図は、株式会社写測2000年調製、1/25,000長坂町全図（国土地理院発行1/25,000地形図を複製したもの）を基に作成した。
3. 第2図は、国際航業株式会社1994年調製1999年修正、1/10,000長坂町全図を基に作成した。
4. 遺構図版中の遺物分布図のマークは各図版中に示してある。
5. 遺構・遺物図版中のスクリーントーンは以下のとおりである。

黒色土器	[■]	須恵器	[■]
灰釉陶器	[■]	石器作業面	[■]
被熱部	[■]	煤	[■]
6. 拓影図で両面を載せてあるものは、断面左側が外面、右側が内面である。
7. 遺構および遺物写真的縮尺は統一されていない。
8. 遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。
9. 五輪塔・宝匣印塔もしくは六地蔵鏡の計測箇所は次のとおりである。



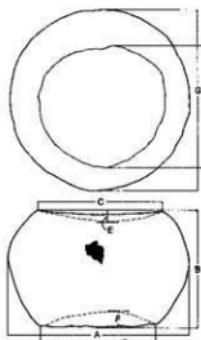
### 空風輪

- A : 空輪の最大幅
- B : 空輪の下端幅
- C : 風輪の最大幅
- D : 風輪の下端幅
- E : 空風輪の最大長
- F : 定輪の最大長
- G : 空風輪の深の幅
- H : 風輪の最大長
- I : 空風輪の最大厚
- J : ほぞの最大長または下端の抉りの深さ
- K : ほぞの幅



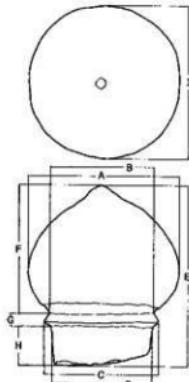
### 火輪

- A : 火輪の最大幅
- B : 火輪の最大長
- C : 風輪受部から軒隅上端までの長さ
- D : 軒隅下端から水輪接地部までの長さ
- E : 風輪受部から軒中央上端までの長さ
- F : 軒中央下端から軒隅接地部までの長さ
- G : 軒中央の長さ
- H : 軒中央下端から水輪接地部までの長さ
- I : 風輪受部の幅
- J : 軒の幅
- K : 火輪の最大厚
- L : 風輪受部の厚さ



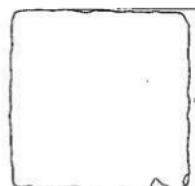
### 水輪

- A : 水輪の最大幅
- B : 水輪の最大長
- C : 水輪の上面最大幅
- D : 水輪の下面最大幅
- E : 水輪の上面抉りの深さ
- F : 水輪の下面抉りの深さ
- G : 水輪の最大厚
- H : 水輪の上面最大厚
- I : 水輪の下面最大厚



### 宝珠印塔もしくは六地蔵輪

- A : 宝珠形の最大幅
- B : 宝珠形下端の幅
- C : 張り出し部の幅
- D : 輪の幅
- E : 相輪の残存長
- F : 宝珠形の長さ
- G : 張り出し部の長さ
- H : 輪の残存長
- I : 宝珠形の最大厚



### 地輪

- A : 地輪の最大幅
- B : 地輪の最大長
- C : 地輪の最大厚
- D : 地輪下面の幅
- E : 地輪下面の厚さ
- F : 地輪下面の凹みの深さ



## 紺屋遺跡目次

序  
例 言  
本文目次  
挿図目次  
表 目次  
写真図版目次

第1章 調査の経過と概要	1
第1節 発掘調査に至る経過	1
第2節 発掘調査の概要	1
第3節 基本層序	1
第4節 発掘調査組織	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 遺構と遺物	3
第1節 繩文時代	3
第2節 平安時代	4
第3節 中世	6
墓 坑	6
火葬墓または火葬施設	7
1号五輪塔集中地点	7
2号五輪塔集中地点	7
五輪塔散在地点	7
第4節 時期不明遺構	8
第4章 遺構・遺物の検討	9
第1節 繩文時代	9
第2節 平安時代	9
第3節 中世	9
第4節 まとめ	10
引用・参考文献	10
附編 紺屋遺跡出土人骨	11

## 挿 図 目 次

第1図 長坂町遺跡分布図	15
第2図 紺屋遺跡調査区と周辺の地形	17
第3図 紺屋遺跡調査区全体図	19
第4図 2号住居跡・5号土坑	21
第5図 2号住居跡遺物出土状況、出土土器・石器	22
第6図 3号住居跡・34号土坑	23
第7図 3号住居跡遺物出土状況	24
第8図 3号住居跡出土土器	25
第9図 3号住居跡出土土器	26
第10図 3号住居跡出土石器	27
第11図 5号土坑・遺構外出土土器	28
第12図 遺構外出土土器	29
第13図 遺構外出土土器	30
第14図 1号住居跡	31
第15図 1号住居跡・カマド遺物出土状況	32
第16図 1号住居跡遺物出土状況（上：土器全体、下：土師器）	33
第17図 1号住居跡遺物出土状況（上：黒色土器、下：須恵器・陶器）	34
第18図 1号住居跡出土土器	35
第19図 1号住居跡出土土器	36
第20図 4号住居跡・11・12-1・12-2・22号土坑	37
第21図 4号住居跡遺物出土状況	38
第22図 4号住居跡出土土器	39
第23図 5号住居跡	40
第24図 5号住居跡遺物出土状況（上：土器全体、下：土師器）	41
第25図 5号住居跡遺物出土状況（上：黒色土器、下：須恵器・陶器）	42
第26図 5号住居跡カマド遺物出土状況、出土石器	43
第27図 5号住居跡出土土器	44
第28図 5号住居跡出土土器・鉄滓	45
第29図 7・15・16・17・19号土坑	46
第30図 8・13・18-1・18-2号土坑	47
第31図 1号五輪塔集中地点	48
第32図 2号五輪塔集中地点	49
第33図 五輪塔散在地点	50
第34図 五輪塔	51
第35図 五輪塔	52
第36図 五輪塔	53
第37図 五輪塔	54
第38図 五輪塔・中世土器・古錢	55
第39図 1号竪穴状遺構、1号溝、1・2号土坑	56

第40図	3・4・6・9・10・14・21・30号土坑	57
第41図	遺構変遷	58
第42図	遺物分布	59
第43図	第1・2次調査区遺構変遷	60

## 表 目 次

第1表	長坂町遺跡分布一覧	16
第2表	土坑・ピット一覧	61
第3表	石器一覧	61
第4表	平安・中世遺物観察表	62
第5表	墨書き土器一覧	65
第6表	古錢一覧	65
第7表	空風輪一覧	66
第8表	火輪一覧	66
第9表	水輪一覧	66
第10表	地輪一覧	66
第11表	宝蓋印塔もしくは六地蔵鐘	66
第12表	遺構別出土遺物内訳	67

## 写真図版目次

図版1	調査区全景①	(西から)
図版2	調査区全景②	(東から)
図版3	調査区全景③	(西から)
図版4	調査区全景④	(真上から)
	調査区近景①	(東から)
	調査区近景②	(西から)
図版5	2号住居跡	2号住居跡地床炉
図版6	3号住居跡	3号住居跡地床炉
図版7	3号住居跡遺物出土状況①	
	3号住居跡遺物出土状況②	
	3号住居跡遺物出土状況③	
図版8	5号土坑	5号土坑遺物出土状況
	23号土坑	
図版9	1号住居跡	1号住居跡カマド
図版10	1号住居跡完掘状況	4号住居跡
図版11	4号住居跡カマド	4号住居跡完掘状況
図版12	5号住居跡	5号住居跡カマド①
図版13	5号住居跡完掘状況①	(西から)
	5号住居跡カマド完掘状況	
図版14	5号住居跡カマド	
	5号住居跡完掘状況②	(北から)
	5号住居跡遺物出土状況①	
	5号住居跡遺物出土状況②	
	5号住居跡遺物出土状況③	
図版15	1・2号五輪塔集中地点①	(西から)
	1・2号五輪塔集中地点②	(東から)
図版16	1号五輪塔集中地点①	(南東から)
	1号五輪塔集中地点②	(西から)
図版17	2号五輪塔集中地点①	(東から)
	2号五輪塔集中地点②	(西から)
図版18	2号五輪塔集中地点③	(北西から)
	2号五輪塔集中地点灰陶陶器出土状況	
図版19	五輪塔散在地点①	(南西から)
	五輪塔散在地点②	(西から)
図版20	調査区西端土坑群①	(北西から)
	調査区西端土坑群②	(南西から)
図版21	調査区西端土坑群③	(西から)
	7号土坑①(南西から)	7号土坑②(北から)
	11(右)・12(左)号土坑	11号土坑
図版22	15・16・17号土坑①	(北西から)
	15・16・17号土坑②	(西から)
図版23	16号土坑①	(西から)
	16号土坑②	(北から)
図版24	16号土坑完掘状況	17号土坑
図版25	15・16・17号土坑完掘状況①	(北西から)
	15・16・17号土坑完掘状況②	(南東から)
図版26	18-1・2号土坑①	(北東から)
	18-1・2号土坑②	(北から)
図版27	18-1号土坑人骨出土状況	(西から)
	18-2号土坑人骨出土状況	(東から)
図版28	18-1・2号土坑完掘状況①	(北から)
	18-1・2号土坑完掘状況②	(西から)
	18-1・2号土坑完掘状況③	(東から)
	18-1・2号土坑③	(北から)
	18-1号土坑かわらけ出土状況	
図版29	19号土坑	20号土坑
	22号土坑	
図版30	8号土坑	8号土坑人骨出土状況
	8号土坑完掘状況	13号土坑
	13号土坑古錢出土状況	
図版31	1号土坑	2号土坑
	3号土坑	
図版32	4号土坑	6号土坑
	9号土坑	
図版33	10号土坑	14号土坑
	21号土坑	
図版34	出土土器①	
図版35	出土土器②	
図版36	出土石器	
図版37	出土土器③	
図版38	出土土器④	
図版39	出土土器⑤・古錢	
図版40	五輪塔	

# 第1章 調査の経過と概要

## 第1節 発掘調査に至る経過

山梨県北土地改良事務所は、八ヶ岳南麓を縦横断する広域営農団地農道整備事業を推進しており、1993（平成5）年、長坂町に対し事業案を提示した。計画路線上に埋蔵文化財包蔵地が数ヶ所があるので、同年度に長坂町教育委員会が試掘調査を実施した。その結果、いくつかの遺跡が確認され、発掘調査が行われている。長坂下条字船屋地内においても、試掘調査で平安時代の遺構が確認され、遺跡の存在が明らかになった。

1998（平成10）年4月に土地改良事務所から文化庁長官あてに埋蔵文化財発掘の通知が提出され、長坂町教育委員会による直當方式の発掘調査を実施することになった。同年12月に調査を開始し、埋蔵文化財発掘調査の報告を行った。発掘調査は約3ヶ月を要し1999（平成11）年3月11日に現場調査を終了し、同年3月17日に長坂警察署に遺物発見届を提出した。整理作業は、他事業との関係で、2000（平成12）年4月から開始し、翌2001（平成13）年3月に終了した。

## 第2節 発掘調査の概要

船屋地内における農道建設予定地は約1,800m<sup>2</sup>であり、1998（平成10）年度では第1次調査として、その西端の315m<sup>2</sup>を発掘調査した。翌年度には第2次調査として残りの1,400m<sup>2</sup>を、長坂町から委託を受けた船屋遺跡発掘調査団が発掘調査している（宮澤2000）。

調査区に発掘調査・遺構測量の基準として5m間隔のグリッドを設定し、東から西方向に47~54、北から南方に向いてU~Xとグリッド番号を付けた。番号が中途半端なのは、同年度に船屋遺跡の東側で、龍角西遺跡B区の調査をしており、その調査区を含めたグリッド番号を付けていたのである。つまり、龍角西遺跡B区から1あるいはAから付けているからである。

調査は、表土層があまり堆積しておらず、樹木の切り株が所々散在していたため、重機による表土剥ぎは行わず、人力で遺構確認面まで掘削していく。その後、丁寧に遺構面の精査を行い調査を進めていった。遺物は原則として光波測量機で出土原位置を記録し、小さいものに関してはグリッド一括としてまとめて取り上げた。遺構を確認した後は、その遺構の範囲の中から出土しているものについては、その遺構出土のものとして取り上げていった。遺構は土層断面・遺構平面図・遺物出土状況図等を平板実測あるいは簡易測り方等の手作業により図化していく。全体図は空中写真測量で図化した。また、

調査の状況に合わせ、写真撮影を行った。

調査後は、洗浄・注記等の基礎整理を平成10年度に終了したが、本格的な整理作業は平成12年に行った。

発見された遺構は、绳文時代中期中葉の竪穴住居跡2軒、土坑5基、平安時代の竪穴住居跡3軒、中世の墓10基、火葬墓または火葬施設2基、五輪塔集中地点2ヶ所、五輪塔散在地点1ヶ所、時期不明の竪穴状遺構1基、溝1条、土坑22基、ビット7基である。出土遺物は、绳文時代の土器・石器、平安時代の土師器・須恵器・陶器・鉄津、中世の五輪塔・土師質土器・かわらけ・灰釉陶器・古鏡が出土している。

## 第3節 基本層序

ここで船屋遺跡の基本層序を述べておく（第14図1号住東西土層断面参照）。遺跡が台地上に立地しているため堆積は浅く、表土下40~50cmで遺構確認面の黄褐色ローム層となる。その上の堆積は3層に分けられ、一番上に表土（黒色腐殖土）があり、その下に褐色土が2層ある。下位の褐色土は上位のそれより暗い色相である。遺構確認面では、堆積の浅さのため绳文・平安・中世の各遺構が同時に確認されるが、平安・中世の遺構覆土は、绳文のそれより色が暗い。

## 第4節 発掘調査組織

事業主体	長坂町教育委員会		
事務局	教 育 長	小松清寿	（～平成12年9月）
		瀬戸龍徳	（平成12年10月～）
教育課長	植松 忠	（～平成12年3月）	
	三井 広	（平成12年4月～）	
教育係長	小松武彦	（～平成12年7月）	
	坂本美男	（平成12年7月～）	
調査担当	村松佳幸		
試掘担当	小宮山隆		
調査補助員	吉田光雄		
発掘作業員	横山幸男	國府田孝吉	植松重雄
	塚原袈裟重	小林松男	相吉いわと
	小林はる代	秋山かつゑ	八巻重子
	小林 裕	小林敏恵	小林立枝
	渡辺早月	大柴富子	畠 梅子
	名取初子	小尾トヨ子	宮原征人
	田中玲子	小澤功子	
整理作業員	長田加代子	井出仁美	石川昭江
	奈良裕子	小林広美	山本理奈
	深沢憲子	日向登茂子	清水純代
	橋本はるみ	橋本 彩	

## 第2章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

紺屋遺跡の所在する北巨摩郡長坂町は、山梨県の北西部に位置し八ヶ岳南麓に立地する、南北約18km、東西約6kmの細長い町である。八ヶ岳の山体が崩壊し起った蓮断火砕流によって形成された台地上にあり、標高は北端の八ヶ岳権現岳が頂点で2,786mを測り、南端はJR日野春駅の南側で約490mである。標高1,200m以上が急峻な山岳地帯になっており、それ以下は比較的緩やかな地形となり、八ヶ岳南麓高原や長坂台地、八ヶ岳南麓低地等が広がる。長坂町南端より南は、淀泥台地を釜無川と塩川の浸食作用によって形成された通称七里岩と呼ばれる浸食崖が形成されている。

八ヶ岳南麓には、比較的多くの湧水があり、これを水源とする小河川は南流し浸食作用によっていくつもの舌状台地を形成している。台地上は水利が悪いため、豊富な水量の湧水を引いて開発した灌漑用水や灌漑用蓄池が多く、県下で最も灌漑の多い地域となっている。また、それを利用した水耕耕作が行われ、古くから八ヶ岳南麓地域でも有数の水田地帯となっている。

紺屋遺跡の所在する長坂下条地区は、町南部のほぼ中央に位置し、標高が660mである。長坂下条地区は、東を流れる鳩川と西側を流れる大深沢川とに挟まれた台地に位置する。その台地が長坂台地と呼ばれ、JR中央本線や県道茅野・小淵沢・垂崎線（通称七里岩ライン）が南北に縱断し、八ヶ岳南麓の主要交通路として利用されている。この台地上にも小河川による浸食によって大小の入り組んだ尾根が形成されている。本遺跡もその入り組んだ尾根の一つに立地する。

今回の調査原因になっている広域農道は、県道茅野・小淵沢・垂崎線を東西に横断するように建設され、比較的南北方向に走る主要道路のいくつかを、東西に結ぶ役割を担うことになる。

### 第2節 歴史的環境

八ヶ岳南麓は、県内でも有数の遺跡密度の高い地域である。その中でも長坂町は遺跡が数多く分布し、これまでに208ヶ所ほどの遺跡が確認されている。紺屋遺跡の立地する台地上も遺跡が数多く存在し、長坂町内でも遺跡の分布が濃い地域である。

長坂上条遺跡は、昭和16年史前学研究所の大山柏氏を中心にして山梨県初の学術調査が行われた遺跡として有名である（大山柏他1941）。縄文時代後晩期の配石墓群が発見され、弥生時代の遺物も出土している。また、現山梨県

酪農試験場地内にある酒呑場遺跡は、縄文時代前期から中期にかけての大集落跡である。1994（平成6）～1996（平成8）年に山梨県教育委員会によって発掘調査が実施され、縄文時代前期～中期の住居跡200軒以上が発見されている（野代1997、保坂1997・1998）。遺物も、縄文時代中期を主体にして早期から後期までの土器・石器が整理箱1,400箱分にものぼり、極めて多量の遺物が出土している。中でも漆塗りの土器片、ヒスイ原石および垂飾、土偶、珠状耳飾、サメの齒状垂飾、土棒、土製蓋等が出土し、遺物の内容も豊富である。それと合わせて古墳時代前期の集落も発見されている。長坂上条遺跡と酒呑場遺跡は古地の上と下の関係で位置しており、縄文時代の中前期では台地上の平坦部に集落を構え、後期になると台地の下の低地へ集落を移動していったと考えられる。

紺屋遺跡周辺でも、いくつかの遺跡が発掘調査されている。北村遺跡は、紺屋遺跡から谷を挟んで西へ約300mほどの所に位置する、古墳時代前期の方形周溝墓6基が発見された遺跡である（小宮山1996）。広域農道整備に先立ち1994（平成6）～1995（平成7）年にかけて長坂町教育委員会が発掘調査を実施し、方形周溝墓の墳丘がほぼ完全な状態で発見され、中には埴輪が供奉されたままの状態で残されているものもあった。

龍角西遺跡は、県道を挟んで紺屋遺跡の東に位置し、1997（平成9）～1998（平成10）年にかけて発掘調査が行われている。第1次調査は調査区の北部の台地上を調査し、古墳時代前期末から中期の竪穴住居跡10軒、平安時代の竪穴住居跡5軒、掘立柱建物跡3棟などが発見されている。第2次調査は台地の南西側の谷部と紺屋遺跡へとつながる台地を調査し、平安時代の竪穴住居跡2軒、中世の建物跡2棟、掘立柱建物跡3棟以上、溝、土坑、道路状遺構などが発見されている。

1991（平成3）年には龍角西遺跡に隣接する龍角遺跡で発掘調査が実施されており、古墳時代中期の住居跡が数軒発見された。八ヶ岳南麓で古墳時代前期末から中期にかけてのまとまった集落の調査例はなく、県内でも特に資料の少ない古墳時代中期の土器編年および集落研究にとって、貴重な資料となった。

その他、紺屋遺跡周辺には長坂氏の屋敷と言われている長坂氏屋敷跡（町指定史跡）をはじめ、三井氏館跡、相吉氏屋敷、上松（植松）氏屋敷等の屋敷跡が知られているが、詳細は不明である。

## 第3章 遺構と遺物

### 第1節 繩文時代

#### 2号住居跡

(位置) V-48・49・50グリッドに位置する。

(重複) 5号土坑と重なる。

(形状) 住居壁がセクションでしか確認できなかったため、形状は不明である。おそらく円形であろう。

(規模) 北側1/3が調査区外である。住居跡の直径は土層断面での観察によると約6mであろう。

(床面) 硬化面は確認できなかった。

(施設) 地床炉が住居中央に構築されている。主柱穴は調査区内で4基確認できた(2P・4-1P・7P・10P)。おそらく6本柱穴になるであろう。また、住居内のピットは以下のとおりである。(数値は長径×短径×深さの順、単位はcm。()付き数値は残存値。以下他の住居内ピットも同様の表記とする。)

1 P	50×44.5×43.5	6 P	59×51×26.4
2 P	50.1×46.5×28.1	7 P	46.5×48×34
3 P	36×33×27.1	8 P	29.5×24.5×19.2
4-1 P	(55.5)×58×45.5	9 P	41×(23)×23
4-2 P	(43)×(46.5)×9.4	10 P	31×29×17.3
5 P	66×41.5×40.7	11 P	(57)×34×17.5

(遺物) 第5図。出土土器のほとんどが藤内式である。石器は横刃形石器1点、凹石1点の2点だけである。

(遺物出土状況) 遺物量は少なく、ほとんどが床面に近い高さから出土している。

(時期) 出土土器より縄文中期中葉の藤内式期と考えられる。

(備考) 住居内に5号土坑があり、第11図1が出土している。出土遺物から5号土坑は藤内式期であり、両者とも同じ時期でなので、5号土坑は2号住居跡内の土坑で、貯蔵穴であった可能性も考えられる。

#### 3号住居跡

(位置) V-50・51・52、W-51・52グリッドに位置する。

(重複) 1号・35号土坑に切られている。

(形状) 住居の立ち上がりが西側でしか確認できなかったため、はっきりとは言えないが、おそらく円形であろう。

(規模) 北側約1/4が調査区外である。残存している住居壁とセクションで確認できる壁の立ち上がりで6.43mを測る。

(床面) 硬化面は確認できなかった。

(施設) 地床炉が住居中央に構築されている。地床炉内から礫が数点出土している。住居内ピットは以下のとおりである。

1 P	31.5×(10)×29.6	4 P	30.5×32×29
2 P	23×22.5×63.9	5 P	30.5×30×18.7
3 P	25.5×26×59.3		

以上のピットはどれも3号住居跡の主柱穴である。おそらく調査区外に柱穴があり、調査区内のピットの配置から推定すると7本柱穴になるとを考えられる。

(遺物) 第8図1は藤内式である。下半部を中心に全体の約1/3が欠損している。器形は胸部が寸胴なキャリバー形である。4単位の波状口縁であり、波頂部の1つに独立した溝巻隆帯文があり、それが正面になる。それ以外は、波頂部で溝を巻く隆帯の端が口唇部に沿って伸びているが、正面向かって左側には弦状の隆帯のみが口唇部に施される。正面と裏面の溝巻隆帯文の下には右側が横に流れて溝を巻く逆U字文が施され、その周辺をバネル文で充填されている。一部に三角押文が施されている。

第9図2-34・39は藤内式、35-38は新道式であろう。26は樽形をした深鉢であり、胴部にサンショウウオ状の抽象文が施されている。

石器は打製石斧3点、横刃形石器2点、凹石1点、石皿1点である。なお、第10図42の打製石斧と43の薄片は接合するので、3号住居跡付近で打製石斧を製作あるいは再生していたことが分かる。

(遺物出土状況) 遺物量は2号住居跡と比べると多い。第8図1は住居跡覆土中から出土している。口縁部から底部にかけての破片が重なるように出土しているので、住居が埋没した後、その場所に土坑を掘り、埋めた可能性もある。

(時期) 出土土器より縄文中期中葉の藤内式期であろう。

(備考) 住居内に33-35号土坑がある。33号土坑はその南側に第10図47の石皿が土坑にかかるように伏せられていて、その住居に伴うものと考えてよいであろう。34号土坑も、柱穴との切り合いがなく、断面形態が袋状を呈しているので、おそらく3号住居跡の貯蔵穴であろう。35号土坑は柱穴4号ピットと切り合っているので、3号住居跡には伴わないであろう。35号土坑の遺構プランを確認したとき4号ピットは確認できなかったので、35号土坑が4号ピットを切っており、3号住居跡より新しいと考えられる。

#### 5号土坑

(位置) V-49グリッド。(重複) 2号住居跡内に含まれる。(形状) ほぼ円形である。(規模) 長径0.86m、短径

0.705m、深さ0.173~0.243mである。(遺物)第11図1。パネル文を施された藤内式の底部である。(時期)出土土器より縄文時代中期中葉の藤内式期である。(備考)2号住居跡と同じ藤内式期なので、2号住居跡の貯蔵穴であった可能性がある。

### 23号土坑

(位置)X—49・50グリッド。(重複)なし。(形状)ほぼ円形を呈する。(規模)長径(0.86)m、短径(0.79)m、深さ0.37~0.42mである。(遺物)出土していない。(時期)おそらく縄文時代であろう。(備考)図示しなかつたが、土坑の断面形状がやや袋状を呈していたため、縄文時代のものと判断した。

### 33号土坑

(位置)W—51グリッド。(重複)3号住居内にある。(形状)不整格円形をしている。(規模)長径0.88m、短径0.69m、深さ0.11mである。(遺物)出土していない。(時期)おそらく縄文時代と考えられる。(備考)土坑の南壁の外側で、第10図47の石皿が伏せられた状態で出土している。

### 34号土坑

(位置)V—51グリッド。(重複)3号住居内にある。(形状)ほぼ円形である。(規模)長径0.49m、短径0.5m、深さ0.48~0.502mを測る。(遺物)出土していない。(時期)おそらく縄文時代と考えられる。(備考)3号住居跡内にあり、土坑の断面形状が袋状を呈しているので、3号住居跡の貯蔵穴であった可能性がある。

### 35号土坑

(位置)W—51グリッド。(重複)3号住居内にある。3号住居跡の4号ピットを切っている。(形状)ほぼ円形である。(規模)長径0.69m、短径0.61m、深さ0.43mを測る。(遺物)出土していない。(時期)おそらく縄文時代と考えられる。(備考)土坑の断面形状が袋状を呈しているので、貯蔵穴であった可能性がある。3号住居跡の4号ピットを切っているので、3号住居跡が廃絶された後、作られたものであろう。

### 遺構外出土遺物

第11・12・13図2~69。縄文時代の遺構以外から出土した縄文時代遺物をまとめた。土器はほとんど縄文中期中葉の藤内式である。図示した石器は打製石斧3点、横刃形石器1点、磨石1点、棒状礫1点、黒曜石原石3点である。棒状礫はハンマーとして使用されたかもしれない。

い。黒曜石原石はすべて1号溝から出土している。

## 第2節 平安時代

### 1号住居跡

(位置)U—47、V—47・48グリッドに位置する。

(重複)なし。

(形状)約1/3が調査区外なので、全体の形態は不明であるが、おそらく長方形であろう。

(規模)長径5.29m、短径(2.815)m、深さ0.264~0.0392mを測る。

(床面)カマド前面から中央部にかけて少し硬化している。

(施設)東壁にカマドが焼かれ、カマド南脇の住居南東隅に貯蔵穴がある。カマドは袖部が残っておらず、上部に数個の礫が出土している。住居内ピットは以下のとおりである。

1 P	86.5×65×30.3	8 P	98.5×73.5×21
2 P	34×26×29.7	9 P	22.5×20.5×6.8
3 P	17×14.5×18.2	10 P	19×15.5×23.7
4 P	31×(24)×16.1	11 P	57×(39)×28.9
5 P	18.5×16×42.5	12 P	31×26.5×27.2
6 P	(50.5)×50.5×16	13 P	36.5×28×30.4
7 P	37.5×33×27.4		

なお、南壁の中央にピットが2つ並んで発見されている。ここが入り口部として、階段のような施設が作られていた可能性もある。

(遺物)第18・19図。1は甲斐型壺で内面が黒色処理されている。2~7は黒色土器で、3の体部外面には「春」という刻画がある。8~20は須恵器、21は陶器で22は灰陶器である。23~48は甲斐型甕で、中でも38~41は小型のものである。各土器の詳細は第4表に譲る。

(遺物出土状況)第15・16図。出土土器のほとんどが土器であり、その中でも甲斐型甕の出土が圧倒的である。黒色土器・須恵器・陶器はその順に出土量が少なくなっている。住居における土器の出土状況は、カマド周辺から住居南側にかけて多数出土している。出土レベルをみると、床面から覆土上層まで間隔を開けず出土している。土器では甲斐型甕が圧倒的で、カマド周辺に多い。甲斐型壺は小片ばかりで、図示出来るものはほとんどなかった。黒色土器は全部が壺で、カマド周辺および住居南側に多く出土している。須恵器は甕・壺が同じくらい出土しており、カマドからやや離れた場所からの出土が多い。

(時期)住居内から出土した甲斐型壺小片のほとんどに暗文が施されておらず、また、口縁部の玉縁化が進んで

いるものが多いので、甲斐型土器編年XI～XIII期と考えられる。

#### 4号住居跡

(位置) X-54グリッドにある。

(重複) 11、12-1、12-2、18-1、18-2号土坑に切られている。

(形状) 東壁以外は搅乱を受けている。調査区外であつたりして、全体の形状は不明である。

(規模) 残存長(2.81)m、残存幅(2.43)m、深さ0.344m。

(床面) カマドの全面が少し硬化している。

(施設) カマドが東壁に構築されている。しかし、11号土坑により北側半分が壊されており、南側の袖部しか残っていないかった。袖七と縦で構築されている。住居内ビットは以下のとおりである。

1 P	34.5×30×5.3	5 P	20.5×(12)×7.3
2 P	29×21.5×6.6	6 P	(21.5)×31×5.2
3 P	31.5×21×7	7 P	(35)×(43)×10.9
4 P	25×23.5×21.1		

(遺物) 第22図。1～5は甲斐型壺で、6は甲斐型皿である。1・2・6は暗文が施され、3～5は暗文がない。3・4は暗文がなくXI期の甲斐型壺とも考えられるが、器形は底部が大きく体部の立ち上がりがややきつて古い様相を呈しているので、そちらを重視してⅧ期と考えたい。7は甲斐型甕、13～21は黒色土器である。14・17・18は高台壺、21は蓋である。22～26・28・29は須恵器で、27は土師器蓋のつまみ部である。各土器の詳細は第4表に譲る。

(遺物出土状況) 第21図。カマドを含め東壁が、中世の土坑に壊されてしまったので、カマド周辺からの土器の出土は少なく、住居中央に多い。土師器・黒色土器・須恵器・陶器の順で出土量は多いが、1号住居跡と比べると、土師器の割合が低く、黒色土器とあまり変わらないようである。土師器の中では甕と壺がほぼ同じ割合で出土し、甕はカマド周辺に多く、壺は住居中央に多い。黒色土器はほとんどが壺であり、住居中央に多い。須恵器は甕と壺がほぼ同じくらいの量で、住居中央の床面に近い高さから出土している。

(時期) 第22図3・4は甲斐型土器編年Ⅶ期であるが、1・2はIX期である。出土状況も3・4が1・2より下にあるように見えるが、搅乱が多く確實ではない。よって、住居の時期は幅を持たせてⅦ～Ⅸ期としておく。灰釉陶器片は出土しておらず、古い様相であると言える。

#### 5号住居跡

(位置) V-48・49、W-48・49グリッドに位置する。

(重複) 37号土坑と重複している。

(形状) ほぼ長方形

(規模) 長径4.54m、短径3.61m、深さ0.319～0.57mである。

(床面) 南半分が硬化している。特にカマド全面が硬化の度合いが強い。

(施設) 東壁南寄りにカマドが構築されている。カマドに天井石はなかったが、左右の袖石は残っており、礫と粘土で構築されている。カマド中央には支脚石が立ったままの状態で残っていた。煙道は住居の壁からわずかに外に張り出すぐらいで短い。カマドの南脇の住居跡南東隅に貯蔵穴が作られている。住居内ビットは以下のとおりである。

1 P	28×26×5.8	3 P	(35)×31.5×21
2 P	107×63×29.2	4 P	37.5×31×18.4

なお、1号住居跡と同様に南壁に2つのビットが並んで発見されている。入り口施設に付属するものと考えられる。

(遺物) 第27・28図。2～8は甲斐型壺、9・10は甲斐型皿、11～17は甲斐型甕、18はロクロ甕、19は土師器甕、20～31は黒色土器である。28は高台付皿で、底部外面に「×」の刻書がある。刻書は土器を焼成する前に付けている。32～40はロクロ甕、41～47・49は須恵器、50は鉄滓である。48は灰釉陶器の高台付壺で、高台の形態から黒塗90号窯式の第2段階とを考えられる(斎藤2000)。その段階は年代で言うと860～880年である。第24図1は偏平な甕である。表面は赤化しており、また煤が付着している。カマドの前面に置かれていたので、調理時に使用されていたであろう。各土器の詳細は第4表に譲る。

(遺物出土状況) 第25・26図。1号・4号住居跡と同じく土師器・黒色土器・須恵器・陶器の順に出土量が多い。土師器は甕が多く、カマド周辺からの出土が多い。黒色土器は壺がほとんどで、同じくカマド周辺に多く出土している。須恵器・陶器は甕多く、南北隅に多く出土する。

遺物の出土レベルをみると、床面近くからの出土遺物群と覆土上層出土遺物群との間に多少の間隔があり、住居跡が埋没する課程で、土器の廃棄に時間差があると考えられる。しかし、上層と下層で接合例があるので、一概に言えない。なお、下層の方が実測可能な遺物が多く出土している傾向がある。

(時期) 第27図1～4より甲斐型土器編年Ⅹ期である。また、48の灰釉陶器高台付壺もほぼ同じ年代である。

### 第3節 中世 墓坑

#### 7号土坑

(位置) X—52グリッド。(重複)なし。(形状)不整円形を呈する。(規模)長径1.185m、短径0.93m、深さ0.593~0.768mを計る。(遺物)底部近くから人骨片と歯が出土し、鑑定結果より壮年(20~30才台)前半の歯である。(時期)この土坑からは時期決定できる遺物が出土していないが、周辺の土坑と合わせて考えると、中世であろう。(備考)人骨が出土しているので、墓坑である。

#### 11号土坑

(位置) X—53・54グリッド。(重複)4号住居跡を切っており、カマドを壊している。(形状)楕円形を呈する。(規模)長径0.78m、短径0.57m、深さ0.58~0.734mである。(遺物)平安時代の甲斐型鏡片数点と古銭3点と歯が出土している。古銭は第38図59・60であり、1点は鎌で錢貨名が確認できなかった。歯は鑑定結果より小児(10才前後)のものである。(時期)古銭が出土しているので中世であろう。(備考)歯が出土しているので墓坑である。

#### 12-1号土坑

(位置) X—54グリッド。(重複)12-2号土坑を切っている。(形状)円形である。(規模)長径0.53m、短径(0.48)m、深さ0.19~0.28mを計る。(遺物)古銭6点と平安時代の甲斐型鏡と黒色環の小片が出土している。古銭は第38図61・62・63・64である。残りの2点は錢貨名が確認できなかった。(時期)古銭が出土しているので中世であろう。(備考)おそらく墓坑であろう。

#### 15号土坑

(位置) X—53グリッド。(重複)16号土坑を切っている。(形状)ほぼ長方形である。(規模)長径(0.88)m、短径0.74m、深さ0.427~0.589mを測る。(遺物)人骨と歯が出土している。鑑定結果より壮年女性である。(時期)土坑から時期決定できるようなものは出土していないが、周辺の土坑と合わせて考えると中世であろう。(備考)人骨が出土しているので、墓坑である。

#### 16号土坑

(位置) X—53・54グリッド。(重複)15・17号土坑に切られる。(形状)不整楕円形であろう。(規模)長径(1.18)m、短径(1.21)m、深さ0.992~1.013mを測る。(遺物)古銭6点と人骨が出土している。古銭は第38図67・68・

69・70・71であり、残りの1点は錢貨名が確認できなかった。人骨は骨粉なので、性別年齢は不明である。(時期)古銭が出土していることから中世と考えられる。(備考)人骨が出土しているので、墓坑である。長軸1.08m、短軸0.64mの不整長方形の土坑になり、その土坑の上層に20~40cm大の礫が巡らされている。15号土坑に切られている片には礫がなく、15号土坑を作るときに邪魔になつて抜き取られたのであろう。また、その礫はどれも土坑中心側に落ち込むように傾いており、遺体を入れていた棺が腐って崩れ、その中の隙間に上の土が入り込み、その上にあった礫も一緒に沈み込んでいったのであろう。

#### 17号土坑

(位置) X—53グリッド。(重複)16号土坑を切っている。(形状)楕円形である。(規模)長径0.59m、短径(0.43)m、深さ0.57~0.63mである。(遺物)なし。(時期)この土坑から時期決定できるようなものは出土していないが、周辺の土坑と合わせて考えると中世と考えられる。(備考)土坑の上部に10~30cm大の礫が蓋をするかのように置かれている。おそらく墓坑であろう。

#### 18-1号土坑

(位置) X—54グリッド。(重複)18-2号土坑を切っている。(形状)ほぼ長方形を呈する。(規模)長径0.78m、短径(0.425)m、深さ0.42~0.761mを計る。(遺物)かわらけは第38図54・55、古銭は第38図72・73・74・75である。人骨は頭蓋骨および大腿骨等が残っており、北枕臥屈身状態で埋葬されていた。鑑定結果より壮年男性である。遺体の上部に蓋をするように10~30cm大の礫が覆っており、中央がくぼんだ状態で出土しているので、おそらく棺に入れられて埋葬されたと思われる。足の周辺から古銭が出土している。かわらけは土坑の西壁付近から2枚隣接して出土している。(時期)出土したかわらけから中世・16世紀前半と考えられる。(備考)人骨が出土しているので、墓坑である。土坑に蓋をするように10~30cm大の礫が覆っている。一番上に五輪塔の水輪が置かれている。

#### 18-2号土坑

(位置) X—54グリッド。(重複)18-1号土坑に切られている。(形状)ほぼ長方形である。(規模)長径1.1m、短径0.55m、深さ0.669~0.73mを測る。(遺物)古銭と人骨が出土している。人骨は頭蓋骨が確認できた。北枕臥屈身状態で埋葬されていた。鑑定結果より壮年前半

男性である。古銭はどれも銘で銭貨名が確認できなかつた。(時期)古銭が出土しているので中世と考えられ、18-1号土坑に切られているので、16世紀前半以前であろう。

(備考)人骨が出土しているので墓坑である。18-1号土坑と同じく土坑に20~50cm大の礫が覆われているが、東側は18-1号土坑によって壊されているため、一部礫が抜き取られている。

#### 19号土坑

(位置)X-53グリッド。(重複)2号五輪塔集中地点とわずかに重なる。(形状)不整規円形を呈する。(規模)長径0.71m、短径0.49m、深さ0.645~0.81mである。(遺物)底部付近から古銭が3点(第38図76・77・78)出土している。(時期)古銭が出土しているので中世と考えられる。(備考)おそらく墓坑であろう。

#### 22号土坑

(位置)X-54グリッド。(重複)11号土坑と接する。(形状)横円形である。(規模)長径0.63m、短径0.44m、深さ0.404~0.448mである。(遺物)五輪塔の地輪2点が土坑上部に蓋をするように置かれていた。墨書きされている文字は判読不明である。(時期)土坑上部であるが、五輪塔を伴うので中世と考えられる。(備考)おそらく墓坑であろう。

### 火葬墓または火葬施設

#### 8号土坑

(位置)X-53・54グリッド。(重複)なし。(形状)ほぼ円形を呈する。(規模)長径0.95m、短径0.9m、深さ0.033~0.079mを測る。(遺物)人骨の小片が散在していた。(時期)時期決定できる遺物が出土していないが、周辺の土坑と合わせて考えると中世であろう。(備考)5~30cm大の礫が密集している。煤の付着している礫が数点見られ、人骨片が散らばっているので、遺体を焼いた火葬施設と考えられる。

#### 13号土坑

(位置)W-53・54グリッド。(重複)なし。(形状)おそらく円形であろう。(規模)長径(0.69)m、短径(0.61)m、深さ0.05~0.09mである。(遺物)人骨片・歯と古銭が2点出土している。人骨片は細かく分割されており、部位を特定することはできなかった。(時期)古銭が出土しているので、中世と考えられる。(備考)土坑の場方は平面では確認することができず、土層断面で確認した。第30図の平面の輪郭は推定である。また、土坑底部の中

央部にわずかながら焼土が確認された。人骨片も細かいので、8号土坑と同じように火葬施設であった可能性がある。

#### 1号五輪塔集中出土地点

(位置)W-53・54グリッド。

(重複)32号土坑と一部重なる。

(形状)五輪塔の各部がほぼ直線状に2列に並んでいる。

(規模)長軸1.9m、短軸0.7mを測る。

(遺物)五輪塔が21点出土している。その内訳は空風輪7点、火輪3点、水輪4点、地輪7点である。第37図43は、1面に中央の梵字と思われる文字の両側に文字が書かれているが判読不明である。

(時期)五輪塔の形態から16世紀前半以降に集められたと考えられる。

(備考)五輪塔が土坑の覆土の上部に配置されている事例が数遺跡で確認されているが、本遺跡の五輪塔集中地点は土坑とは一部重なるものの、一致はしない。また、等高線と沿うように並べられていて、周辺の墓と考えられる土坑の近くに建立されていた五輪塔が崩れ、その状態が忍びなく思った人たちが、再び五輪塔を集めて並べ直したのではないかであろうか。

#### 2号五輪塔集中出土地点

(位置)W-53・X-53グリッド。

(重複)19号土坑と21号土坑とが一部で重なる。

(形状)不整な円形を呈する。

(規模)長軸1.5m短軸0.9mを測る。

(遺物)五輪塔が16点出土している。その内訳は空風輪3点、火輪6点、水輪6点、地輪1点である。また、第38図56の灰釉陶器の小型端反皿が出土している。釉薬が溜まって少し分かりづらいが、みこみ部に印花文が確認できる。形態及び法量が、瀬戸大窯I期の小金山窯出土のものとほぼ同じである(瀬戸市史編纂委員会1981)。小金山窯は15世紀末の操業と考えられているので、五輪塔の時期と合っている。

(時期)五輪塔の形態から16世紀前半以降に集められたと考えられる。

(備考)1号五輪塔集中地点と同様に土坑と重ならない点を考慮すると、崩れていた五輪塔を再び集めたと考えられる。そして、灰釉陶器の端反皿にお供えをのせ供養したのであろう。

#### 五輪塔散在地点

(位置)V-53・W-53グリッド。

(重複) 2号ピットと一部重なる。

(形状) 不定形である。

(規模) 長軸2.8m短軸1.8mの範囲で五輪塔が散らばっている。

(遺物) 五輪塔が9点出土している。その内訳は空風輪3点、火輪5点、木輪1点である。第34図1の空風輪には「妙法」と4面に墨書きされている。

(時期) 五輪塔の形態から16世紀前半以降と考えられる。

(備考) 五輪塔の形態が15世紀後半～16世紀前半にかけてのものが主体であること、五輪塔のセット関係が認められないこと、墓坑と重ならないことなど、1・2号五輪塔集中地点と共通している点が多いので、おそらく1・2号五輪塔集中地点のように集められていたのだが、ここだけ何らかの影響で散らばってしまったと考えられる。

#### 第4節 時期不明遺構

##### 1号堅穴状遺構

(位置) V-47・48、X-48グリッド。(重複)なし。(形状)全体の1/3しか調査できなかったので、形態は不明である。(規模)長径(4.87)m、短径(1.405)m、深さ0.214～0.347mである。(遺物)平安時代の土師器片と中世の内耳土器片が数点出土している。(備考)遺構内ピットは(63.5)cm×(30.5)cm×10.2cmである。

##### 1号溝

(位置) V-52、W-52・53グリッド。(重複)なし。(形状)やや弧を描くように曲がっている。(規模)調査した長さ6.6m、幅(北端)1.06m、(中央)1.29m、(南端)0.55m、深さ(北端)0.298m、(中央)0.291m、(南端)0.14mである。(遺物)平安時代の土師器片数点と黒曜石の原石が3点出土している。

##### 土坑・ピット

###### 1号土坑

(位置) V-52グリッド。(重複)3号住居跡を切っている。(形状)横円形と思われる。(規模)長径(0.84)m、短径(0.97)m、深さ0.334～0.926mを測る。(遺物)なし。

###### 2号土坑

(位置) V・W-52グリッド。(重複)なし。(形状)ほぼ円形である。(規模)長径1.45m、短径0.94m、深さ0.177～0.234mを測る。(遺物)土師器片1点(備考)土師器は流れ込みの可能性がある。

###### 3号土坑

(位置) W-52グリッド。(重複)なし。(形状)円形である。(規模)長径1.325m、短径1.13m、深さ0.34～0.415mを測る。(遺物)縄文土器片と黒色土器片の計3点が出土している。(備考)出土遺物から時期決定は難しい。

###### 4号土坑

(位置) W-53・54グリッド。(重複)なし。(形状)不整な椭円形を呈している。(規模)長径1.925m、短径1.125m、深さ0.102～0.161mを測る。(遺物)なし。

###### 5号土坑

(位置) X-52グリッド。(重複)なし。(形状)楕円形である。(規模)長径0.685m、短径0.485m、深さ0.215～0.244mを測る。(遺物)礫が底部中央に置かれていた。土師器片1点出土。

###### 9号土坑

(位置) X-52グリッド。(重複)なし。(形状)ほぼ横円形である。(規模)長径0.74m、短径(0.41)m、深さ0.168～0.192mを測る。(遺物)礫2点が出土。

###### 10号土坑

(位置) X-52グリッド。(重複)なし。(形状)ほぼ横円形である。(規模)長径0.56m、短径(0.38)m、深さ0.175～0.183mを測る。(遺物)礫が数点出土。

###### 14号土坑

(位置) X-53グリッド。(重複)29号土坑を切っている。(形状)不整な横円形である。(規模)長径0.94m、短径(0.60)m、深さ0.126～0.244mを測る。(遺物)礫が1点出土している。

###### 21号土坑

(位置) W-53グリッド。(重複)なし。(形状)不整な横円形である。(規模)長径0.87m、短径0.70m、深さ0.197～0.425mを測る。(遺物)礫が4点出土している。

###### 30号土坑

(位置) X-53グリッド。(重複)なし。(形状)不整な円形である。(規模)長径0.715m、短径0.695m、深さ0.049～0.183mを測る。(遺物)礫が3点出土している。

## 第4章 遺構・遺物の検討

### 第1節 繩文時代

繩文時代の遺構は、中期中葉藤内式期の住居跡が2軒発見された。どちらも地床炉で、住居跡の一部が調査区外なのではっきりと分からぬが、2号住居跡が6本、3号住居跡が7本の柱穴を持つと思われる。

3号住居跡からは、第8図1の土器が口縁部と底部を重ね合わせた状態で出土している。床面近くからではなく覆土中からの出土であるので、住居廃絶後に置かれたか、あるいはここに土坑が存在していた可能性もある。

調査区の繩文時代遺物の出土状況を見ると（第42図参照）、3号住居跡周辺に多く出土している傾向があるが、平安時代の住居跡である1・5号住居跡からも多く出土している。第2次調査（第1次調査の東側）でも繩文土器が出土しているが遺構は確認されていないので、おそらく調査区の北側に繩文中期の集落が展開しているであろう。時期は猪沢式・新道式が少景で、ほとんどが藤内式であるので、調査区付近では、中期中葉の藤内式期を中心とした比較的の短期間にかつ小規模に営まれた集落であると考えられる。

石器は、打製石斧・横刃形石器・磨石・石皿といった大型の石器は発見されているが、石錐や石匙といった小型の石器は発見されなかった。調査区に限りがあり、今回の調査区ではたまたま発見されなかっただけであろうが、中期中葉では打製石斧が石器組成の8~9割近く占める場合が多く、小型石器が少なくておかしくはない。黒曜石の原石や黒曜石片は出土しているので小型石器がないとは考えられないが、大型の石器よりは数多く製作していなかったのであろう。

### 第2節 平安時代

発見された住居跡は3軒であり、幅約10mという道路予定地の調査区なので、住居跡の全部を調査できたのは5号住居跡だけである。住居跡の時期は、甲斐型土器編年でVIII~IX期に4号住居跡、X期に5号住居跡、XI~XII期に1号住居跡がそれぞれ当てはまる。第2次調査と合わせると、IX期に1次4号住、2次1・8号住の3軒、X期に1次5号住、2次3・6号住、小鍛冶遺構の4軒、XI期に1次1号住、2次2・4・5号住の4軒と変遷していく。（1次4号住はVII~IX期であるが、2次1・8号住と重なる時期があるので、便宜上IX期としておく。）

X期の1次5号住居跡から黒帯90号窓式（以下K90）の灰釉陶器高台付环（48）が出土しているが、2次調査ではXI期の4・5号住居跡からK90段階の灰釉陶器が出

土しており、時期的にズレが生じている。1次5号住の48は住居覆土の上層から出土しているので、住居埋没後流れ込んだ可能性もある。

1次と2次を合わせた調査区における集落の位置はほとんど変化せず、調査区中央から西側にかけて展開している。軒数も激しく増減しておらず、出現から消滅までの間、比較的安定した集落が営まれていたと考えられる。八ヶ岳南麓の平安時代遺跡は9世紀後半になり集落が急増し、10世紀後半に衰退していくが、本遺跡も同じような傾向がある。

### 第3節 中世

調査区の西端において、中世の墓坑群が発見され、五輪塔・かわらけ・灰釉陶器小型端反皿・古錢等が出土した。各遺物の時期は、五輪塔は15世紀~16世紀前半で、18-1号土坑から出土したかわらけは16世紀前半、2号五輪塔集中地点から出土した灰釉陶器小型端反皿は15世紀末であろう。おそらく墓坑群は、五輪塔の時期である15世紀~16世紀前半に作られたのだろう。

五輪塔は全部で53点出土している。五輪塔集中地点が2箇所、散在地点が1箇所で、五輪塔の内訳は、空風輪が15点、火輪が15点、水輪が12点、地輪が11点である。五輪塔の形態は鷹原氏の分類（鷹原2000）でいうと空風輪はC・D類が、火輪はD・E類が、水輪はB・C類が、地輪はB・C類がそれぞれ多い。この組み合わせは15世紀~16世紀前半に多いようである。

墓坑の形態を見ると以下の4つに分類できる。

A. 囲丸長方形で礫の覆いのないもの（7・15号土坑）

B. 囲丸長方形で礫の覆いがあるものの（16・18-1・18-2号土坑）

C. 小さな円形で礫の覆いがないもの（11・12-1・19号土坑）

D. 小さな円形で礫の覆いがあるもの（17-22号土坑）

A・B類は15世紀から17世紀にかけて多く作られるようであり（野代2000b）、16世紀前半と考えられる18-1号土坑の時期と重なる。また、7・15・18-1・18-2号土坑から出土した人骨は、全て壮年期（20~30才台）である。そして、A類の15号土坑は女性の、B類の18-1・18-2号土坑は男性の人骨である。資料数が1・2例と少なく断定はできないが、A類が成人女性用の、B類が成人男性用の埋葬形態である可能性もある。

C・D類の小さな円形のものは、長軸が50~60cmで桶を入れるほど大きくはなく、18~19世紀に多い桶を入れたと考えられる円形の墓坑とは一線を画すものであろう。11号土坑から歯が出土しているのみで、他の土坑からは

人骨や歯が出土していないが、古銭や五輪塔が出土しているので墓坑と考えてもいいであろう。その11号土坑の歯は小児（10才前後）のものであることから、C・D類は小児用で、A・B類の違いが妥当であるならば、C類が女児用、D類が男児用の埋葬形態の可能性がある。

第2次調査で発見された方形竪穴状遺構は14世紀末～15世紀代である（宮澤2000）。方形竪穴状遺構の密集する範囲のすぐ西側に区画の溝があり、約60mの空白地帯を挟み墓坑群が台地縁辺に作られている。墓坑群は15世紀に出現していたと考えられるので、14世紀末に方形竪穴状遺構が台地の中央に作られ、やや遅れて西側の台地縁辺に墓域を作っていたのである。溝で区画された方形竪穴状遺構は屋敷跡と考えられ、墓坑群はそこや周辺に住む人々の墓域であると考えられる。造墓階層は武士や僧侶などが当てはまるが、18-1・18-2号土坑から出土した人骨の鑑定結果から、埋葬された人は僧侶と考えられる（附図参照）。それをもって屋敷跡が寺院の一部であるとは言えないが、少なくとも遺跡内及び周辺に寺院跡が存在している可能性がある。遺跡の所在する長坂下条地区は、時期は不明であるが三井氏館跡・相吉氏屋敷・上松（植松）氏屋敷等の屋敷跡が多く存在するので、15世紀代からこの周辺に寺院を伴う集落があつてもおかしくはないであろう。

#### 第4節まとめ

今回の調査では繩文中期中葉の集落、平安時代の集落、中世の墓地が発見された。第2次調査の成果と合わせると、平安時代の集落の変遷、中世の集落の構造等が見えつつある。また、県道を挟んで東側にある龍角西遺跡の調査も合わせると平安時代・中世の集落の様相が、一段と見えてくるであろう。

#### 引用・参考文献

- 大山 柏・竹下次作・井出佐重 1941「山梨県日野春村長坂上条発掘調査報告」『史前学雑誌』13-3  
史前学会
- 瀬戸市史編纂委員会 1981「瀬戸市史」陶磁史篇二 第一法規出版株式会社
- 宮沢公雄 1986「清水端遺跡」明野村教育委員会
- 萩原三雄 1986「八ヶ岳南麓における平安集落の展開」『山梨考古学論集Ⅰ』山梨県考古学協会
- 長坂町誌編纂委員会 1990「長坂町誌」上巻 長坂町  
岡本範之 1990「平安期における甲斐国巨麻郡の動向」『山梨考古学協会誌』第3号 山梨県考古学協会

- 平野 修・櫛原功一 1992「宮ノ前遺跡」韮崎市遺跡調査会
- 甲斐型土器研究グループ 1992「甲斐型土器 一その編年と年代ー」山梨県考古学協会
- 森原明廣 1992「塙川遺跡」山梨県教育委員会
- 山本茂樹・野代幸和 1994「甲ッ原遺跡（第5次）Ⅰ」山梨県教育委員会
- 永井久美男編 1994「中世の出土銭 一出土銭の調査と分類ー」兵庫埋蔵銭調査会
- 永井久美男編 1996「中世の出土銭 補遺Ⅰ」兵庫埋蔵銭調査会
- 石神孝子 1996「唐松遺跡」山梨県教育委員会
- 小宮山隆 1996「北村遺跡」長坂町教育委員会
- 小宮山隆 1997「小屋敷遺跡」長坂町教育委員会
- 櫛原功一 1997「社口遺跡第3次調査報告書」高根町教育委員会・社口遺跡発掘調査会
- 野代幸和 1997「酒呑場遺跡（第1・2次）」（遺構編）山梨県教育委員会
- 保坂康夫 1997「酒呑場遺跡（第3次）」（遺構編ー前編）山梨県教育委員会
- 保坂康夫 1998「酒呑場遺跡（第3次）」（遺構編ー後編）山梨県教育委員会
- 山梨県考古学協会編 1998「新版 山梨の遺跡」山梨県日日新聞社
- 平野 修・櫛原功一 1999「上ノ原遺跡」上ノ原遺跡発掘調査会
- 山梨県 1999「山梨県史」資料編2 原始・古代2 考古（遺構・遺物） 山梨日日新聞社
- 宮澤公雄 2000「柿屋遺跡 一第2次発掘調査報告書ー」柿屋遺跡発掘調査団
- 野代幸和 2000a「横森赤台（東下）遺跡」山梨県教育委員会
- 野代幸和 2000b「山梨県における中近世墓制の変遷」『山梨県考古学協会誌』第11号 山梨県考古学協会
- 野代幸和 2000c「横森赤台（東下）遺跡出土五輪塔の形態と製作年代について」『研究紀要』16 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
- 櫛原功一 2000「石之坪遺跡（東地区）」韮崎市教育委員会 石之坪遺跡発掘調査会
- 齊藤孝正 2000「附論 猿投窓出土の灰釉・綠釉陶器碗・皿類の変遷」『越州窯青磁と綠釉・灰釉陶器』日本の美術 No409 至文堂

## 附編 紺屋遺跡出土人骨

国立科学博物館人類研究部 梶ヶ山真里

### 1. 緒 言

紺屋遺跡は、山梨県北巨摩郡長坂町長坂下条字紺屋に所在し、平成10年12月から翌年3月にかけて、長坂町教育委員会によって発掘された。発掘調査の結果、平安時代の住居址や溝や土坑等が発見された。人骨は、中世の土坑7基と绳文時代中期の住居址（3号住）から出土した。13号土坑からは焼骨が検出され、16号土坑はいわゆる「T字型土坑」である。18号土坑から出土した人骨は、頭部を北に向いた側臥屈葬状態で2体が埋葬されている。人骨の保存状態はさほど良好ではないが、頭部と下肢骨が部分的に保存される。それ以外の土坑からの人骨はほとんどが骨片であり、保存状態が極めて不良である。齒が残っているものに関しては歯冠計測を行った。

### 2. 出土人骨所見

#### 7号土坑

歯は6点保存されている。以下の歯式の通りである。

6	5 6 7
7 6	

咬耗の程度は、象牙質が線状に露出している。従って、プロカのIIに相当し、年齢は壮年前半と思われる。性別は不明である。

#### 8号土坑

焼骨が保存されている。骨はいずれも完全に灰化し、灰白色を呈するほど良く焼かれ、大多数は小さな破片となり、収縮・変形・亀裂が著しい。したがって、これらの骨は、おおよそ900°C以上の温度で長時間焼かれたと考えられる。また、晒された状態ではなく、軟部が付着した状態で焼かれたと推定される。

#### 11号土坑

乳歯と永久歯が19点保存される。保存状態は以下の通りである。

7 6 v	1	3 4 v 6 7	5
7 6 v 4	1 1	4 5 6	ローマ数字は乳歯

カリエスなどは認められない。歯の萌出状態から、年齢は10才程度と思われる。エナメル形成不全が、第1大臼歯と切歯の歯冠のほぼ中央部に全て認められることから、幼児期において極度の栄養失調状態であったと思われる。性別に関しては不明である。

#### 13号土坑

歯が2点と焼骨が数点保存され、以下の歯式の通りである。

6	6
---	---

咬耗の程度は、エナメル質は磨り減っているが、象牙質の露出はない。したがって、年齢は比較的若い青年と思われる。焼骨は紛れ込みと思われる。

#### 15号土坑

歯が17点と大腿骨骨体片が保存される。歯の保存状態は以下の歯式の通りである。

6 5	5 6 7
7 6 5 4 3 2 1	1 4 5 6 7

咬耗程度は、象牙質が露出している。プロカのIIに相当する。下顎切歯の磨耗が舌側から唇側に斜めに磨り減っていることから錐状咬合であったことがわかる。大腿骨の左右は不明である。骨体の太さは細い。後面の粗線は隆起せず、発達は弱い。従って、この個体の性別は女性、年齢は壮年と推定される。

#### 16号土坑

骨格しか残っていない。年齢や性別は不明。

#### 18-1・18-2号土坑

頭を北に向いた側臥屈葬人骨が2体並列で出土している。合葬ではなく、西側人骨が東側人骨より先に埋葬されている。

#### 18-1号土坑（東側人骨）

頭蓋と椎骨、左大腿骨、左脛骨が保存される。頭蓋では、側頭骨骨体は大きく、乳様突起は良好に下垂している。乳突上後の発達が良好である。側頭線は破損のため不明であるが、乳突上後の発達が著しいので、咀嚼筋の発達は良好であった可能性が高い。後頭骨に外後頭隆起はないが、項平面は広く筋肉の発達が伺える。左大腿骨は骨体中央部が10cmほど保存される。骨体は部分的に腐食しているが、かろうじて骨体周（周82）は計測できた。江戸時代男性平均値（周87）よりやや小さく、現代男性平均値（周83）に近い。骨体後面粗線は隆起しているが、付柱を形成するほどではない。骨体後面の粗線は比較的明瞭に発達している。左脛骨骨体片が10cmほど保存され、骨体の内側面の腐食が進んでいる。椎骨は、軸椎と環椎が残っている。骨体に骨縫などの経年性の変

化はない。したがって、この個体の歯は残っていないが壮年期と思われる。性別は、乳様突起などの形態から男性と思われる。

#### 18-2号土坑（西側人骨）

頭蓋と骨片が保存される。頭蓋は、前頭骨の一部と左右錐体、ラムダ縫合骨で分離した後頭骨が保存される。縫合の癒合状態は、内板において閉鎖はないが、外板では一部に閉鎖が始まっている。また、左右に縫合骨がある。頭頂骨が保存されていないが、全体的に後頭部が突出するいわゆる「後頭部突出」の状態である。左右錐体は概ね大きく、頑丈な印象である。したがって、男性の可能性が高い。

歯の保存状態は以下の歯式の通りである。

3	2	1		2	3	6	7
5				1	2	3	4

咬耗は、象牙質がやや露出しているのでプロカのIIに相当する。壮年前半と推定される。

### 3. 考察・結語

当遺跡から出土した人骨は以下の表に示す通りである。

土坑番号	性別	年齢
7号土坑	不明	壮年前半
8号土坑	不明	成人
11号土坑	不明	小児(10才前後)
13号土坑	不明	青年
15号土坑	女性	壮年
16号土坑	不明	不明
18-1号土坑(東)	男性	壮年
18-2号土坑(西)	男性	壮年前半

年齢および性別が同定できたのは、18号土坑から出土した2体だけであった。2体とも壮年期(20才~30才台)の男性である。頭蓋が完全に保存されていないので、頭蓋形が中世時代の特徴といわれる長頭であるか否かは不明である。しかし、大腿骨は付柱を形成しておらず、古墳時代以降の大腿骨の特徴を示している。歯については、計測値の特徴を視覚的に把握するため、現代日本人を基準とする同時代の各遺跡出土歯と当遺跡出土歯の偏差折線を示した(グラフ1)。当遺跡出土歯のデータが少ないので、明らかに同時代の千葉県前畠遺跡や千葉県北大路遺跡と類似していることが伺える。したがって、当遺跡出土の人骨は、歯や人骨の形態から古墳時代人以降の特徴をもち、中世時代の人骨として特に矛盾がないといえる。

また、四肢骨の発達が弱いが、咀嚼筋や頸部の筋肉の

発達は良好であり、男性の特徴を示す。埋葬の際に五輪塔などが使用されていることなどを考慮すると、被葬者は筋肉の良好に発達した武士ではなく、僧侶などであった可能性が考えられる。従って、18号土坑出土の人骨に限っては、周辺の住居址にともなう庶民の墓であるとは考え難い。

甲府盆地を中心とした周辺地域から人骨が検出される例は少数で、集団としての傾向を示すには至らなかった。しかし、今回数点の歯の計測値ではあったが、同時代の関東地域の集団と類似した傾向を伺えた。今後、人骨の検出を伴う発掘例の増加に期待したい。

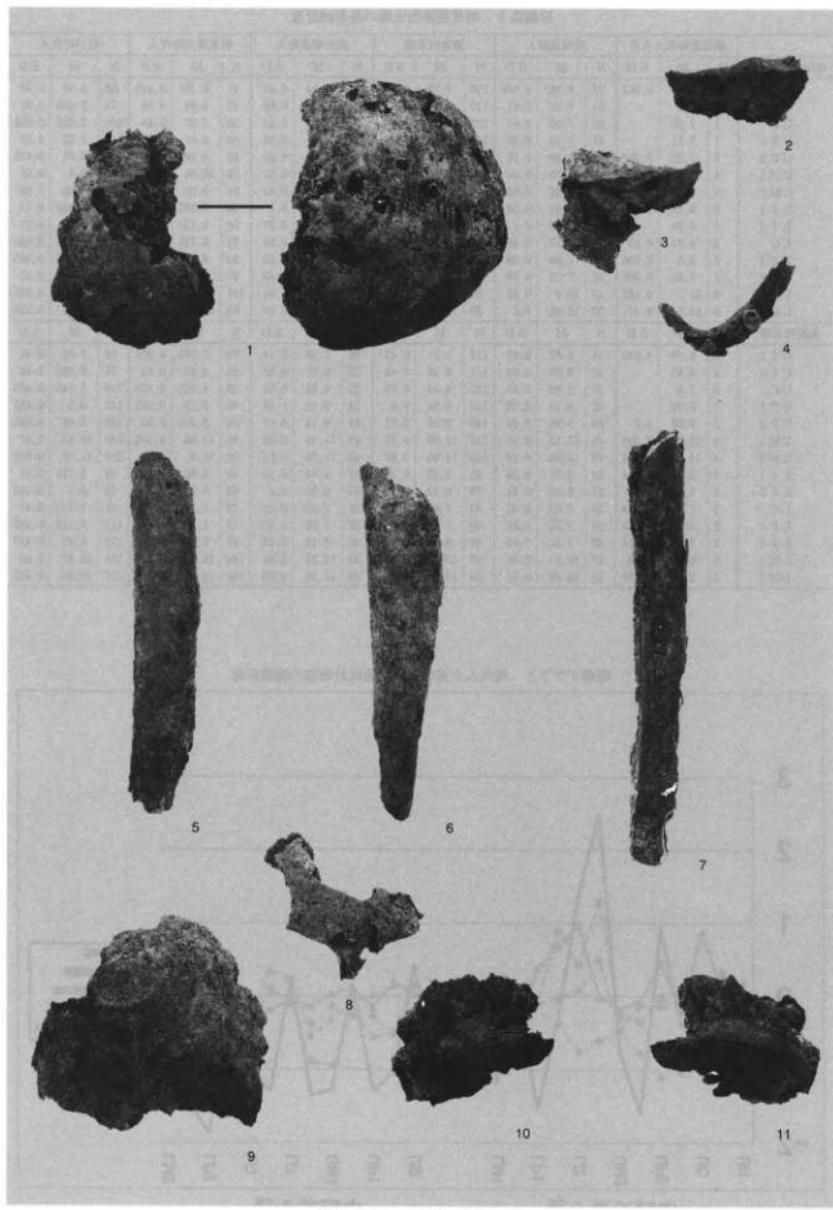
一般に、墓地などを発掘する場合、骨片しか検出されないと、発掘時やその後の過程で簡略的に取り扱われることが多い。埋葬の変遷を考察するうえでも、人骨の基礎データを得る上でも貴重な資料となるために、わずかな人骨の検出でも、慎重な取り扱いと詳細な整理報告が望まれる。

### 参考文献

- 松村博文 1995 A Microevolutional History of the Japanese People as Viewed from Dental Morphology. National Science Museum Monographs No.9  
溝口優司 1996 北大塚遺跡出土人骨について「一般国道296号国道道路改良事業埋蔵文化財調査報告書1」財團法人千葉県文化財センター  
梶ヶ山真里 2000 前畠遺跡出土人骨について 財團法人千葉県文化財センター(印刷中)

図版1 粕屋遺跡出土人骨

1 :	18-2号土坑	後頭骨
2 :	〃	右錐体
3 :	〃	左錐体
4 :	〃	下顎骨
5 :	18-1号土坑	大腿骨
6 :	〃	左脛骨
7 :	15号土坑	大腿骨
8 :	18-1号土坑	前頭骨
9 :	〃	後頭骨
10:	〃	左錐体
11:	〃	右錐体

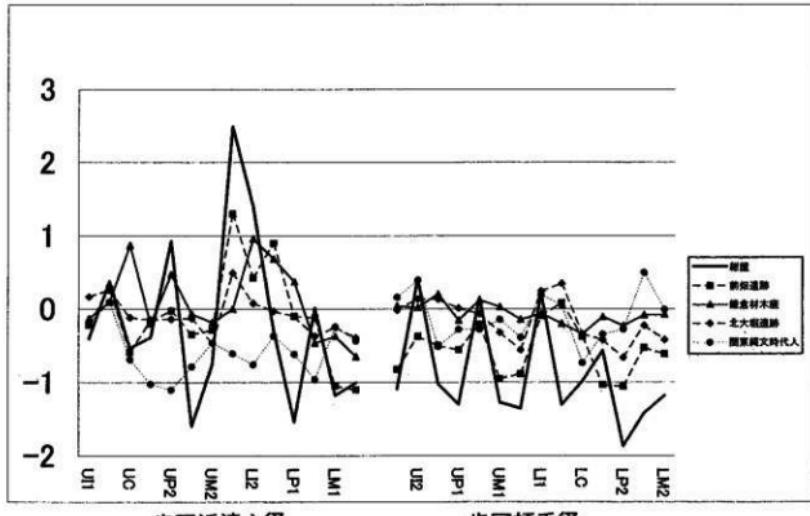


附圖版 1 葛屋遺跡出土人骨

附編表1 樹屋遺跡出土人骨の基本統計量

歯冠近遠心径	樹屋遺跡出土人骨			前畠遺跡人			無心材木座			北大廻遺跡人			関東縄文時代人			江戸時代人		
	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD
UI 1	2	8.25	0.382	35	8.345	0.589	110	8.39	0.47	24	8.54	0.43	47	8.355	0.425	58	8.58	0.49
UI 2	1	7.1		24	7.04	0.61	110	6.94	0.55	22	7.03	0.58	47	6.94	0.54	75	7.065	0.51
UC	1	7.58		36	7.56	0.64	123	8.12	0.46	36	7.74	0.43	56	7.52	0.44	106	7.805	0.465
UP 1	1	7.11		41	7.19	0.59	133	7.18	0.39	34	7.2	0.35	86	6.87	0.41	148	7.32	0.38
UP 2	2	7.35	0.332	39	6.89	0.56	139	7.13	0.4	37	6.84	0.29	96	6.38	0.45	156	6.91	0.425
UM 1	4	9.62	0.444	45	10.26	0.84	133	10.41	0.53	29	10.38	0.61	98	10.04	0.495	242	10.4	0.51
UM 2	4	9.23	0.265	37	9.46	0.63	143	9.51	0.53	41	9.37	0.61	84	9.08	0.53	206	9.68	0.56
LI 1	2	6.18	0.346	22	5.87	0.68	81	5.42	0.32	12	5.57	0.1	34	5.235	0.355	49	5.385	0.42
LI 2	1	6.26		25	6.17	0.4	68	6.38	0.375	17	6.05	0.27	50	5.735	0.35	64	6.03	0.39
LC	2	6.75	0.12	33	7.17	0.46	79	7.1	0.45	36	6.84	0.36	72	6.715	0.425	94	6.875	0.405
LP 1	2	6.5	0.106	36	7.09	0.38	86	7.27	0.36	32	7.08	0.43	90	6.82	0.385	101	7.185	0.385
LP 2	2	7.28	0.396	32	7.22	0.59	90	7.08	0.38	40	7.12	0.43	97	6.87	0.47	102	7.285	0.43
LM 1	3	11	0.481	43	10.4	0.62	88	11.36	0.49	27	11.42	0.64	101	11.43	0.47	148	11.43	0.525
LM 2	3	10.5	0.471	33	10.95	0.6	89	10.57	0.58	30	10.82	0.59	98	10.8	0.59	132	11.05	0.525
歯冠頬舌径	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD
UI 1	2	6.78	0.615	31	6.87	0.42	114	7.2	0.43	28	7.18	0.44	70	7.245	0.355	56	7.29	0.41
UI 2	1	6.63		23	6.29	0.64	112	6.46	0.45	23	6.51	0.53	58	6.62	0.47	74	6.535	0.42
UC	1	7.8		36	8.03	0.65	135	8.34	0.59	35	8.31	0.58	58	8.025	0.375	108	8.345	0.495
UP 1	1	8.79		42	9.14	0.59	133	9.34	0.6	34	9.42	0.48	85	9.28	0.505	147	9.5	0.485
UP 2	2	9.26	0.7	36	9.06	0.65	145	9.24	0.57	41	9.14	0.47	94	9.025	0.55	155	9.42	0.505
UM 1	4	10.9	0.509	40	11.11	0.97	131	11.65	0.57	41	11.46	0.52	96	11.56	0.335	240	11.63	0.57
UM 2	4	10.7	0.234	37	11.06	0.62	140	11.56	0.62	45	11.28	0.61	84	11.4	0.61	206	11.76	0.685
LI 1	2	5.83	0.134	24	5.71	0.38	65	5.72	0.38	17	5.84	0.32	48	5.82	0.31	49	5.715	0.34
LI 2	1	5.68		25	6.24	0.51	76	6.13	0.35	22	6.35	0.4	63	6.23	0.365	63	6.2	0.345
LC	2	7.4	0.084	35	7.63	0.53	83	7.65	0.53	37	7.65	0.49	72	7.495	0.39	91	7.715	0.49
LP 1	2	7.74	0.183	33	7.52	0.52	89	7.96	0.95	37	7.81	0.52	89	7.845	0.46	112	8.115	0.465
LP 2	2	7.66	1.116	33	7.51	0.63	92	8.34	0.47	40	8.16	0.43	97	8.32	0.47	112	8.49	0.435
LM 1	3	10.2	0.68	42	10.6	0.66	92	10.82	0.46	39	10.75	0.56	104	11.1	0.45	151	10.89	0.46
LM 2	3	9.76	0.537	34	10.06	0.57	88	10.34	0.55	37	10.16	0.55	100	10.38	0.485	137	10.48	0.555

附編グラフ1 現代人を基準とした歯冠計測値の偏差折線



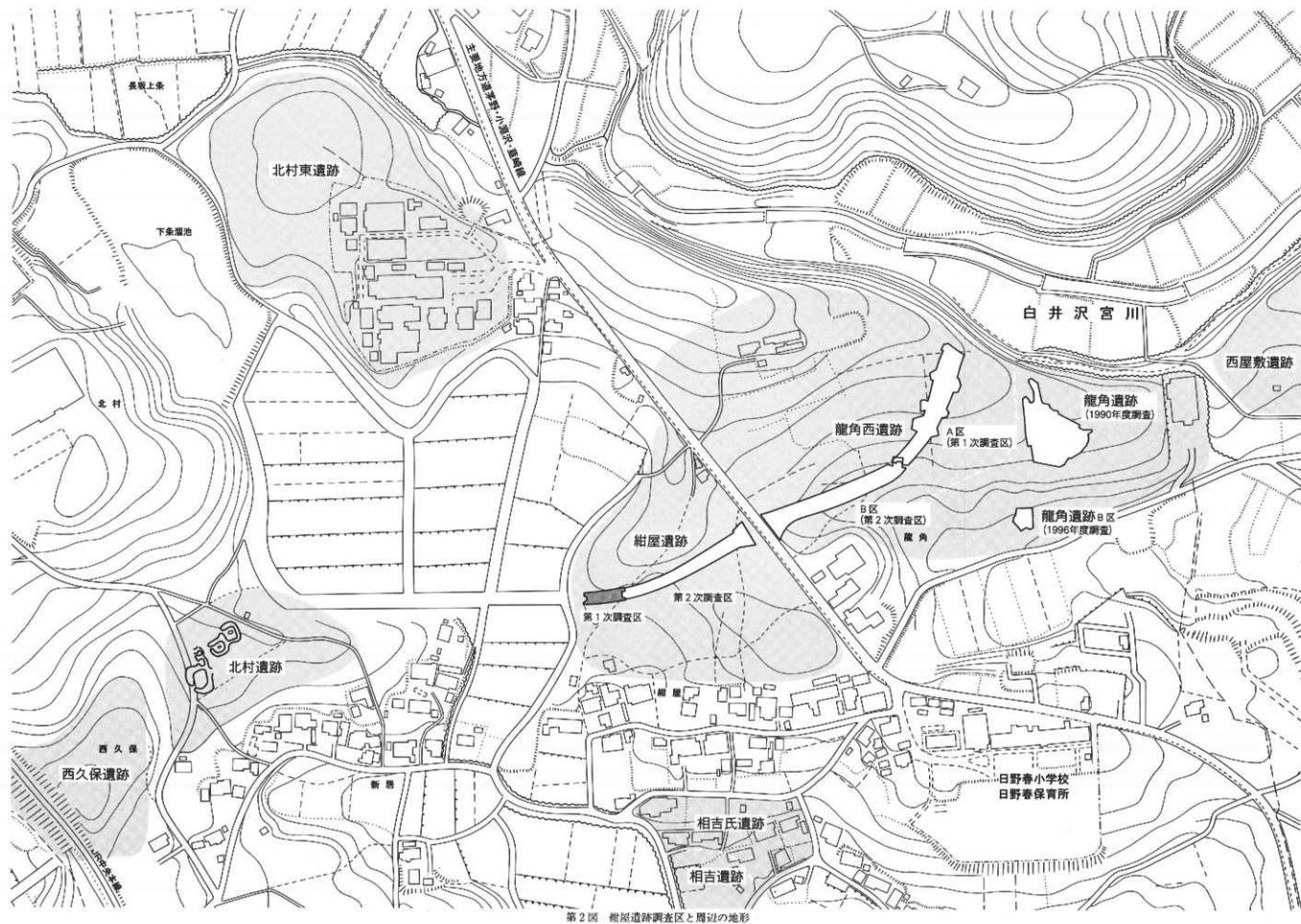


第1図 長坂町遺跡分布図

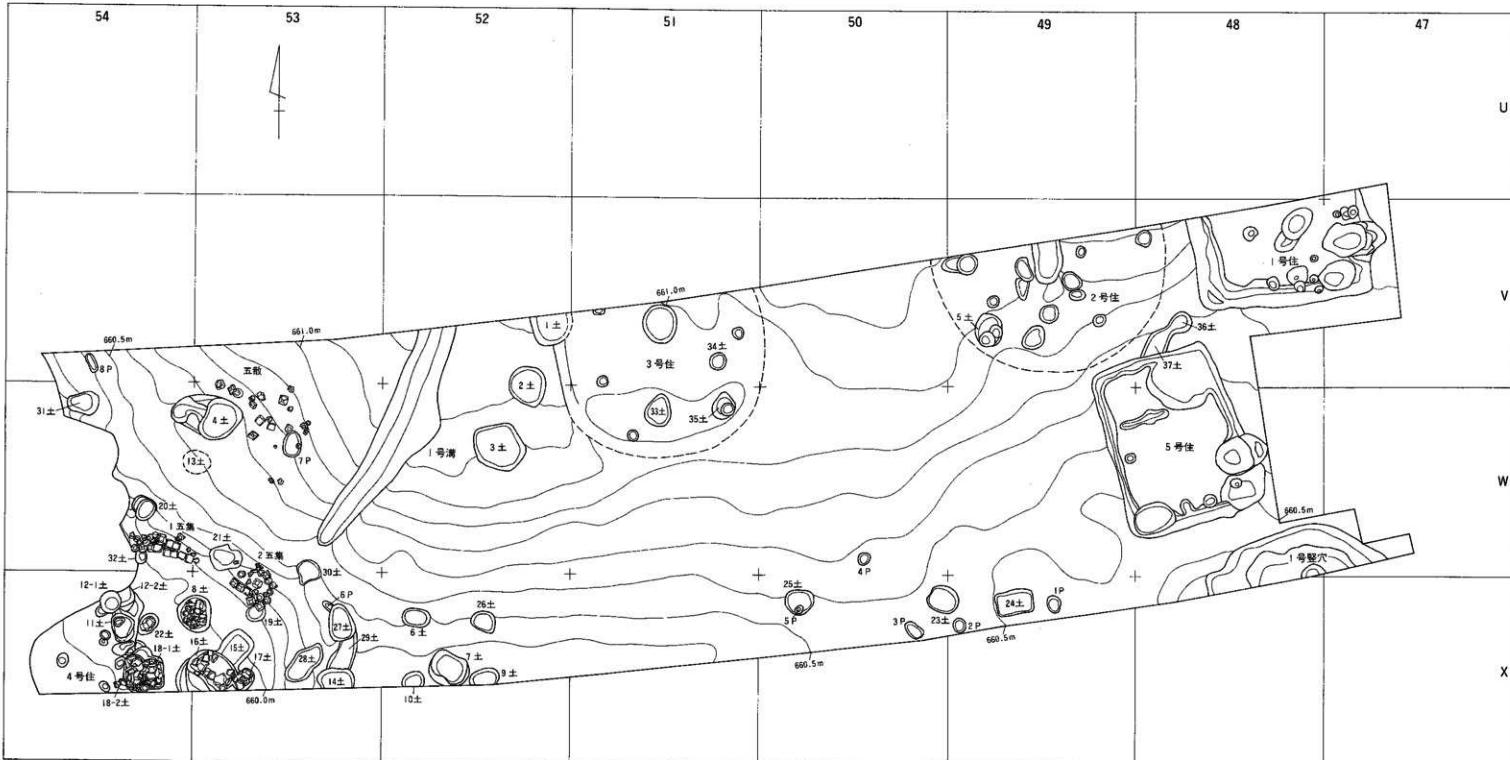
第1表 長坂町遺跡分布一覧

(括弧内 = 加古川時代 案 = 開成時代 張 = 平成時代 古 = 六朝時代 平 = 平安時代 中 = 中世 戰國 = 戰國時代 江戸 = 江戸時代)

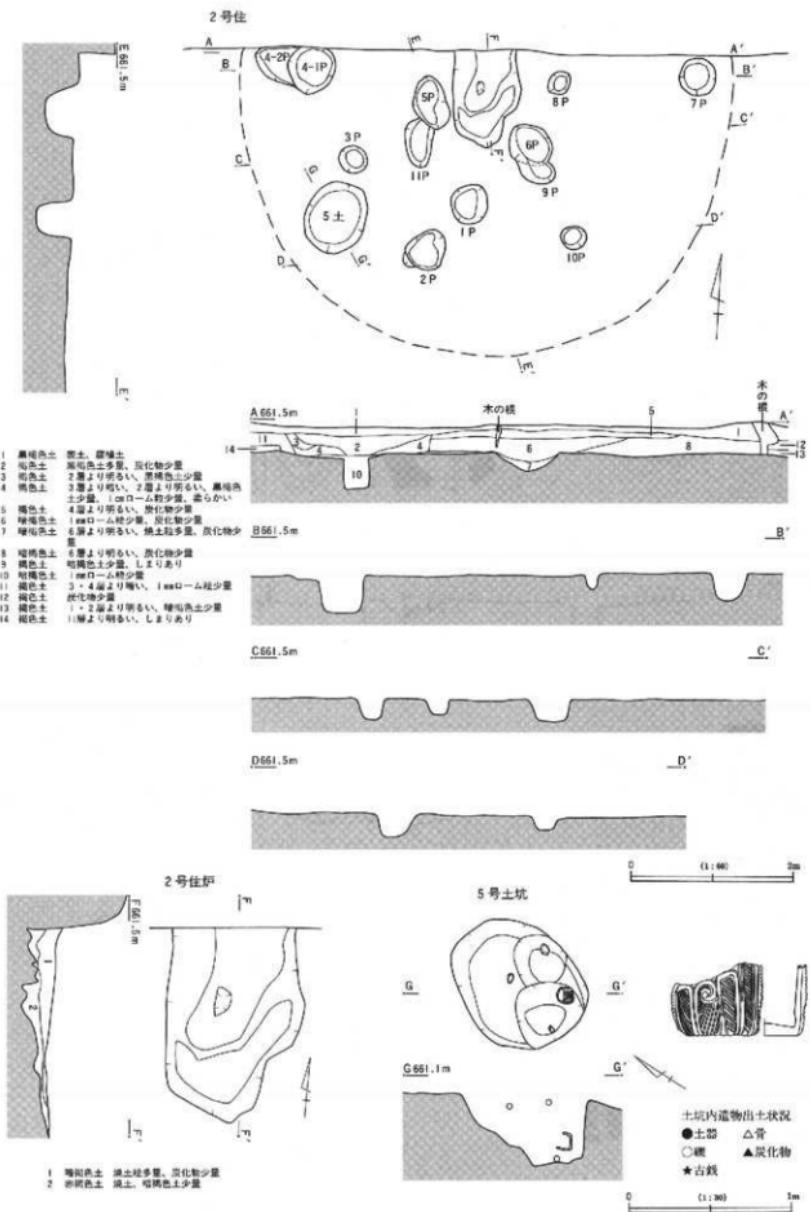
001 耳原		071 塚原遺跡	繩	141 相吉遺跡	奈	平
002 法性寺前遺跡	繩	072 東中久保遺跡	繩	142 植松氏屋敷址	中	
003 信玄宮遺跡	繩	073 久保遺跡	繩	143 下屋敷遺跡		
004 小笠間古戰場跡	戰國	074 房屋敷遺跡	繩	144 清水頭遺跡	繩	古
005 桜塙跡	平	075 池ノ平遺跡	繩	145 向原遺跡	平	
006 小泉遺跡	江戸	076 東齋3遺跡	繩	146 三ツ墓古墳2	古	
007 宮間遺跡	繩	077 東無2遺跡	繩	147 鳥巣高校前遺跡	繩	
008 桜塙南遺跡	繩	078 東無4遺跡	繩	148 三ツ墓古墳3	古	
009 稲葉堂東遺跡	繩	079 東齋1遺跡	繩	149 三ツ墓古墳1	古	
010 稲原北東遺跡	繩	080 和手山遺跡	繩	150 池ノ平畠和堤北遺跡	繩	
011 稲原西遺跡	繩	081 小尾平遺跡	旧石	151 池ノ平A遺跡	繩	東
012 牛久保遺跡	繩	082 間の原遺跡	繩	152 向井分下丘敷址	繩	中
013 牛久保南遺跡	繩	083 西齋南遺跡	繩	153 池ノ平B遺跡	繩	江戸
014 沢人遺跡	沼谷氏歴址	084 西齋東遺跡	繩	154 上日野遺跡		
015 手平山遺跡	繩	085 西齋南遺跡	繩	155 田中氏屋敷址	中	
016 東下屋敷遺跡	繩	086 和子遺跡	繩	156 上日野A遺跡	繩	平
017 西下屋敷遺跡	繩	087 腰掛遺跡	繩	157 上日野B遺跡	繩	平
018 斎田森遺跡	繩	088 城山上北遺跡	繩	158 上日野C遺跡	繩	平
019 西下屋敷南遺跡	繩	089 城山上遺跡	繩	159 烧久保遺跡	古	江戸
020 横手遺跡	繩	090 中丸堀跡	戰國	160 日野原遺跡	中	江戸
021 神之原遺跡	繩	091 屋久保遺跡	繩	161 上日野原遺跡	繩	平
022 戸屋敷遺跡	繩	092 清春表演美術館南遺跡	繩	162 富岡遺跡	江戸	
023 内城遺跡	繩	093 稲原保遺跡	繩	163 桶針・中山遺跡	中	
024 十郎林遺跡	繩	094 後平遺跡	繩	164 大林遺跡	繩	平
025 阿原道跡	平	095 狐北平遺跡	繩	165 中込遺跡	繩	
026 中鳥居道跡	繩	096 狐平遺跡	繩	166 手白尾東遺跡	繩	
027 手白尾遺跡	繩	097 大平遺跡	繩	167 西屋敷遺跡	古	
028 大幡岩遺跡	繩	098 下島久保遺跡	繩	168 上町南遺跡	繩	
029 横山1遺跡	繩	099 烧久保遺跡	江戸	169 龍角西遺跡	繩	古
030 横山2遺跡	繩	100 高松遺跡	繩	170 龍角遺跡	繩	古
031 横山半原遺跡	繩	101 上町道跡	繩	171 長坂上条遺跡	繩	古
032 稲原北遺跡	繩	102 酒呑場遺跡	繩	172 西久保遺跡	繩	
033 上フリ平北遺跡	繩	103 東村A遺跡	繩	173 新宿区健康村遺跡	繩	平
034 上フリ平南遺跡	繩	104 東村B遺跡	古	174 長坂下条・藤塚	繩	江戸
035 上フリ平西遺跡	繩	105 中村遺跡	古	175 和田遺跡	弥	古
036 下フリ平北遺跡	繩	106 鎌田遺跡	古	176 古屋敷遺跡	繩	
037 原原遺跡	繩	107 西村遺跡	古	177 滝見里遺跡	繩	
038 下フリ平南遺跡	繩	108 中反遺跡	繩	178 中込北遺跡	繩	
039 下フリ平南遺跡	繩	109 補平・藤塚	古	179 清波・上町遺跡	繩	
040 別当遺跡	繩	110 長坂氏屋敷址	古	180 下屋敷北遺跡	繩	平
041 別当西跡	繩	111 白山神社前遺跡	繩	181 柳原南遺跡	平	
042 別当二塚	繩	112 上ノ屋敷遺跡	繩	182 柳原北遺跡	繩	張
043 南新宿北遺跡	繩	113 大々塚十三塚	中	183 境原遺跡	繩	弥
044 深草館址	戰國	114 大々塚A遺跡	中	184 北村北遺跡	繩	平
045 小和田遺跡	繩	115 大々塚B遺跡	古	185 酒呑場東遺跡	繩	弥
046 南新宿北整地	繩	116 治郎田遺跡	古	186 山本遺跡	繩	平
047 南新宿遺跡	平	117 頭無A遺跡	古	187 北村東遺跡	繩	古
048 南新宿西遺跡	平	118 横木遺跡	古	188 大久保遺跡	繩	中
049 小和田社址	平	119 塚川・柳原遺跡	繩	189 大王塚古墳	古	
050 米山遺跡	繩	120 頭無B遺跡	繩	190 池之平北遺跡	繩	平
052 豊田遺跡	古	121 新田遺跡	繩	191 清水頭北遺跡	繩	
053 豊田遺跡	古	122 墓之越遺跡	繩	192 竹千平の土塁	古	
054 弥右衛門塚1	古?	123 原町北遺跡	古	193 成羽・藤原		
055 弥右衛門塚2	古?	124 原町遺跡	江戸	194 馬越塚	中	
056 法田北遺跡	平	125 上久保北遺跡	繩	★195 組屋遺跡	繩	平
057 法田遺跡	発	126 榊川の土塁	中	196 治郎田北遺跡	平	中
058 豊原の上塚	中	127 下村遺跡	繩	197 竹原遺跡	繩	江戸
059 豊原遺跡	中	128 墓川十三塚群	中	198 天白台址	中	戰國
060 柳新所遺跡	繩	129 宮久保遺跡	繩	199 下原遺跡	繩	
061 原田遺跡	繩	130 下村南遺跡	繩	200 下日野遺跡	繩	
062 柳坪A遺跡	繩	131 深里西遺跡	繩	201 桶針・朝久保遺跡	田石	繩
063 柳坪B遺跡	繩	132 鶯見遺跡	繩	202 桶針・宮久保遺跡	繩	平
064 小原遺跡	繩	133 鶯馬場遺跡	繩	203 清草遺跡	平	
065 久保地遺跡	繩	134 前山遺跡	繩	204 上の梯道	戰國	江戸
066 成岡遺跡	繩	135 上久遠遺跡	繩	205 中田遺跡	繩	
067 成岡新田遺跡	繩	136 反田遺跡	繩	206 長坂上条・藤原遺跡	古	平
068 曲田遺跡	繩	137 三井氏屋敷址	中	207 池之瀬遺跡	繩	平
069 石原田北遺跡	繩	138 北村遺跡	繩	208 段遺跡	繩	
070 石原田南遺跡	繩	139 新野遺跡	平安			
		140 木吉氏屋敷址	中			

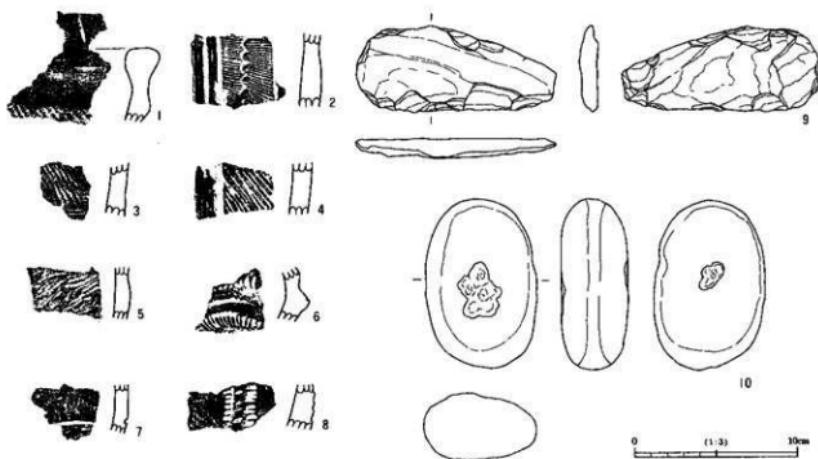
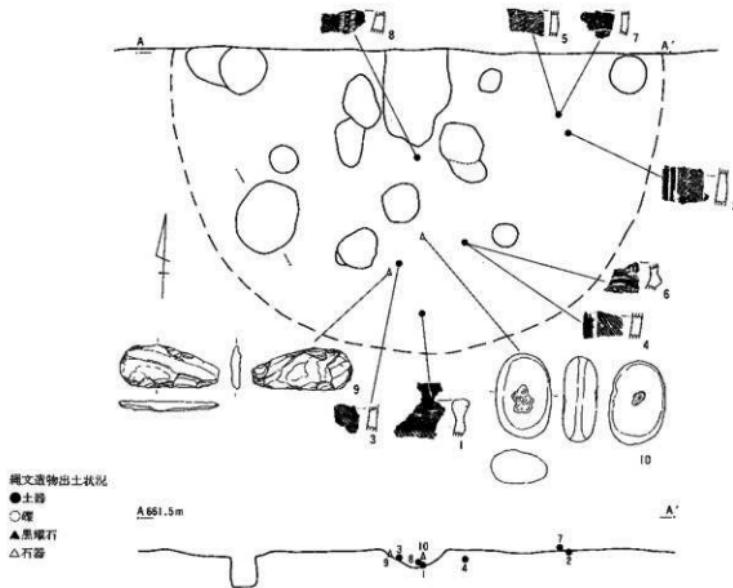


第2図 紺屋遺跡調査区と周辺の地形



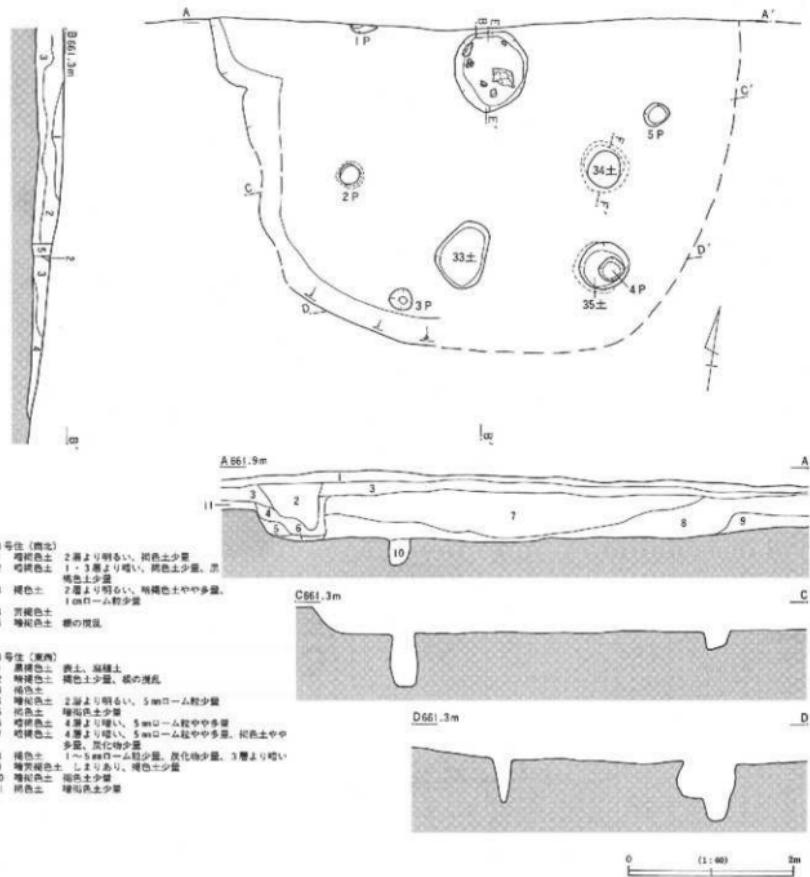
第3図 組屋遺跡調査区余地図



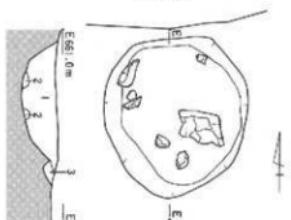


第5図 2号住居跡遺物出土状況、出土土器・石器

3号住

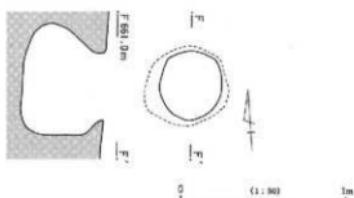


3号住戸



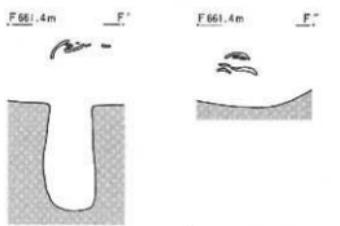
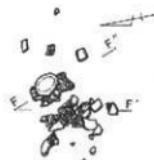
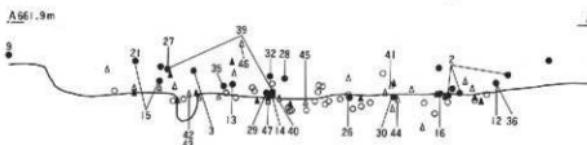
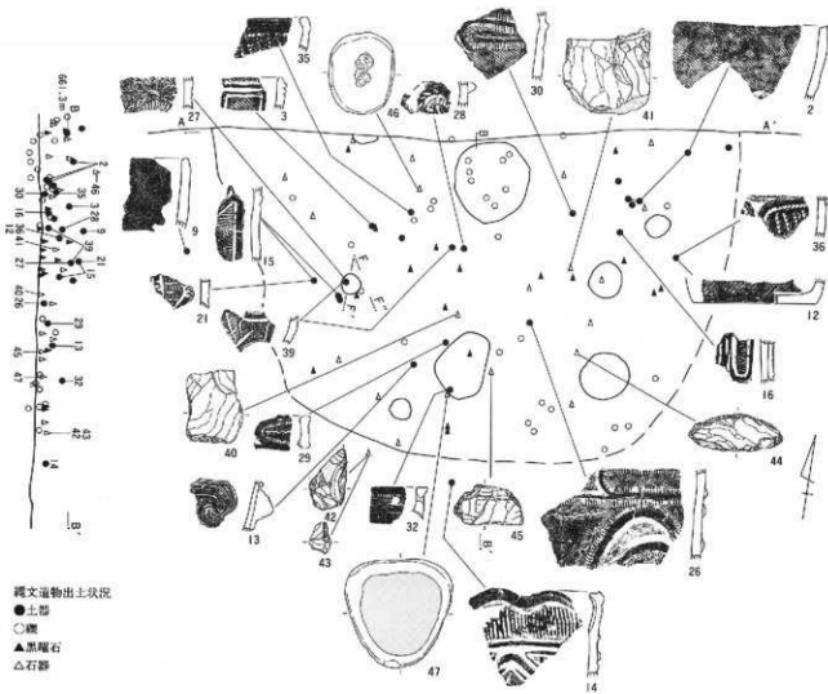
1 灰褐色土 明るい、1cmローム粒少量、粘土粒少量  
2 黄褐色土 1層より暗い、1cmローム粒少量  
3 棕褐色土 1層より暗い、褐色土少量

34号土坑



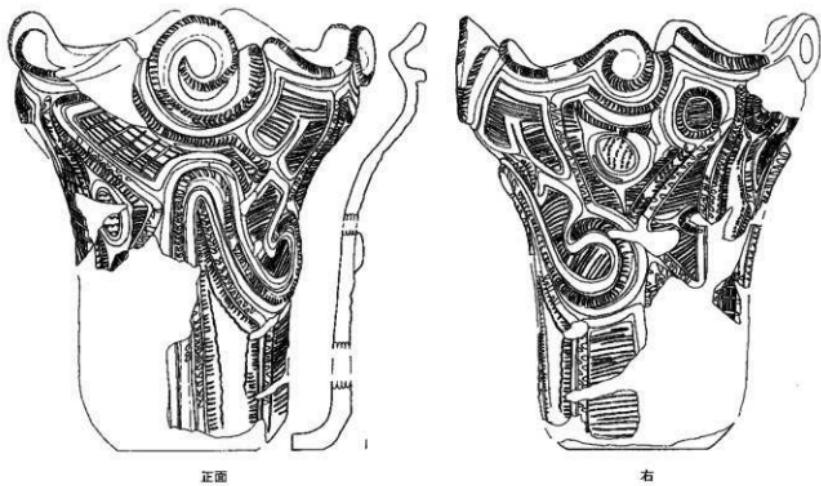
0 (1:80) 1m

第6図 3号住居跡・34号土坑



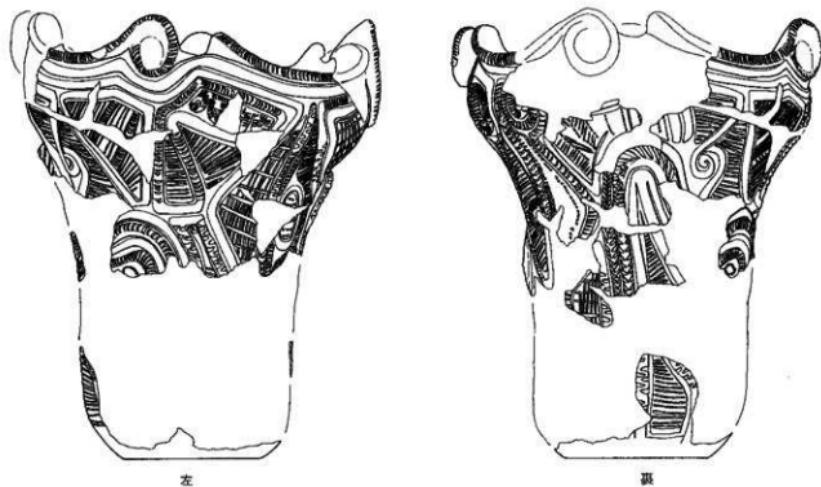
0 (1:80) 1m

第7図 3号住居跡遺物出土状況



正面

右

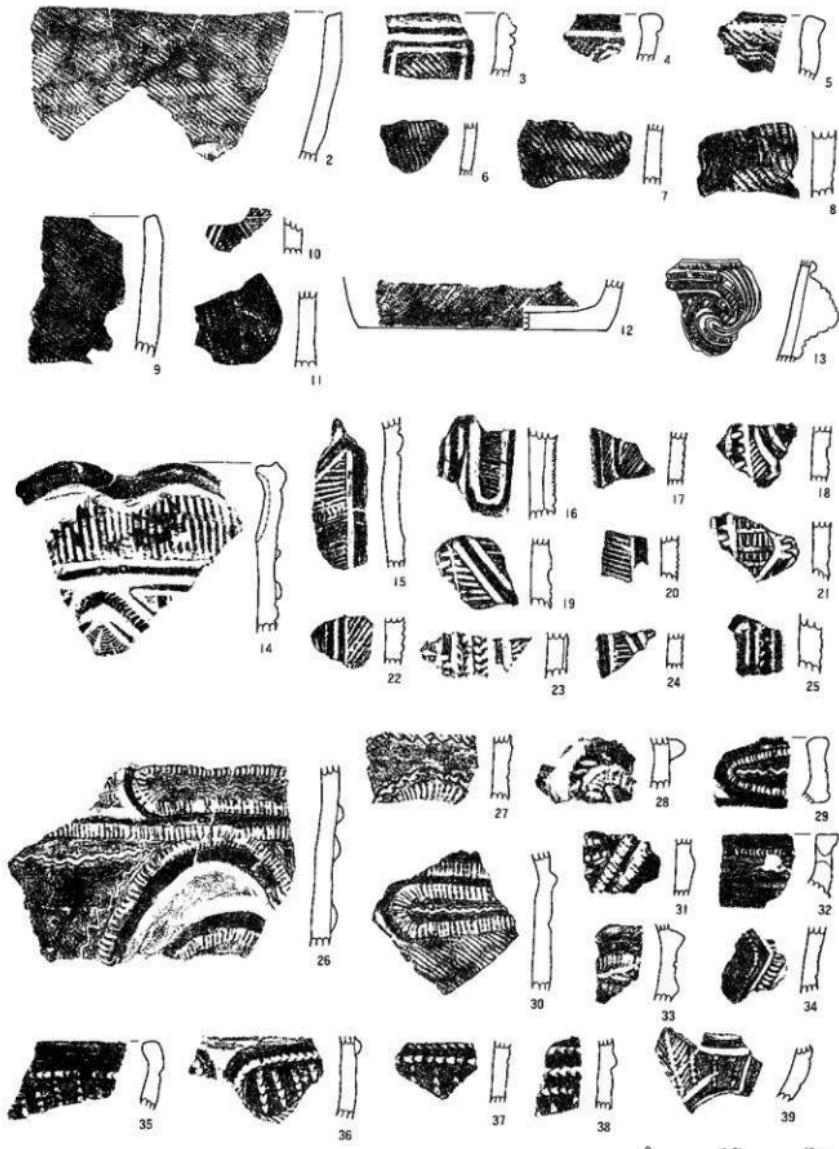


左

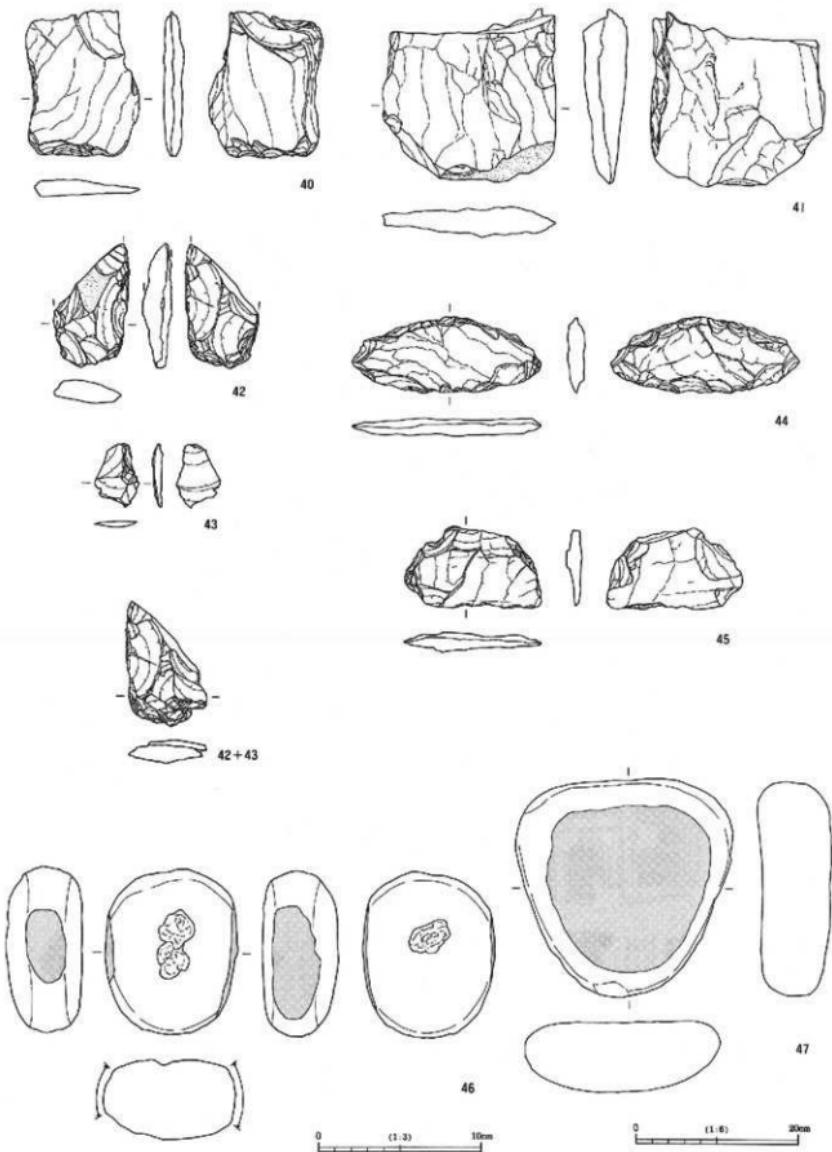
裏

0 (1:4) 10mm

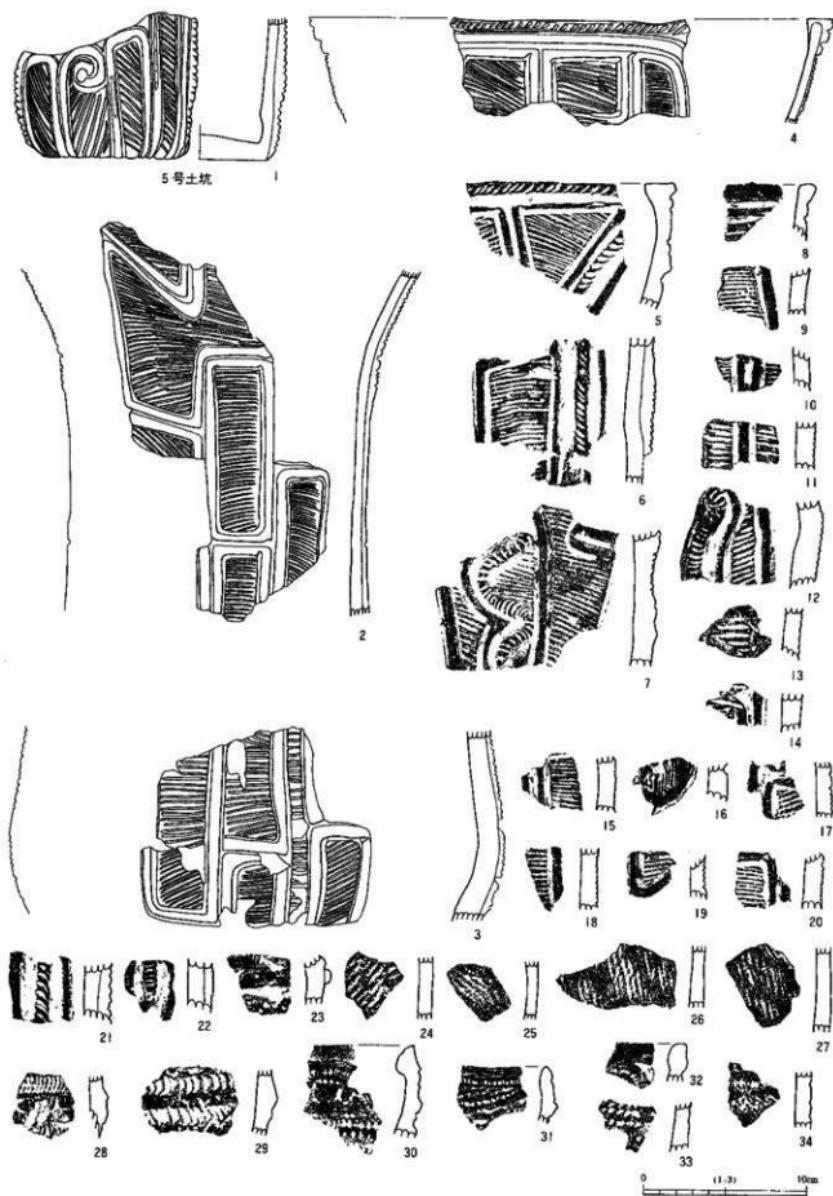
第8図 3号住居跡出土土器



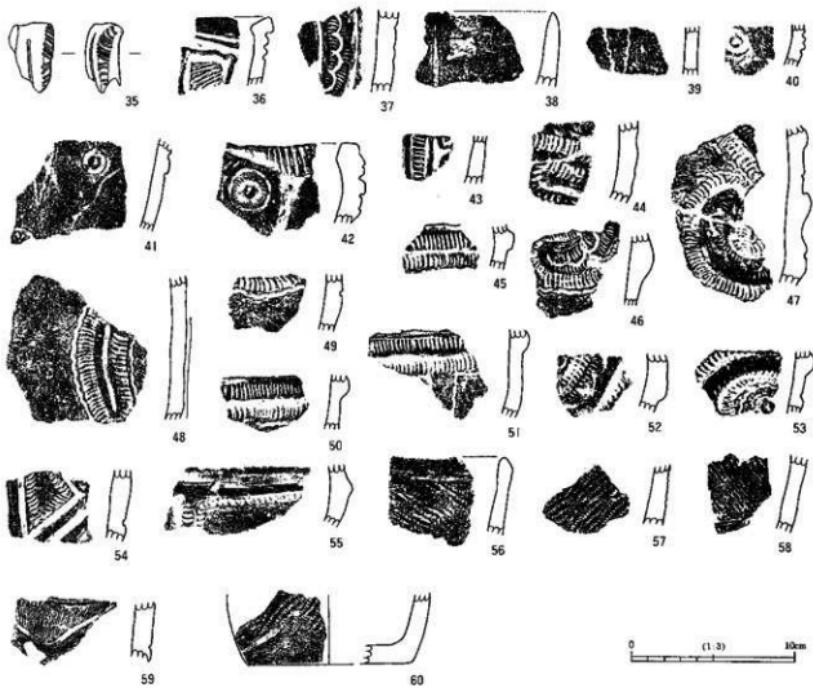
第9図 3号住居跡出土土器



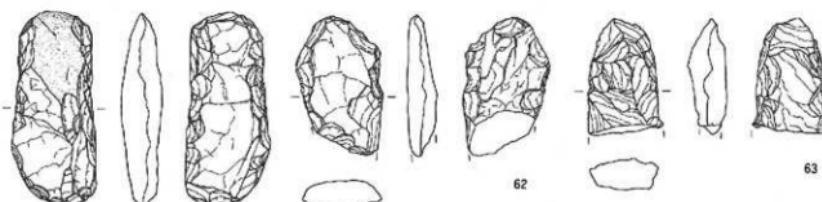
第10圖 3號住居跡出土石器



第11図 5号土坑・遺構外出土土器



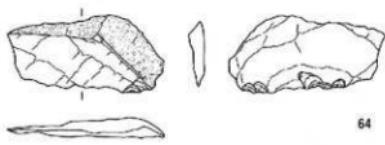
第12図 遺構外出土土器



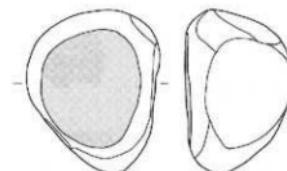
61

62

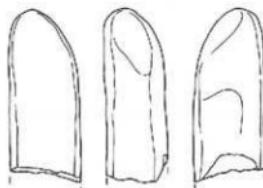
63



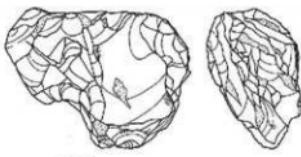
64



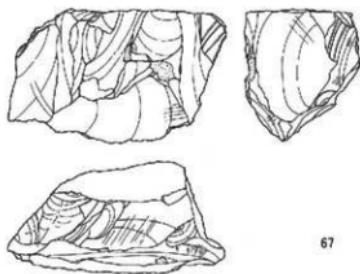
65



65



66



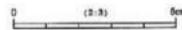
67



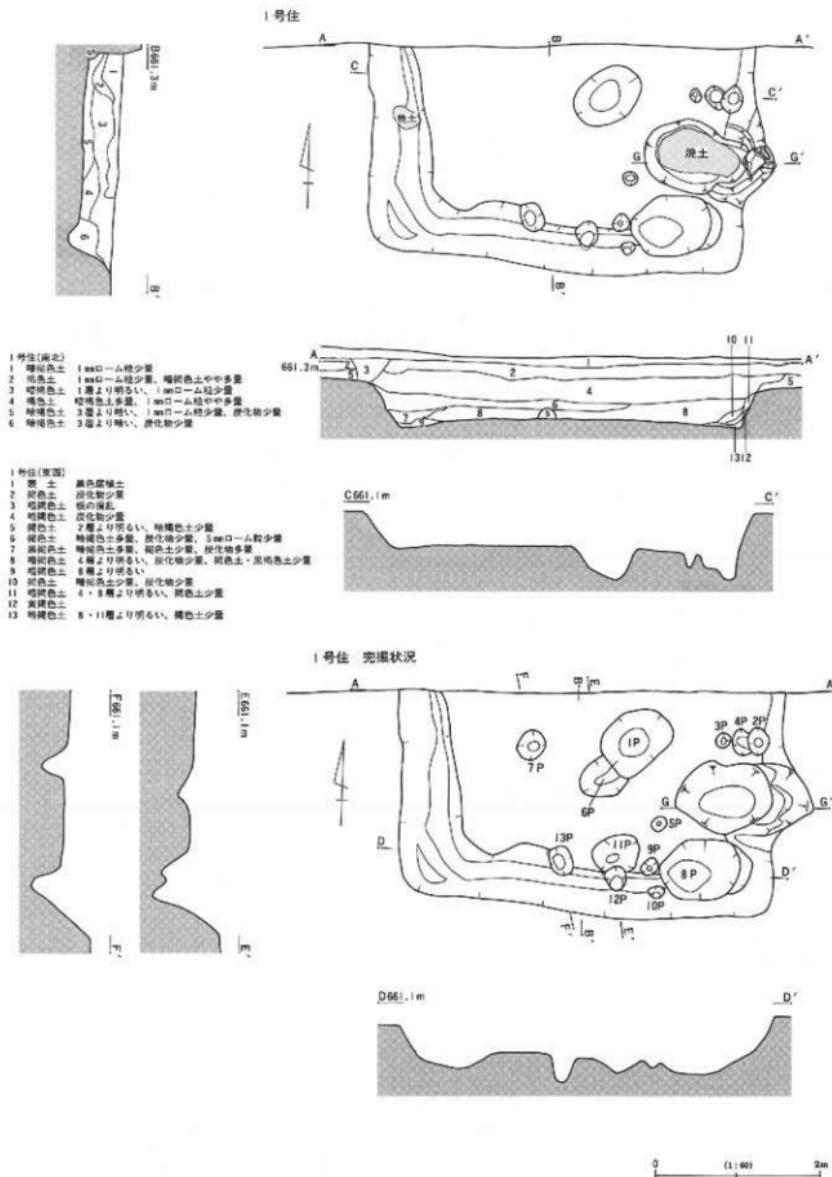
68



69

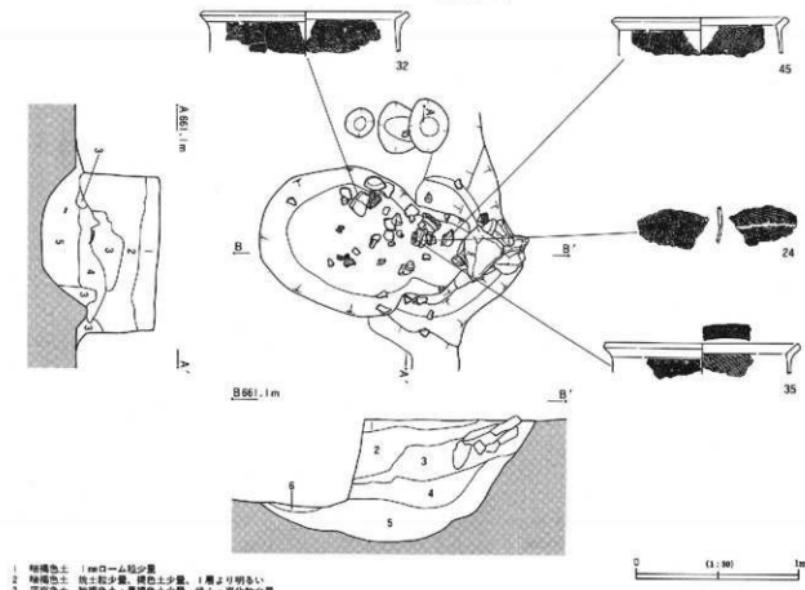


第13図 遺構外出土土器



第14図 1号住居跡

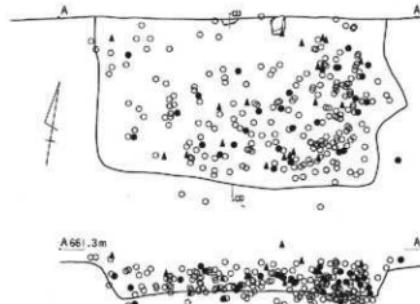
I号住カマド



- 1 暗褐色土 1層口一ム粗少量
- 2 暗褐色土 土中に多少の褐色土少量。1層より多い。
- 3 暗褐色土 土中に多少の褐色土少量。1層より多い。
- 4 暗褐色土 土中少量。暗褐色土少量。
- 5 暗褐色土 土中や多量。灰化物やや多量。
- 6 黒褐色土 灰土粒やや多量。灰化物やや多量

第15図 1号住居跡カマド遺物出土状況

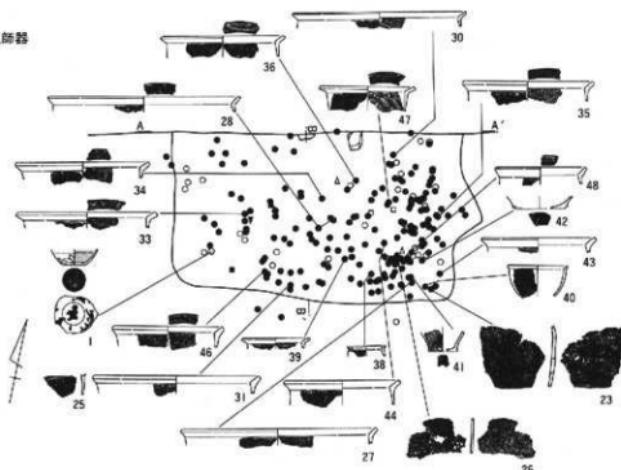
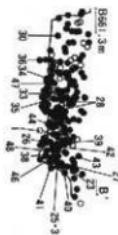
土器全体



平安土器出土状況（全体）

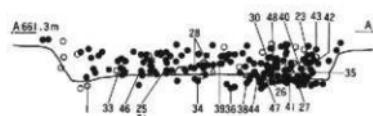
- 土師器
- 黒色土器
- ▲須志器・陶器

土師器



平安土器出土状況

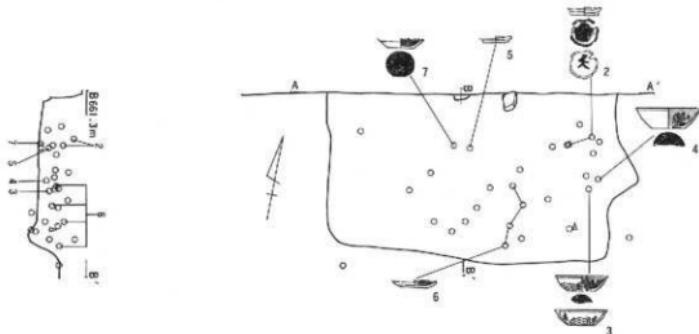
- 环
- 茎
- ▲脚
- その他



1m  
2m

第16図 1号住居跡遺物出土状況（上：土器全体、下：土師器）

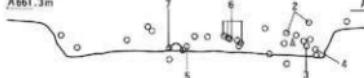
黒色土器



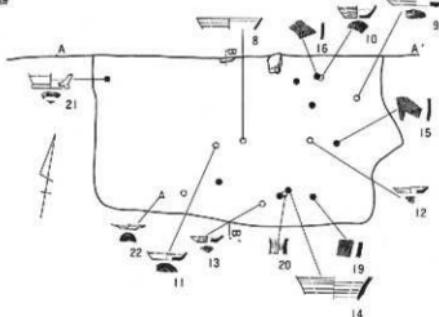
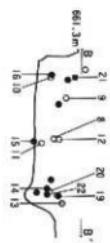
平安土器出土状況

- 環 ▼ 真
- 真 ■ 体
- △ 亂 □ その他

A 661.3m



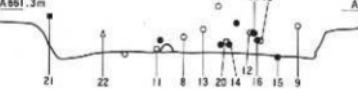
須恵器・陶器



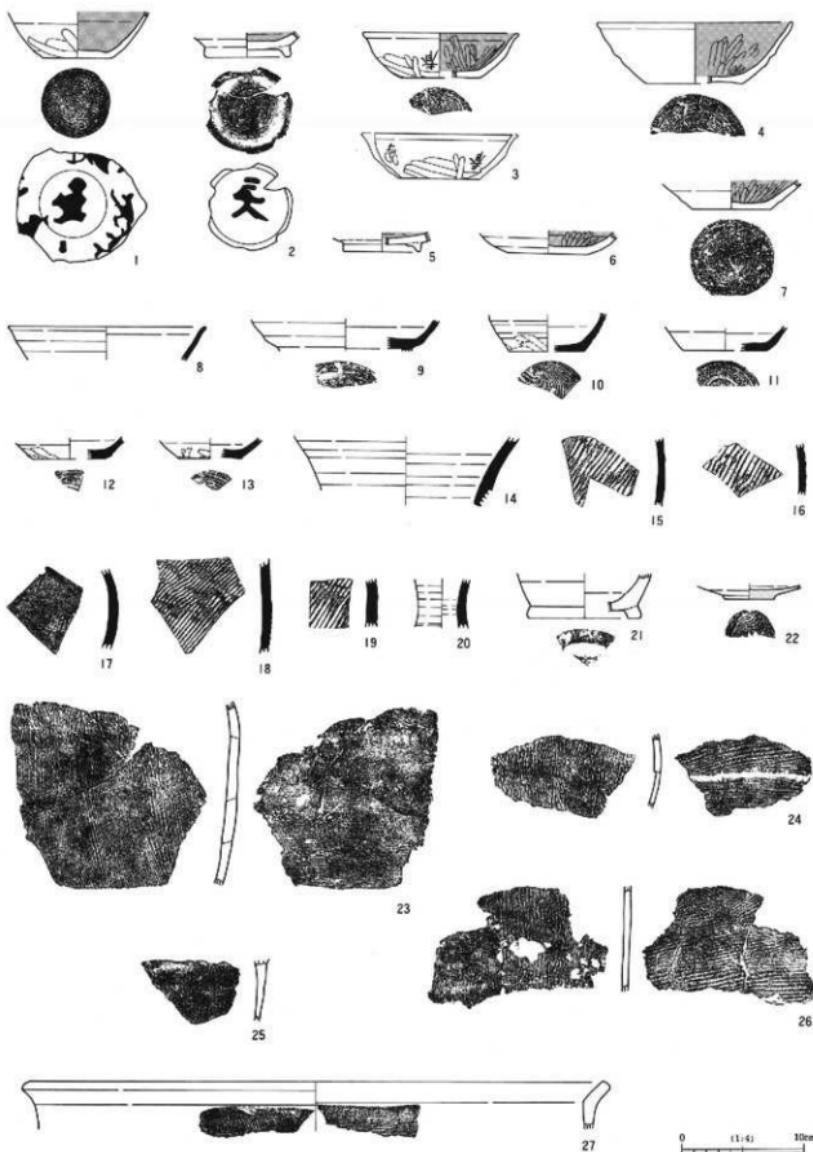
平安土器出土状況

- 環 ▼ 真
- 真 ■ 体
- △ 亂 □ その他

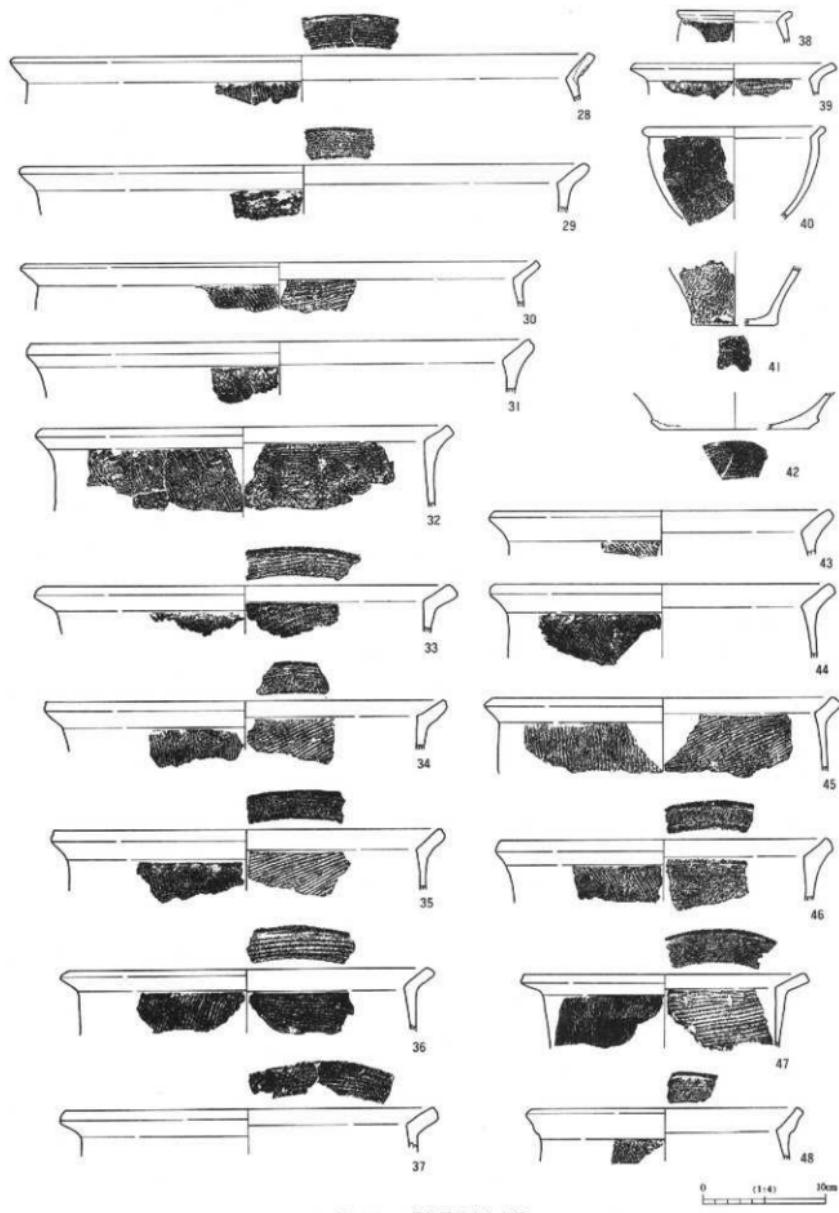
A 661.3m



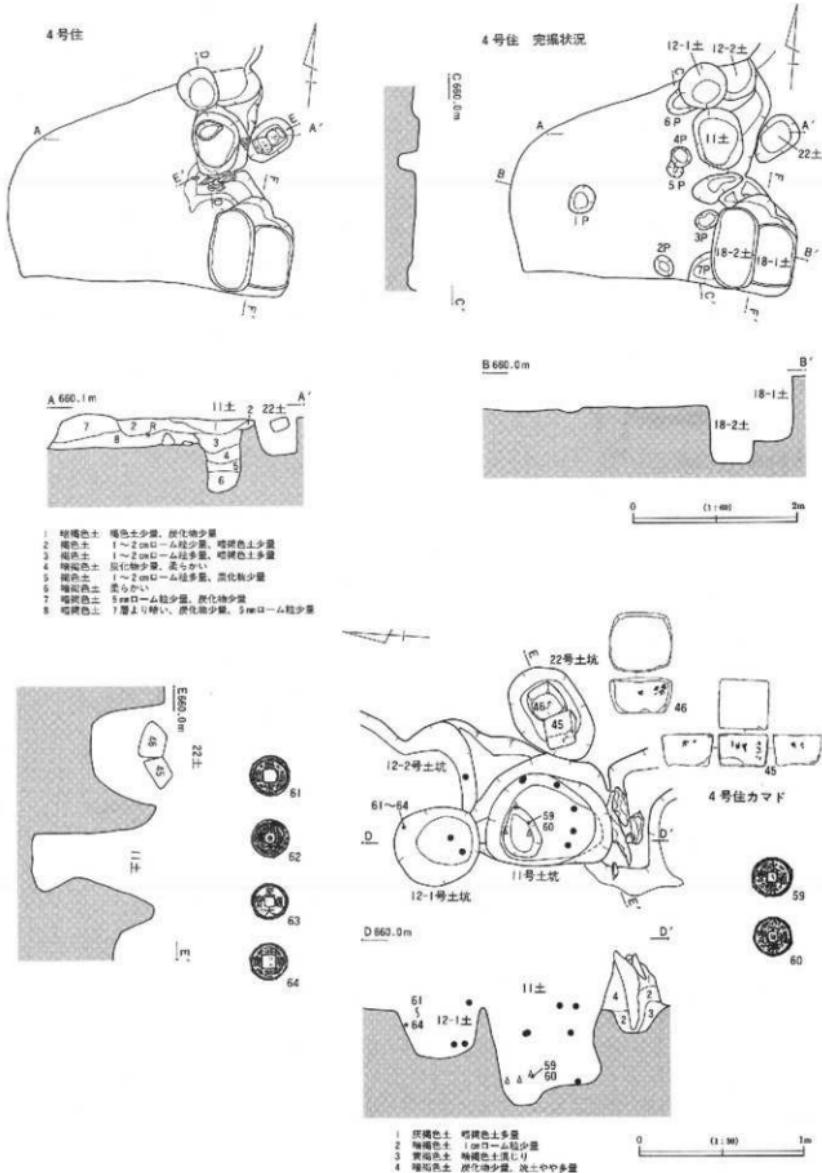
第17図 1号住居跡遺物出土状況 (上：黒色土器、下：須恵器・陶器)



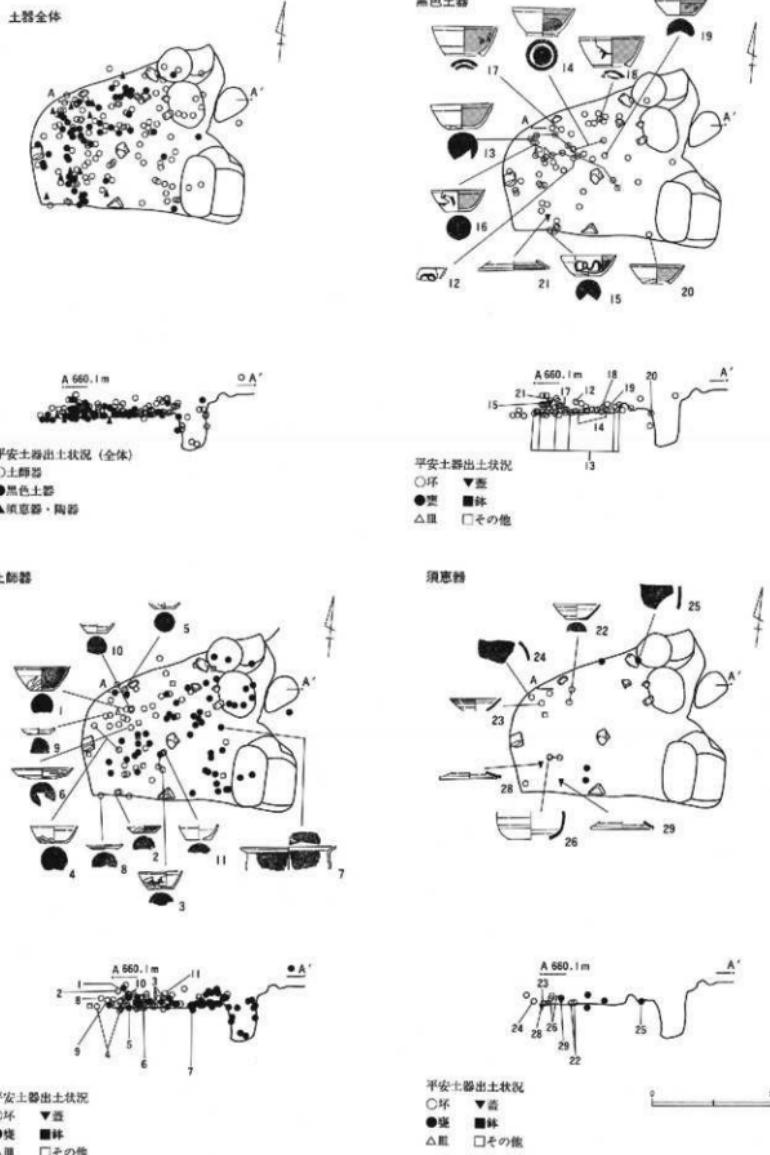
第18図 1号住居跡出土土器



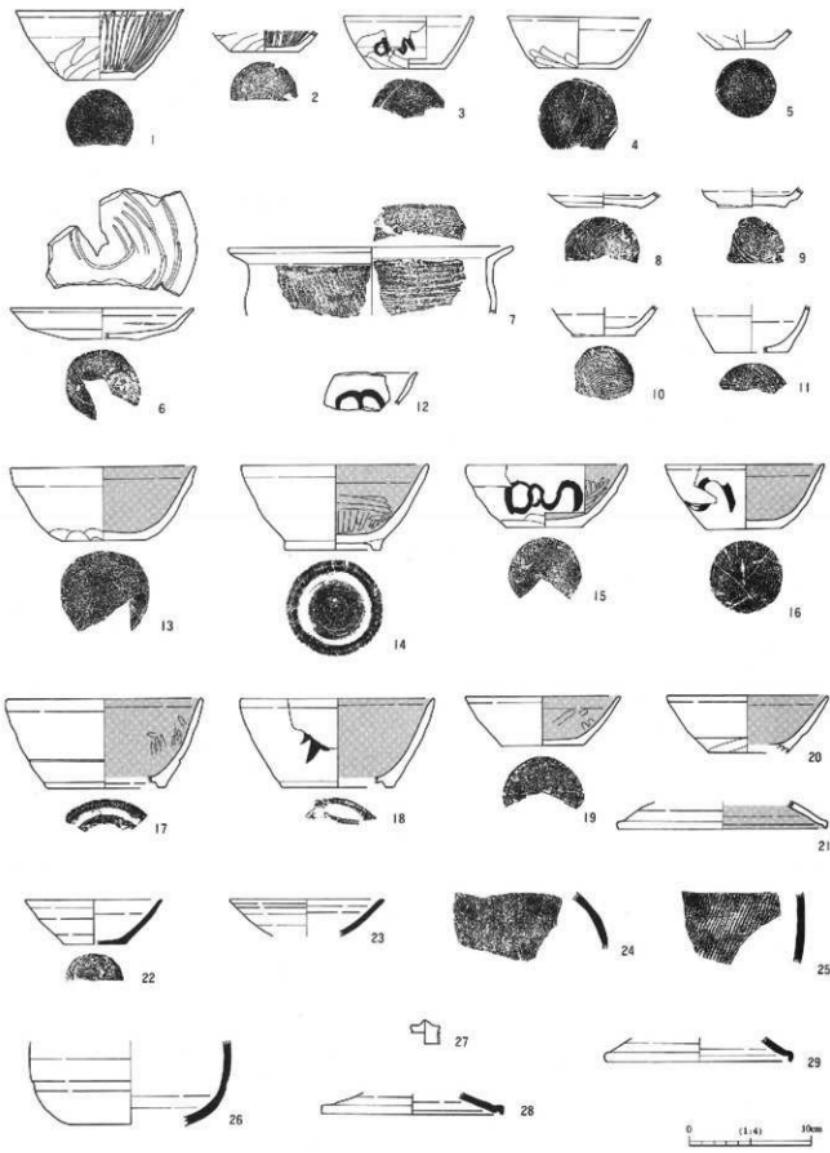
第19圖 1号住居跡出土土器



第20図 4号住居跡、11・12-1・12-2・22号土坑

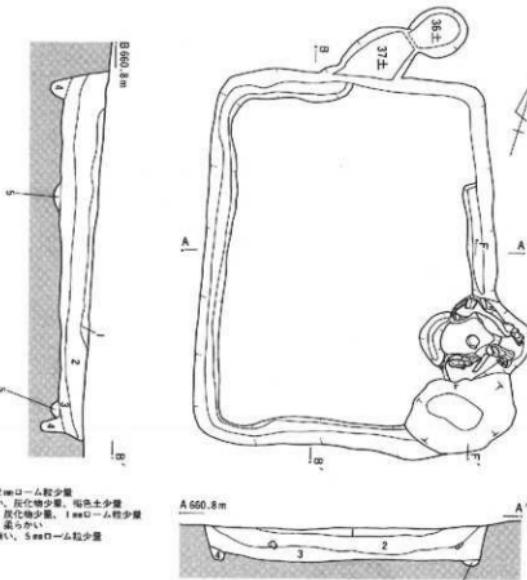


第21図 4号住居跡遺物出土状況

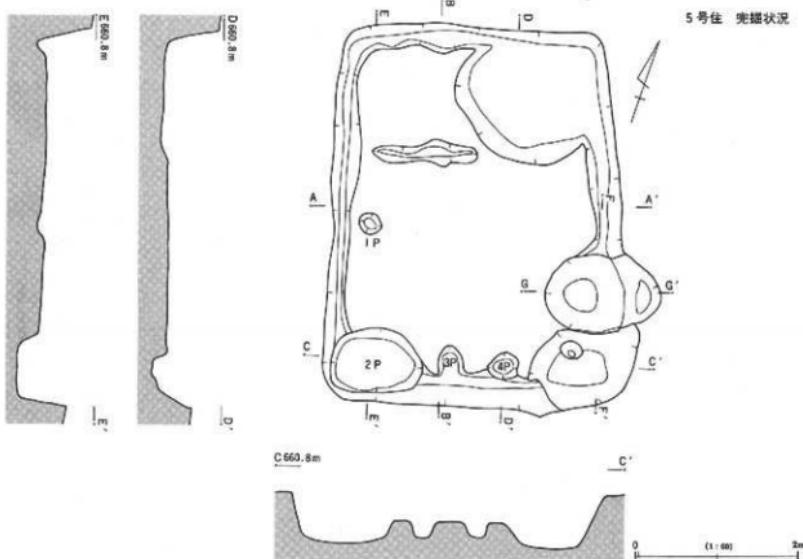


第22図 4号住居跡出土土器

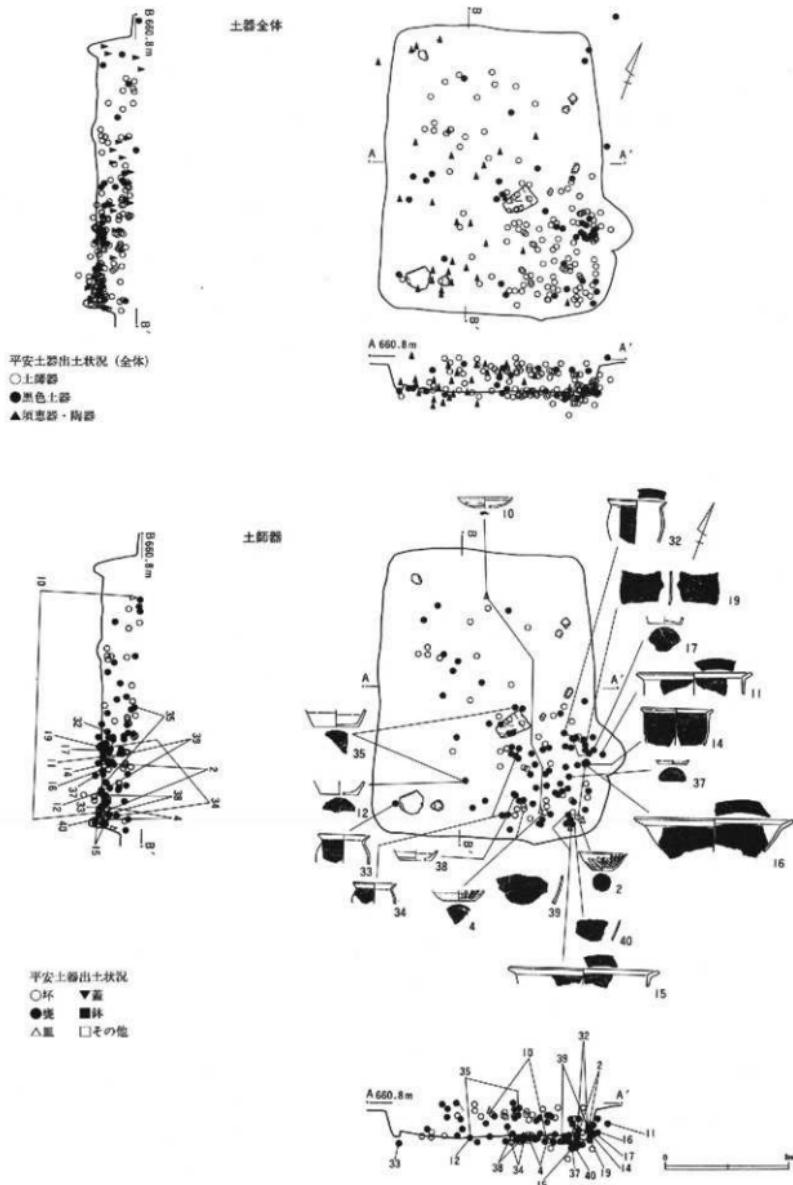
5号住



5号住 完掘状況

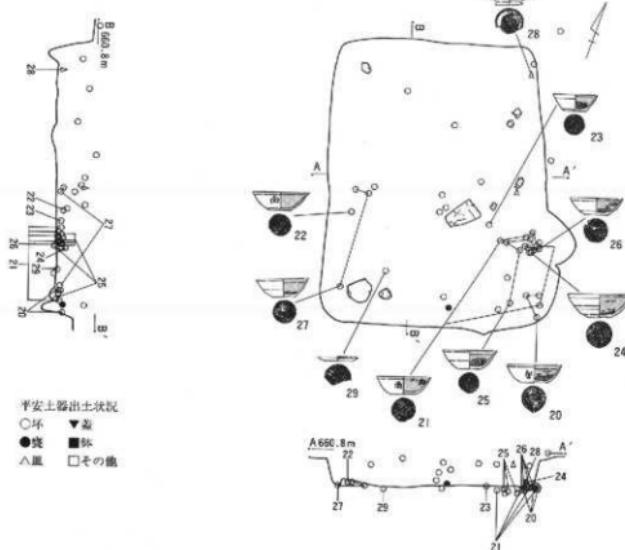


第23図 5号住居跡

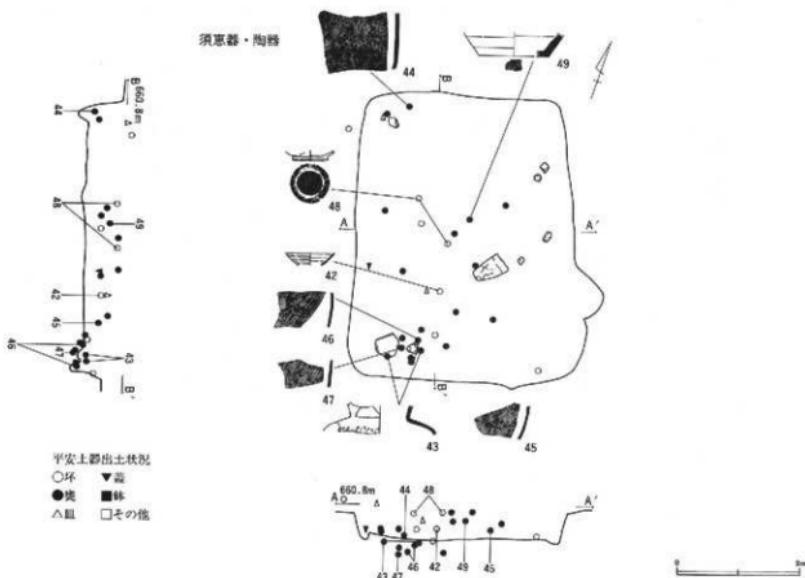


第24図 5号住居跡遺物出土状況（上：土器全体、下：土器器）

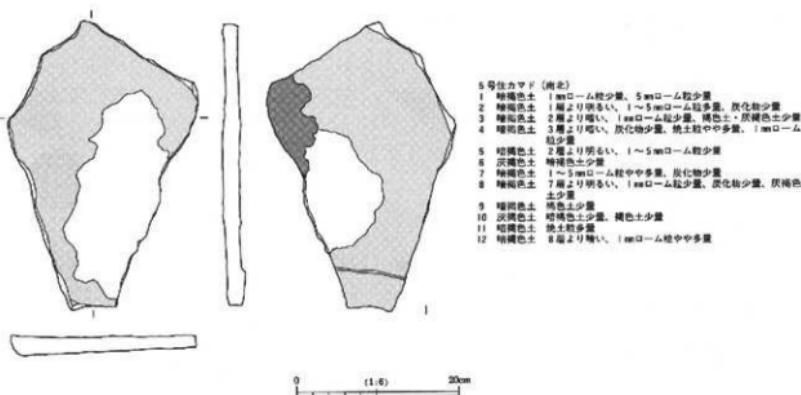
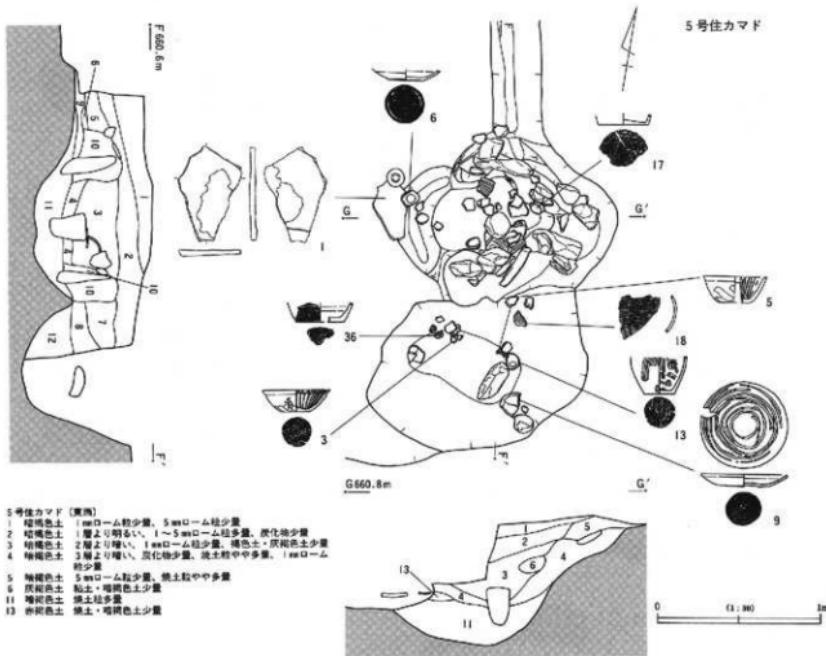
黒色土器



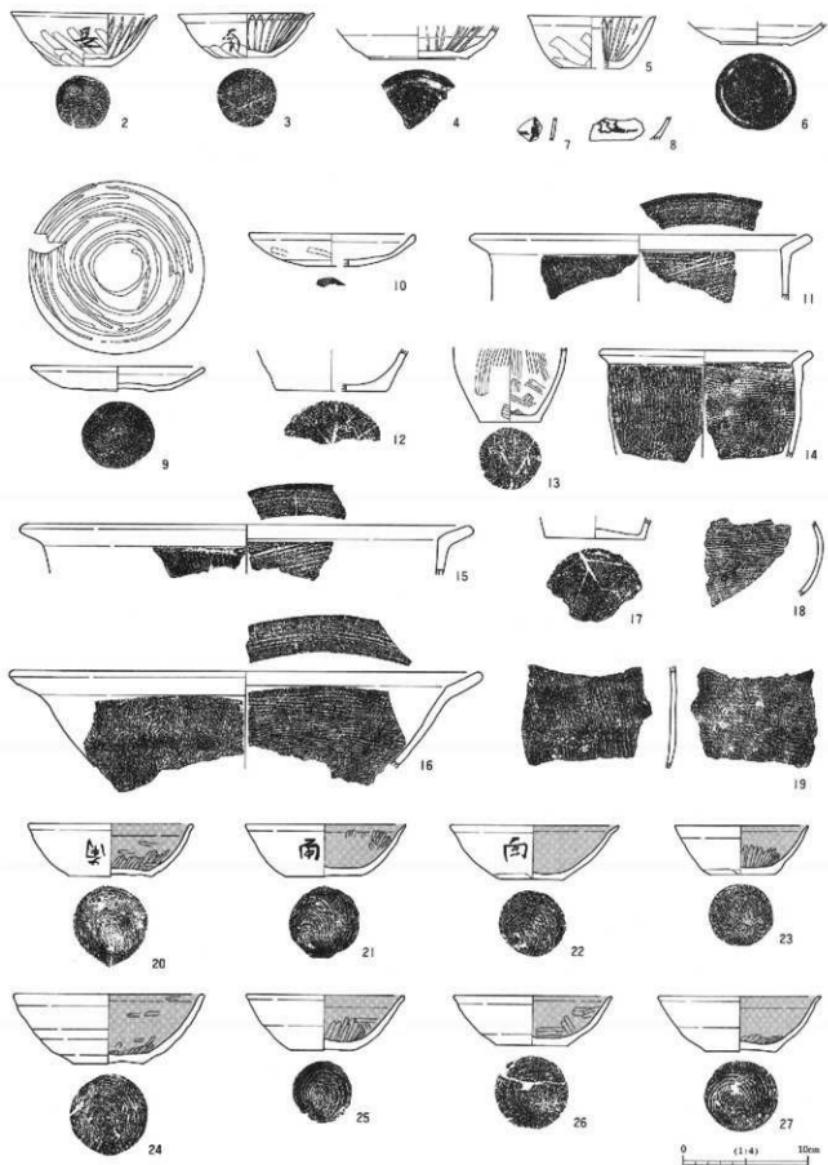
須恵器・陶器



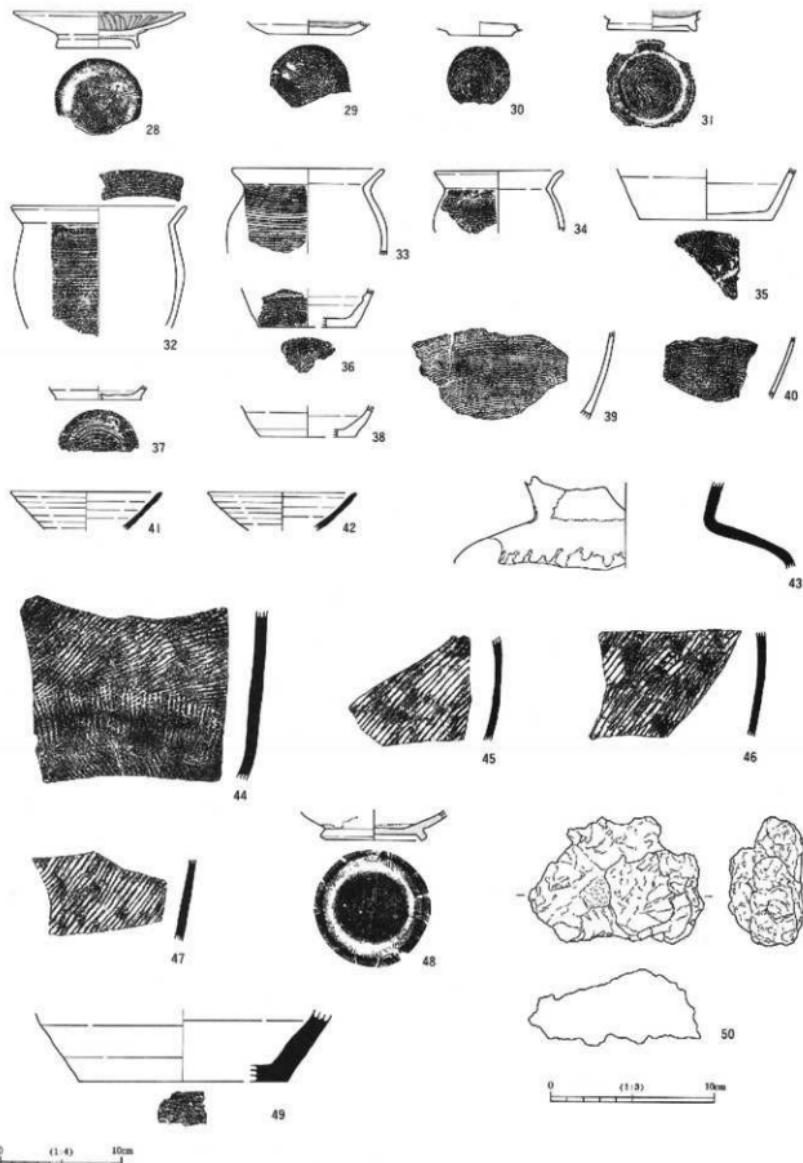
第25図 5号住居跡遺物出土状況（上：黒色土器、下：須恵器・陶器）



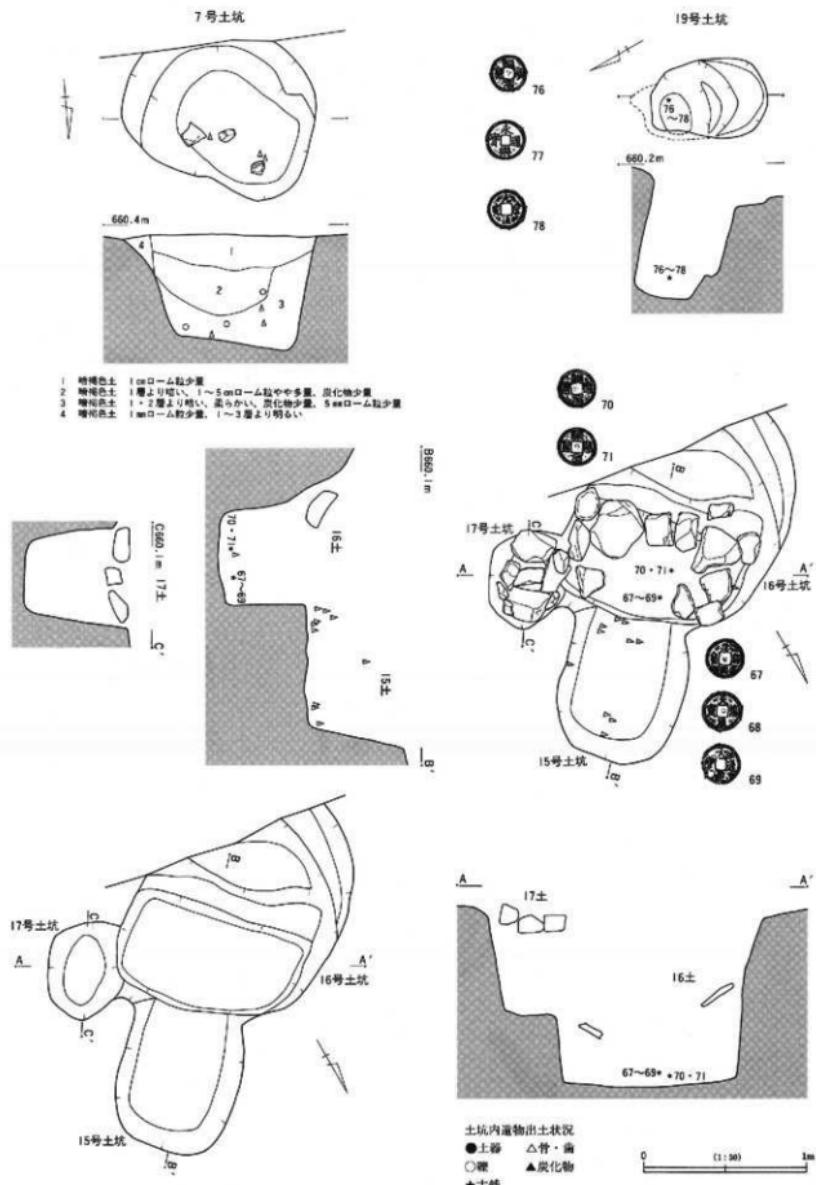
第26図 5号住居跡カマド遺物出土状況。出土石器



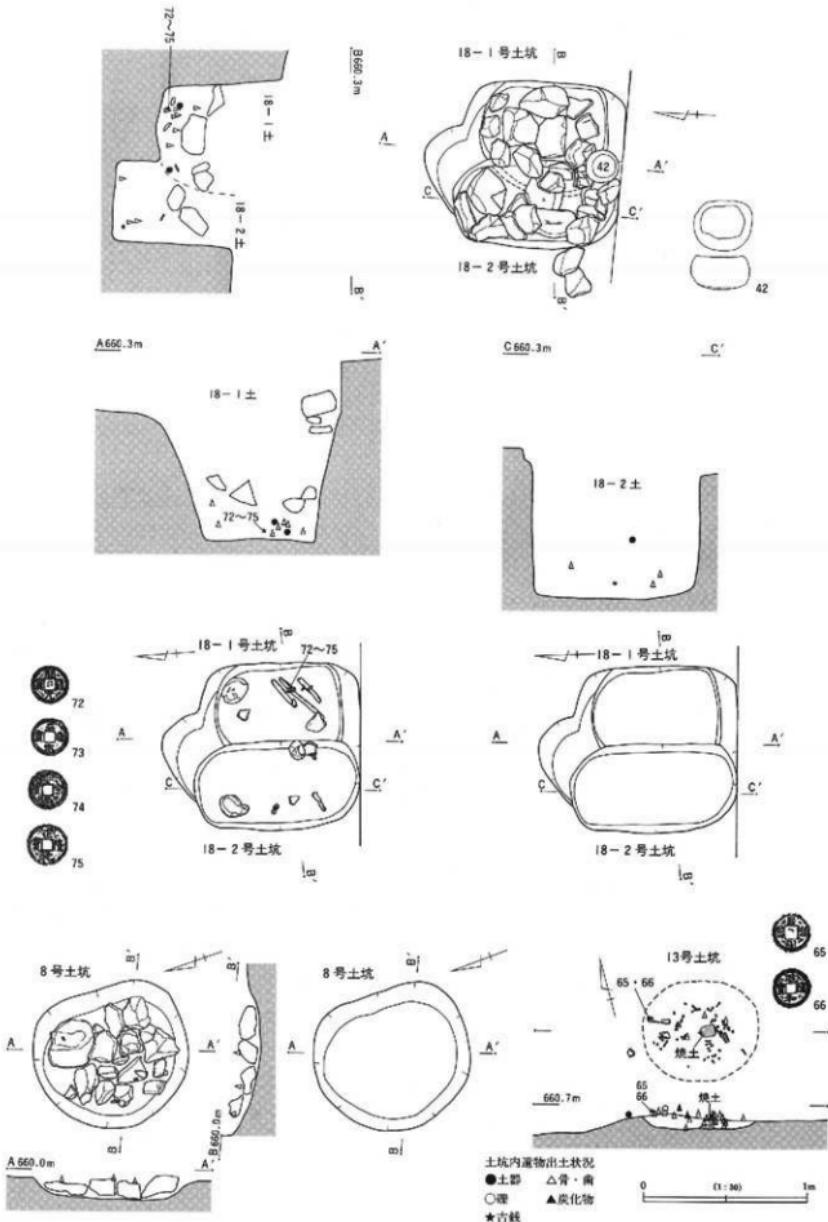
第27圖 5號住居跡出土土器



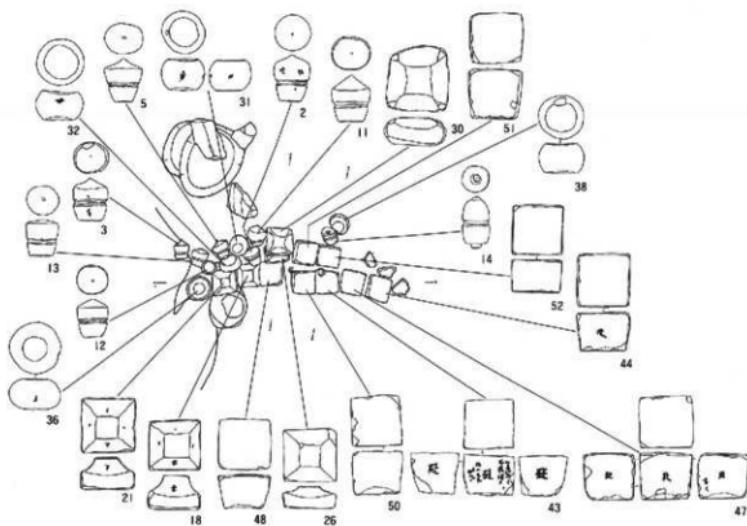
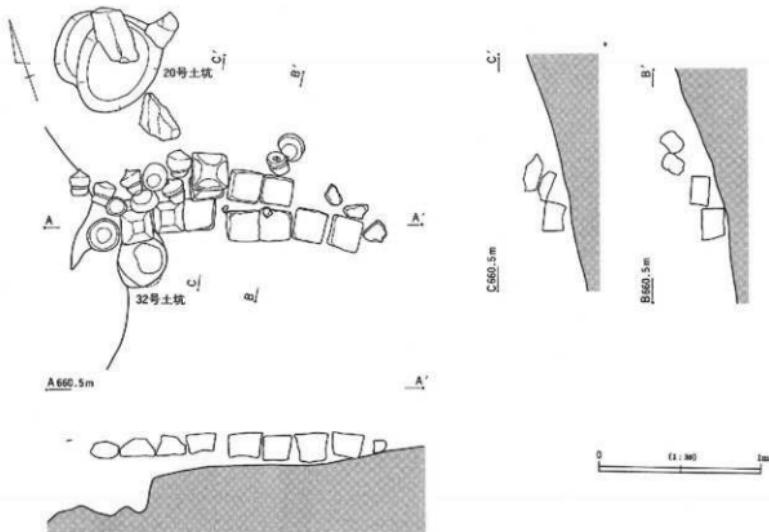
第28圖 5号住居跡出土土器・鉄鋤



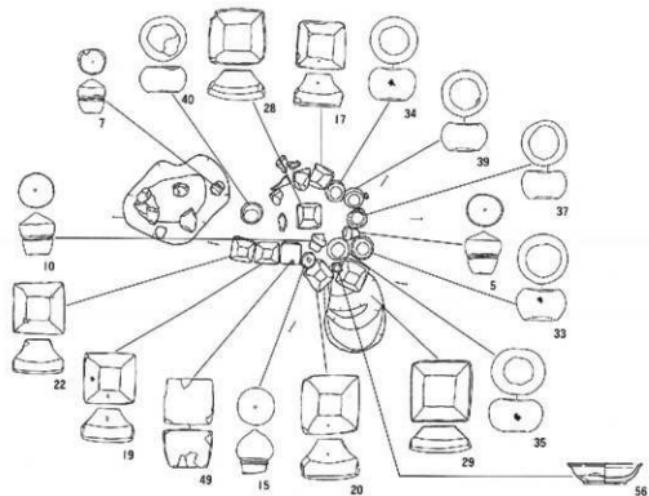
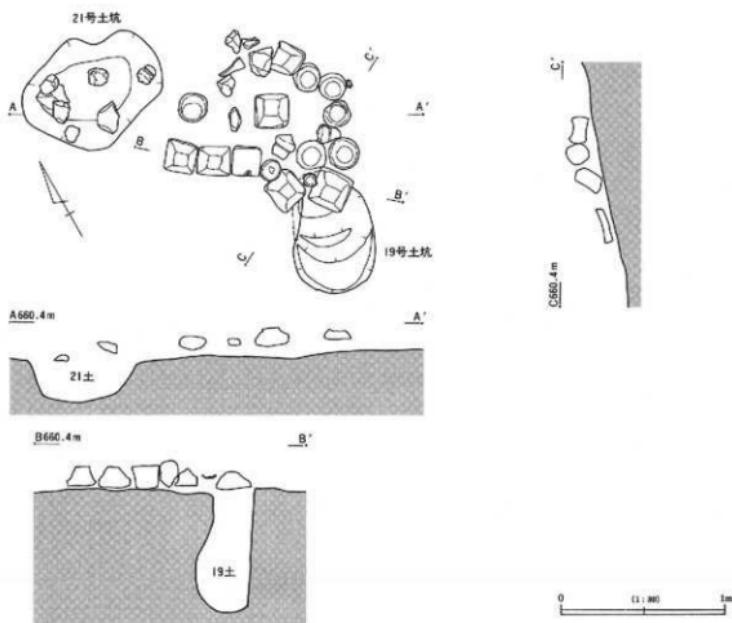
第29圖 7・15・16・17・19号土坑



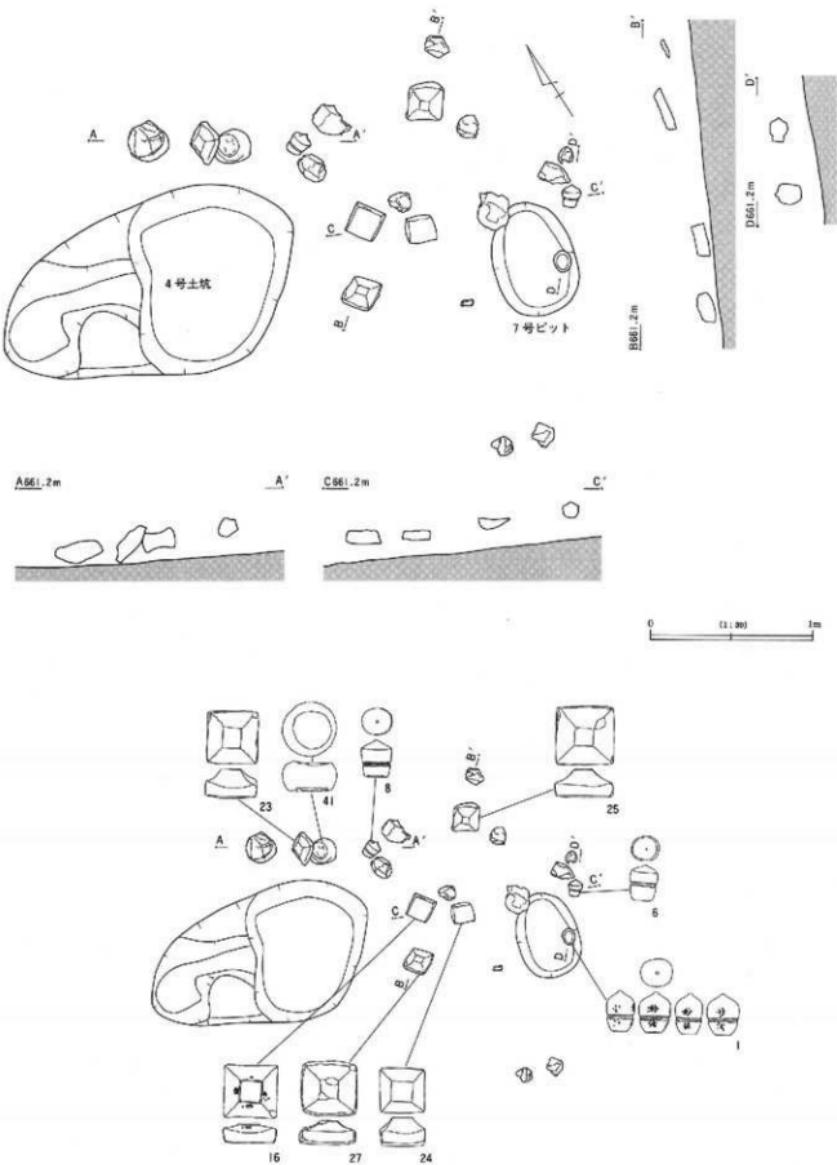
第30図 8・13・18-1・18-2号土坑



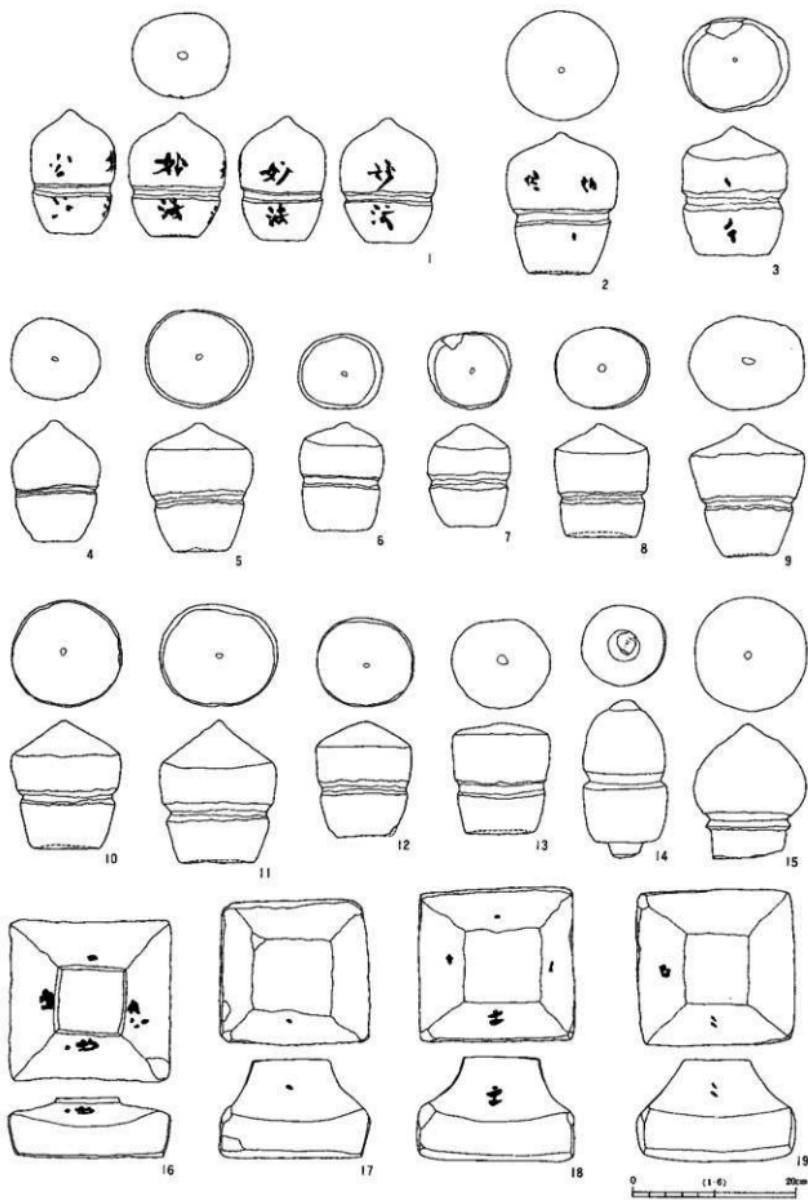
第31图 1号五轮塔集中地点



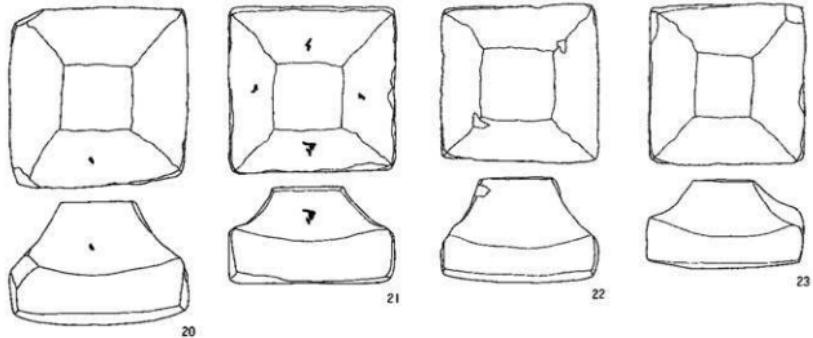
第32図 2号五輪塔集中地点



第33図 五輪塔散在地点



第34図 五輪塔

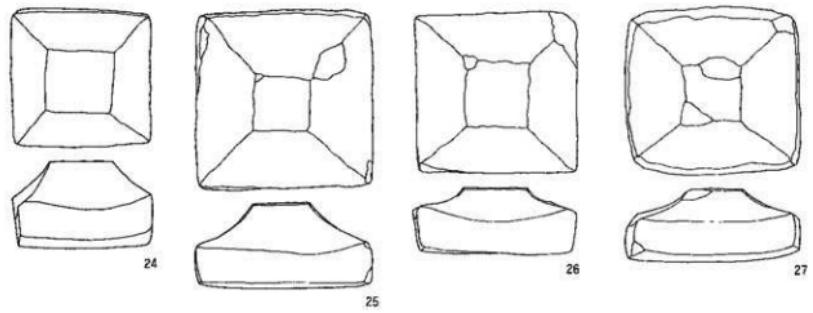


20

21

22

23

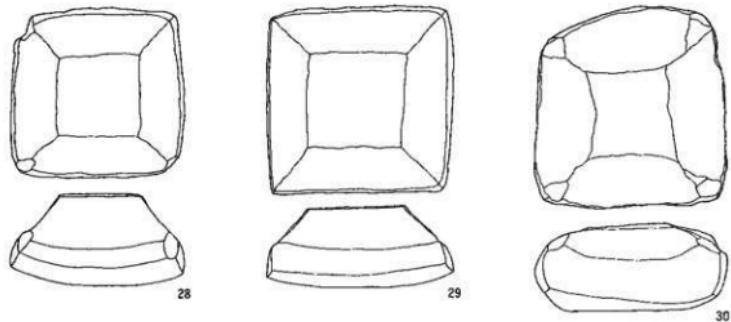


24

26

27

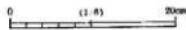
25



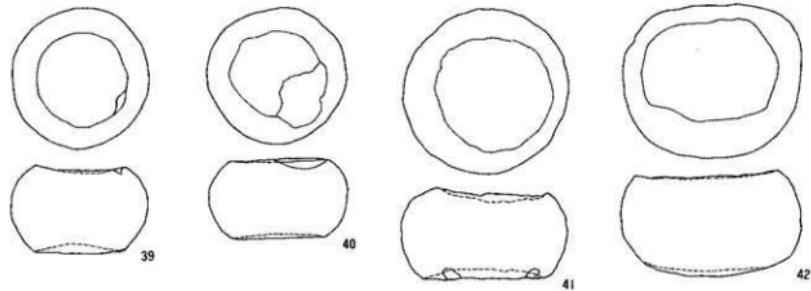
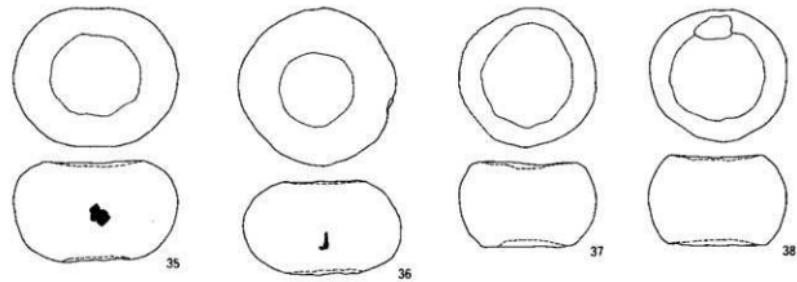
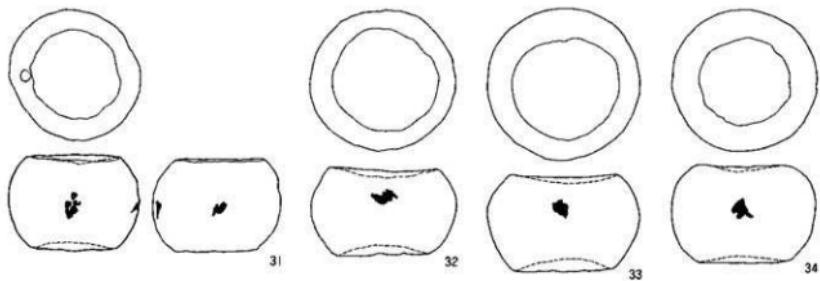
28

29

30

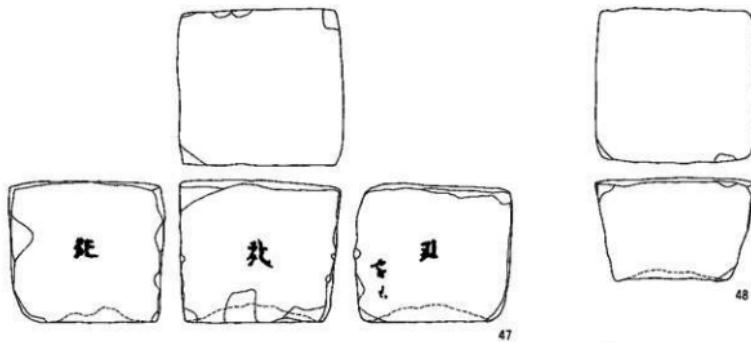
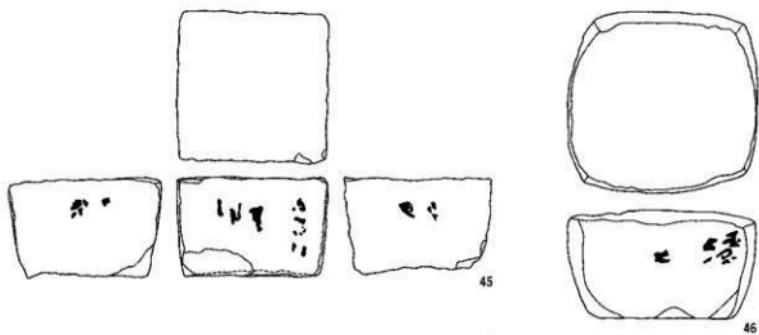
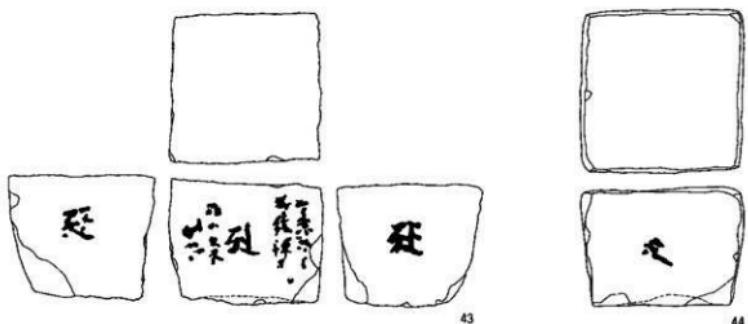


第35圖 五輪塔



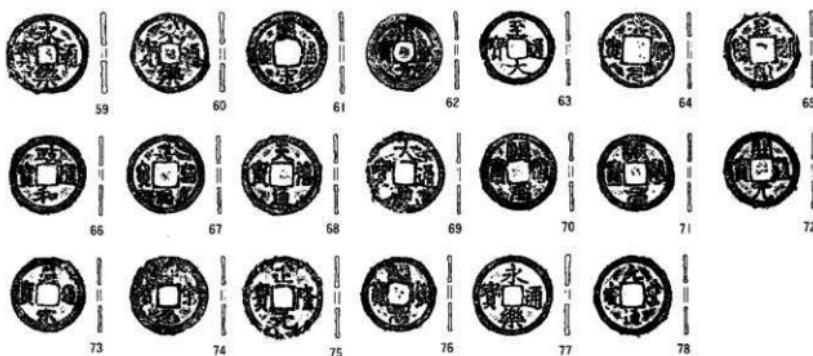
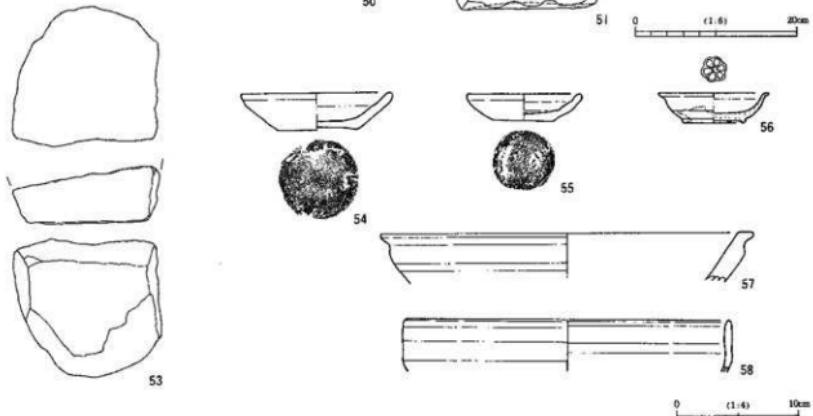
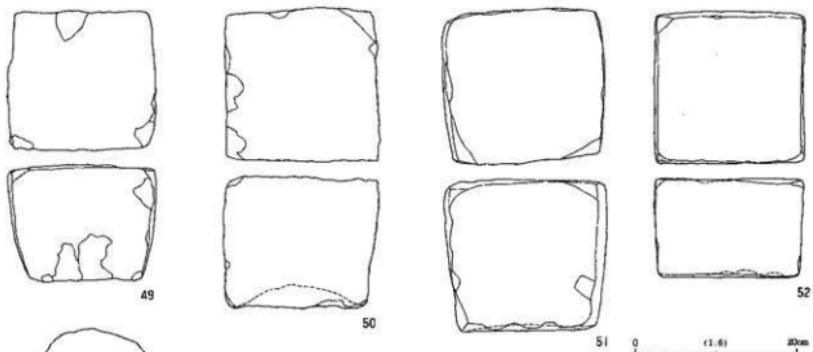
0 (1-6) 20cm

第36図 五輪塔

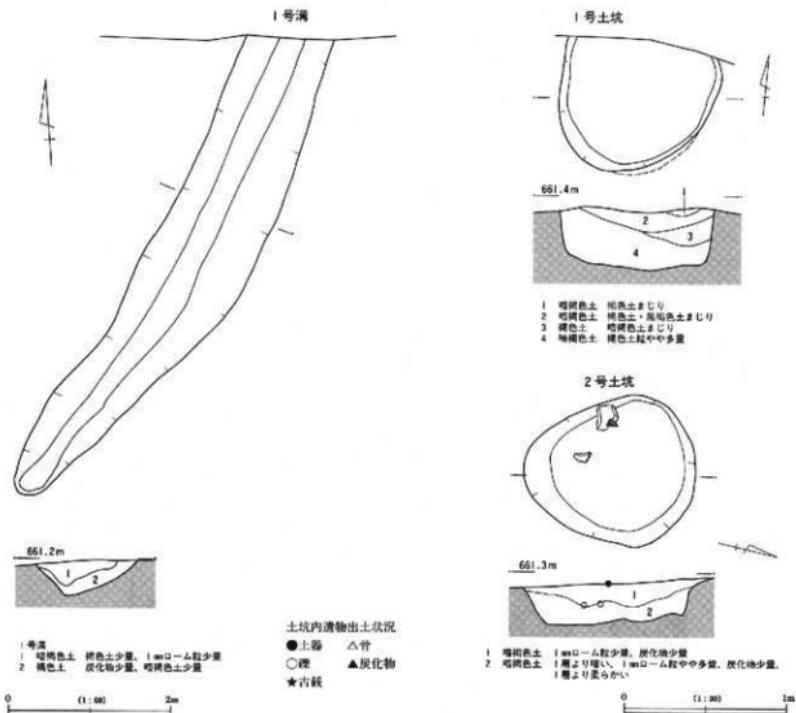
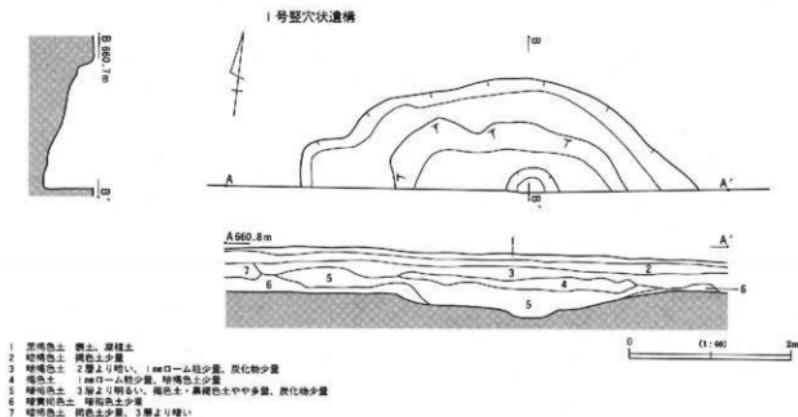


0 (1:6) 20mm

第37图 五轮塔

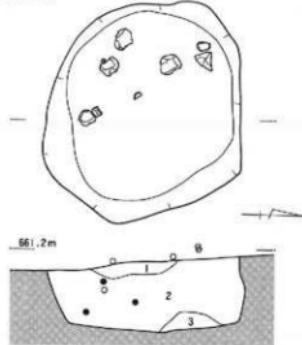


第38図 五輪塔・中世土器・古銭

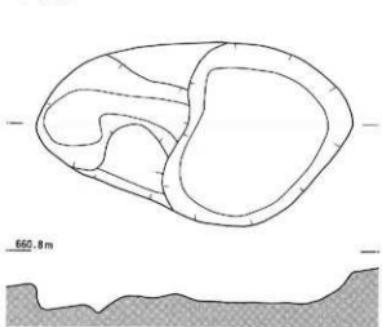


第39図 1号竖穴状遺構、1号溝、1・2号土坑

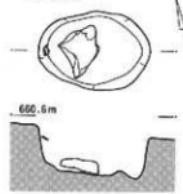
3号土坑



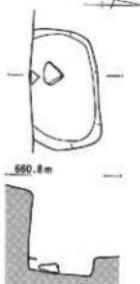
4号土坑



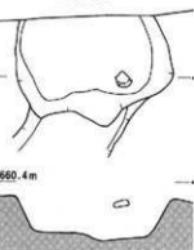
6号土坑



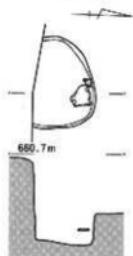
9号土坑



14号土坑



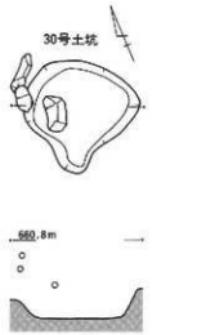
10号土坑



21号土坑



30号土坑



## 土坑内遺物出土状況

●土器

△骨

○環

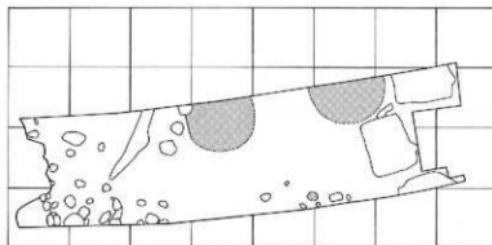
▲炭化物

★古錢

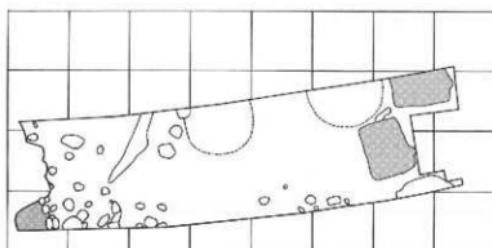
0 (1:30) 1m

第40図 3・4・6・9・10・14・21・30号土坑

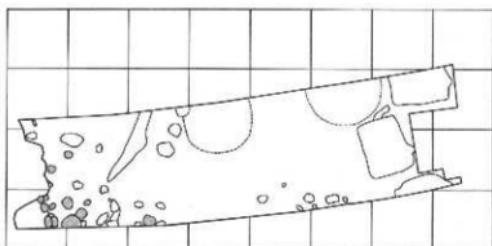
縄文時代



平安時代

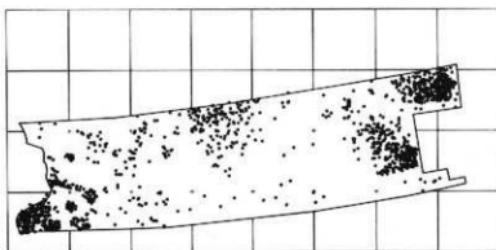


中世

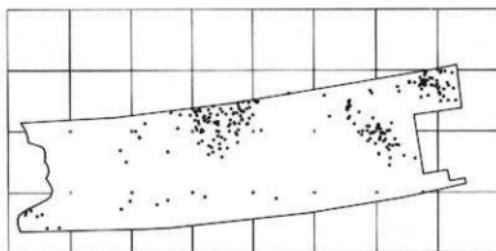


第41図 造構変遷

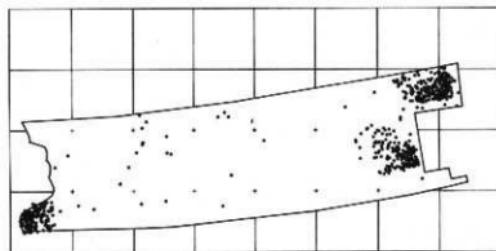
全体



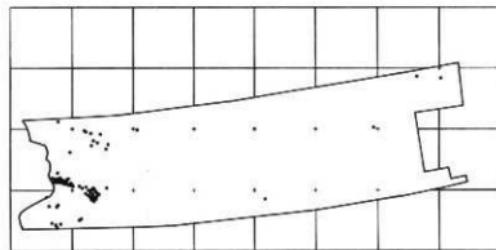
绳文時代



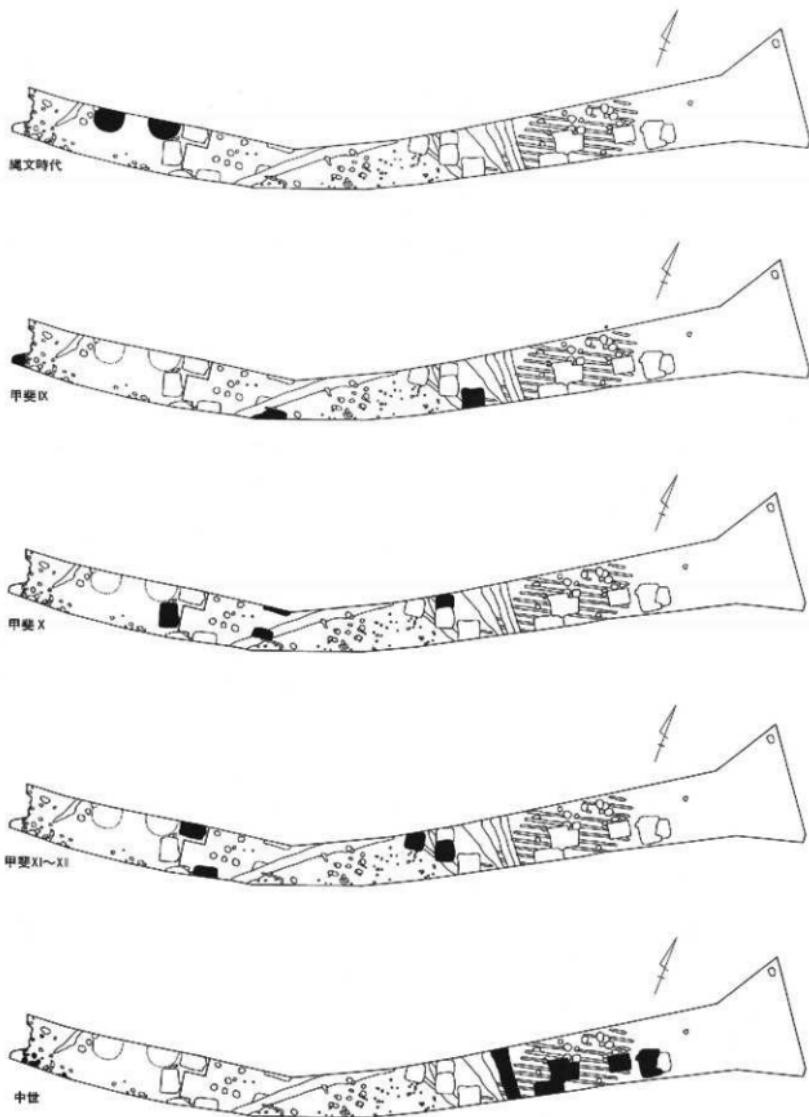
平安時代



中世



第42図 遺物分布



第43図 第1・2次調査区造構変遷

第2表 土坑・ピット一覧

墓坑

番号	図	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土遺物	占 数	人骨・齒			形 態
								枚数	性別	年 齢	
7	29	X-52	119	93	59.3~76.8			○	不明	壮年前半	A(隅丸長方形・縫なし)
11	20	X-54	63	57	58~73.4			○	3	○ 不明	小児(10才前後) C(小円形・縫なし)
12-1	20	X-54	53	(48)	19~25			○	6		C(小円形・縫なし)
15	29	X-53	(88)	74	42.7~58.9			○	女性	壮年	A(隅丸長方形・縫なし)
16	29	X-53・54	(118)	(121)	99.2~101.3			○	6	○ 不明	B(隅丸長方形・縫あり)
17	29	X-53	59	(43)	57~63						D(小円形・縫あり)
18-1	30	X-54	78	(42.5)	42~76.1	かわらけ、五輪塔	○	6	○ 男性	壮年	B(隅丸長方形・縫あり)
18-2	30	X-54	110	55	66.9~73			○	6	○ 男性	B(隅丸長方形・縫あり)
19	29	X-53	52	49	64.5~81			○	3		C(小円形・縫なし)
22	20	X-54	63	44	40.4~44.8	五輪塔					D(小円形・縫あり)

火葬墓または火葬施設

番号	図	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土遺物	占 数	人骨・齒			形 態	
								枚数	性別	年 齢		
8	30	X-53・54	95	90	2~6				○	不明	成人	縫合集
13	30	W-53・54	(69)	(61)	5~9		○	2	○ 不明	青年	縫なし、歳十のみ	

その他の土坑

番号	図	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備 考	番号	図	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備 考	
1	39	V-52	(84.0)	(97.0)	33.4~92.6		1	X-49	46	37	25			
2	39	V-52, W-52	145.0	94.0	17.7~23.4		2	X-49		38	33			
3	40	W-52	132.5	113.0	34~41.5		3	X-50		55	33	20		
4	40	W-53, W-54	192.5	112.5	10.2~16.1		4	W-50		34	29	18		
5	4	V-49	86.0	70.5	17.3~24.3	2住内土坑	5	X-50		25	20	38		
6	40	X-52	68.5	48.5	21.5~24.4		6	X-53		27	19	9		
9	40	X-52	74.0	(41.0)	16.8~19.2		7	W-53		70	50	8		
10	40	X-52	56.0	(38.0)	17.5~18.3		8	V-54		53	10.5	11		
12-2	20	X-54	52.0	(42.0)	20.9~30.7	中世墓?								
14	40	X-53	94.0	(60.0)	12.5~24.4									
20	31	W-54	62.0	48.0	65~90	中世墓?								
21	40	W-53	87.0	70.0	19.7~42.5									
23	X-48, X-50	(86.0)	(79.0)	37~42	縄文広縫穴?									
24	X-49		98.0	64.0	18									
25	X-50		76.0	66.0	20									
26	X-52		65.0	53.0	14									
27	X-53		99.0	64.0	21									
28	X-53		129.0	63.0	8									
29	X-53		(77.0)	48.0	15									
30	40	X-53	71.5	69.5	4.9~18.3									
31	V-54, W-54	84.0	58.0	43										
32	31	W-54, X-54	32.0	30.0	61.5~71.5	中世墓?								
33	W-51		88.0	69.0	11	3住内								
34	6	V-51	49.0	50.0	48~50.2	3住内、府窓穴								
35	W-51		69.0	61.0	43	3住内								
36	V-48		70.0	55.0	10									
37	V-48		(77.0)	59.0	7									

第3表 石器一覧

図	出土位置	遺物番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(Kg)	石 材	備 考
5	2住	9	横刃形石器	5.3	12.2	1.2	90.0	ホルンフェルス	
5	2住	10	四石	10.3	6.9	4.2	432.0	閃紋岩	表面に凹あり
10	3住	40	二次加工のある剥片	9.0	6.9	1.2	83.0	ホルンフェルス	
10	3住	41	打製石斧	(10.7)	(10.7)	(2.8)	(300.0)	ホルンフェルス	圓錐形
10	3住	42	打製石斧	(7.7)	(4.6)	(1.8)	(52.0)	貝岩	短錐形・43と接合
10	3住	43	鉗片	4.0	2.7	0.7	3.0	貝岩	43と接合
10	3住	44	横刃形石器	4.6	11.6	1.1	68.0	ホルンフェルス	
10	3住	45	横刃形石器	5.0	8.4	1.2	49.0	ホルンフェルス	
10	3住	46	四石	10.2	8.1	4.6	513.0	安山岩	表面に削面・凹あり、側面整形痕あり
10	3住	47	右皿	27.4	27.0	9.3	9500.0	輝石安山岩	作業面は平坦
13	5住	61	打製石斧	11.9	5.2	2.5	178.0	砂岩	錐形
13	5住	62	打製石斧	(8.6)	(5.4)	(1.9)	(93.0)	ホルンフェルス	錐形
13	5住	63	打製石斧	(7.2)	(4.6)	(2.3)	(81.0)	ホルンフェルス	錐形
13	5住	64	横刃形石器	4.7	9.5	1.3	51.0	ホルンフェルス	
13	5住	65	神伏隕石	(10.6)	(4.4)	(3.8)	(300.0)	神伏	ハンマー?
13	遺熱外	66	鉛石	10.0	8.2	6.5	648.0	安山岩	表面は1
13	1号構	67	麻石	6.7	4.2	3.6	100.0	黒麻石	
13	1号構	68	麻石	2.8	4.4	3.0	53.0	黒麻石	
13	1号構	69	麻石	6.2	3.2	3.4	56.0	黒麻石	

第4表 平安・中世遺物觀察表



回	植物名	生長地	種類	形態	現存率	高さ(cm)	幅さ(cm)	葉さ(cm)	葉さ(cm)	花成	花	土	色	調	測	特	
27	14 5号生 土顕類 半葉型	口縫一輪 断面破片	-	(16.0)	-	-	89.8	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)黄褐色	(外)II種部のクロナデ、脚部タハケメ (内)II種部のクロナデ、脚部ヨコハケメ						
27	15 5号生 土顕類 半葉型	口縫一輪 断面破片	-	(35.0)	-	-	38.5	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色	(外)II種部のクロナデ、脚部タハケメ (内)ヨコハケメ						
27	16 5号生 土顕類 平度型	口縫一輪 断面破片	-	(38.0)	-	-	149.7	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	赤褐色	(外)II種部のクロナデ、脚部タハケメ (内)ヨコハケメ						
27	17 5号生 土顕類 半葉型	断面破片	-	(8.0)	-	-	38.6	やや不良	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)褐色	(外)タハケメ(内)ヨコハケメ(底)木葉 根						
27	18 5号生 土顕類 小型型	断面破片	-	-	-	-	16.8	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)赤褐色 (内)褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ						
27	19 5号生 土顕類 半葉型	断面破片	-	-	-	-	52.9	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)赤褐色	(外)タハケメ(内)ヨコハケメ						
27	20 5号生 黑色土顕 环	NS%	4.3	13.0	6.2	-	?	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい黄褐色 (内)黑色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色						
27	21 5号生 黑色土顕 环	60%	4.3	(13.0)	6.0	-	?	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)黑色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色						
27	22 5号生 黑色土顕 环	90%	4.5	(13.0)	5.3	-	?	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)黑色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色						
27	23 5号生 黑色土顕 环	100%	4.0	10.5	5.1	-	114.3	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)黑色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色						
27	24 5号生 黑色土顕 环	40%	5.7	(15.2)	5.8	-	?	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)黑色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色						
27	25 5号生 黑色土顕 环	60%	1.5	(12.0)	5.7	-	?	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)黑色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色						
27	26 5号生 黑色土顕 环	99%	4.1	12.9	6.8	-	?	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)黑色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色						
27	27 5号生 黑色土顕 环	90%	4.6	12.9	5.7	-	?	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)黑色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色						
28	28 5号生 近色土顕 高凸岸	95%	3.0	14.0	6.8	-	160.1	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい黄褐色 (内)黑色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色						
28	29 5号生 黑色土顕 环	断面破片	-	-	(6.0)	-	36.7	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい黄褐色 (内)黑色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色						
28	30 5号生 黑色土顕 蓝?	断面破片	-	-	4.9	-	45.1	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)黑色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色						
28	31 5号生 黑色土顕 高内壳	断面破片	-	-	7.3	-	66.1	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)黑色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色						
28	32 5号生 土顕類 小型型	口縫一輪 断面破片	-	(14.2)	-	(11.9)	97.9	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)黑色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色						
28	33 5号生 土顕類 小型型	口縫一輪 断面破片	-	(12.2)	-	(10.3)	37.7	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)黑色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色						
28	34 5号生 土顕類 小型型	口縫一輪 断面破片	-	(10.2)	-	-	29.5	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)黑色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色						
28	35 5号生 土顕類 半葉型	口縫一輪 断面破片	-	-	(10.9)	-	57.6	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)黑色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ(底)木葉 根						
28	36 5号生 土顕類 小型型?	口縫一輪 断面破片	-	-	(8.0)	-	27.7	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	赤褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色					
28	37 5号生 土顕類 混?	断面破片	-	-	(7.0)	-	17.2	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)黑色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色					
28	38 5号生 上顕類 小型型	口縫一輪 断面破片	-	-	(7.0)	-	38.8	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	赤褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色					
28	39 5号生 土顕類 小型型	断面破片	-	-	-	-	49.5	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	赤褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ					
28	40 5号生 土顕類 小型型	断面破片	-	-	-	-	22.1	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	赤褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色					
28	41 5号生 土顕類 混?	断面破片	-	-	(12.0)	-	10.9	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	赤褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色					
28	42 5号生 而也器 环	山脈破片	-	-	(12.0)	-	13.8	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	灰色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色					
28	43 5号生 而也器 人蔴	断面破片	-	-	(14.8)	255.0	平均	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色						
28	44 5号生 而也器 混	断面破片	-	-	-	-	358.6	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色					
28	45 5号生 而也器 混	断面破片	-	-	-	-	55.2	平均	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色					
28	46 5号生 而也器 混	断面破片	-	-	-	-	82.0	平均	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色					
28	47 5号生 而也器 混	断面破片	-	-	-	-	54.8	平均	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色					
28	48 5号生 死物陶 高凸岸	断面破片	-	-	8.0	-	95.7	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色					
28	49 5号生 死物陶 混	断面破片	-	-	(16.0)	-	115.3	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	灰褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色					
28	50 5号生 沼澤	断面破片	細大根 7.8 10.6 4.3	-	-	-	413.6	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	灰色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色					
28	51 1号生 台風?	小輪質 上成?	100%	3.0	12.2	6.5	-	171.3	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色				
28	52 1号生 台風?	小輪質 上成?	99%	2.3	9.2	4.8	-	88.8	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色				
28	53 1号生 台風?	小輪質 上成?	89%	2.5	8.6	5.0	-	69.7	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	(外)にいい赤褐色 (内)褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色				
28	54 1号生 台風?	小輪質 上成?	-	(30.4)	-	-	98.3	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	赤褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ (底)暗褐色					
28	55 X-50 土顕類 内外干涉	断面破片	-	(26.8)	-	-	16.5	良好	灰石、石灰、赤色斑点、白色粒子、黑色粒子を含む	赤褐色	(外)ヨコハケメ(内)ヨコハケメ	(外)ヨコハケメ					

第5表 墓書土器一覧

遺構名	遺物番号	転文	種別	器質	器種	記銘部位	方向	時期	出土位置	備考
1号住	1	□	墨書?	甲斐型土器	环	体外・底外		甲斐XI-XII		黒斑?
	2	天?	墨書	黒色土器	高台环	底外			住居北東部上層	
	3	春?	刻書	黒色土器	环	体外	倒位 正位		住居東部中層	
4号住	3	□	墨書	甲斐型土器	环	体外	甲斐Ⅸ		住居中央南西寄り	
	12	□	墨書	黒色土器	环	体外			住居中央西北寄り中層	
	15	□	墨書	黒色土器	环	体外			住居南乾燥	
	16	□	墨書	黒色土器	环	体外			住居西北部	
	18	□	墨書	黒色土器	高台环	体外			住居北部	
	2	是	墨書	甲斐型土器	环	体外	正位?	甲斐X	住居南東部下層	
5号住	3	南?	墨書	甲斐型土器	环	体外	正位	甲斐X		
	7	□	墨書	甲斐型土器	环	体外				
	8	□	墨書	甲斐型土器	环	体外				
	20	南	墨書	黒色土器	环	体外	倒位		住居南東部下層	
	21	南	墨書	黒色土器	环	体外	正位		住居南東部下層	
	22	南?	墨書	黒色土器	环	体外	正位		住居西端下層	
	28	×	刻書	黒色土器	高台环	底外			住居北東壁際	

第6表 古錢一覧

No	國	遺物番号	出土位置	錢貨名	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	初鑄年	備考
1	38	59	11土	永樂通寶	2.5	2.3	0.15	4.8	1408	
2	38	60	11土	永樂通寶	2.45	2.5	0.12	3.2	1408	
3			11土	不明	2.35	2.4	0.18	2.3		拓本なし
4	38	61	12-1土	永樂通寶	2.5	2.5	0.1	3.4	1038	
5	38	62	12-1土	紹聖通寶	2.4	2.28	0.12	3.2	1094	
6	38	63	12-1土	至大通寶	2.27	2.3	0.1	2.5	1285	
7		64	12-1土	祐元寶	2.32	2.3	0.1	2.3		嘉祐元寶? - 至道元寶?
8			12-1土	不明	2.4	2.4	0.1	3.2		拓本なし
9			12-1土	不明	2.42	2.32	0.1	2.8		拓本なし
10	38	65	13土	皇宋通寶	2.4	2.4	0.1	3.2	1038	
11	38	66	13土	政和通寶	2.42	2.42	0.1	2.7	1111	
12	38	67	16土	嘉祐通寶	2.42	2.42	0.1	2.2		嘉祐通寶? - 嘉熙通寶?
13	38	68	16土	大德通寶	2.47	2.5	0.1	3.1	1017	
14	38	69	16土	大觀通寶	2.85	2.8	0.1	2.6	1107	
15	38	70	16土	○○元寶	2.38	2.38	0.12	3.2		熙寧元寶?
16	38	71	16土	○○元寶	2.4	2.4	0.1	2.6		熙寧元寶?
17			16土	不明	2.5	2.45	0.15	3.3		拓本なし
18	38	72	18-1土	開元通寶	2.35	2.32	0.11	2.7	960	
19	38	73	18-1土	皇宋通寶	2.2	2.3	0.1	2.5	1038	
20	38	74	18-1土	聖宋元寶	2.45	2.45	0.1	2.8	1101	
21	38	75	18-1土	正隆元寶	2.48	2.48	0.18	3.3	1157	
22			18-1土	不明	2.55	2.53	0.1	3.2		拓本なし
23			18-1土	不明	2.4	2.5	0.15	3.1		拓本なし
24			18-2土	不明	-	-	-			拓本なし
25			18-2土	不明	-	-	-	6.6		拓本なし
26			18-2土	不明	-	-	-			拓本なし
27			18-2土	不明	-	-	-	9.5		拓本なし
28			18-2土	不明	--	--	--			拓本なし
29			18-2土	不明	-	-	-			拓本なし
30	38	76	19土	熙寧元寶	2.32	2.33	0.11	2.6	1068	
31	38	78	19土	大豐通寶	2.5	2.5	0.12	3.8	1078	
32	38	77	19土	永樂通寶	2.4	2.4	0.1	2.4	1408	
33			5住	不明	2.42	2.35	0.12	2.8		拓本なし

第7表 空風輪一覧

番号	遺物名	A(cm)	B(cm)	C(cm)	D(cm)	E(cm)	F(cm)	G(cm)	H(cm)	I(cm)	J(cm)	K(cm)	重量(g)	石材	備考
34 1	空風輪	11.9	10.6	10.9	5.5	15.3	9.5	0.6	5.2	10.5	0.3	2000.0	凝灰岩	墨書きあり(空輪に「夢」、風輪に「唐」が双方にある)	
34 2	1 五葉	13.5	11.1	11.6	7.3	17.4	10.0	0.9	6.5	13.4	0.4	3050.0	凝灰岩	墨書きあり(空輪2ヶ所、風輪1ヶ所)判読不能	
34 3	1 五葉	12.9	11.3	12.3	8.4	15.9	8.7	0.7	6.5	11.6	0.0	1970.0	凝灰岩	墨書きあり(空輪・風輪各2ヶ所)判読不能	
34 4	遺構外	10.8	9.5	9.9	5.2	14.8	8.8	0.3	5.7	20.0	0.0	1400.0	安山岩		
34 5	2 五葉	13.1	10.8	11.1	6.5	15.9	9.8	0.3	5.8	12.0	0.4	2350.0	凝灰岩		
34 6	五散在	10.2	9.0	9.4	6.5	13.4	6.7	0.7	6.0	9.2	0.0	1160.0	凝灰岩	欠損あり	
34 7	2 五葉	10.2	9.2	9.6	6.0	12.6	7.0	0.6	5.0	9.5	0.0	1180.0	凝灰岩	欠損あり	
34 8	五散在	11.4	9.6	10.3	8.3	13.9	9.1	0.3	4.5	10.1	0.6	1600.0	凝灰岩	平面形が楕円形	
34 9	1 五葉	14.0	10.6	10.8	6.3	16.2	9.6	0.5	6.1	11.5	0.2	1980.0	凝灰岩	平面形が楕円形、石質が模様あり	
34 10	2 五葉	13.4	11.0	11.5	8.1	15.8	9.2	0.4	6.2	13.7	0.5	2580.0	凝灰岩	石質が模様あり	
34 11	1 五葉	14.4	11.8	12.6	9.2	17.5	11.2	0.3	6.0	12.6	0.5	2620.0	凝灰岩	平面形が楕円形	
34 12	1 五葉	11.6	10.2	10.6	(6.6)	14.3	8.2	0.4	5.7	10.9	0.3	2040.0	凝灰岩		
34 13	1 五葉	12.0	10.4	10.7	8.3	13.6	7.5	0.9	5.2	11.5	0.5	1840.0	凝灰岩		
34 14	1 五葉	9.9	8.5	10.1	7.0	19.1	9.9		7.5	9.9	2.0	4.2	2120.0	安山岩	ホツあり

第8表 火輪一覧

番号	遺物番号	出土位置	A(cm)	B(cm)	C(cm)	D(cm)	E(cm)	F(cm)	G(cm)	H(cm)	I(cm)	J(cm)	K(cm)	L(cm)	重量(g)	石材	備考
34 16	五散在	19.8	7.4	1.7	4.9	0.8	2.8	3.5	0.3	8.1	19.0	20.0	7.9	3470.0	凝灰岩	上面斜坡の高さ0.7cm、墨書きあり(4箇)	
34 17	2 五葉	18.2	12.1	6.1	5.5	0.5	7.6	3.7	0.8	9.2	17.5	17.7	9.3	4260.0	凝灰岩	墨書きあり(1箇)	
34 18	1 丸葉	18.3	12.9	(6.9)	(4.9)	1.1	8.5	4.2	0.7	9.1	18.6	18.9	9.1	4980.0	凝灰岩	墨書きあり(4箇)	
34 19	2 五葉	19.3	12.6	6.2	4.5	1.9	7.1	4.2	1.2	8.0	17.8	19.0	8.7	5560.0	凝灰岩	墨書きあり(2箇)	
35 20	2 五葉	21.7	15.1	7.1	5.7	2.3	9.0	4.6	1.4	8.8	(20.3)	22.1	8.3	6480.0	凝灰岩	墨書きあり(1箇)	
35 21	1 五葉	20.1	11.9	5.3	5.7	0.9	6.2	4.9	0.2	8.6	19.6	20.4	8.3	6200.0	凝灰岩	墨書きあり(1箇)	
35 22	2 丸葉	19.2	13.0	7.2	4.3	1.5	8.5	3.3	0.9	8.7	18.3	19.5	8.8	4500.0	凝灰岩		
35 23	五散在	18.9	10.8	5.4	4.3	1.1	6.7	3.3	0.6	7.0	18.8	19.8	8.1	3900.0	凝灰岩		
35 24	1 丸葉	17.0	10.6	4.2	3.6	2.8	9.0	3.7	1.0	7.7	16.2	16.9	7.9	4080.0	凝灰岩		
35 25	五散在	21.7	10.6	4.9	4.9	0.8	5.7	3.7	0.7	7.1	21.4	22.2	(6.8)	6020.0	凝灰岩		
35 26	1 五葉	18.9	8.2	2.5	4.9	0.8	4.0	3.9	0.2	7.8	19.4	19.8	8.2	4120.0	凝灰岩		
35 27	五散在	21.1	9.0	3.1	4.0	1.9	(5.2)	4.9	0.8	6.7	19.3	20.6	(7.0)	4860.0	凝灰岩		
35 28	2 五葉	21.1	11.2	(5.1)	(2.4)	3.7	6.4	2.3	2.2	9.6	(18.7)	20.8	10.1	5060.0	安山岩		
35 29	2 五葉	22.7	10.6	4.4	2.7	2.9	5.1	3.3	1.4	11.7	21.1	23.0	11.8	5170.0	安山岩		
35 30	1 五葉	23.2	10.6	(2.2)	(6.6)	1.8	3.9	4.9	1.3	9.6	21.4	24.8	11.2	7420.0	凝灰岩		

第9表 水輪一覧

番号	遺物番号	出土位置	A(cm)	B(cm)	C(cm)	D(cm)	E(cm)	F(cm)	G(cm)	H(cm)	I(cm)	J(cm)	重量(g)	石材	備考
36 31	1 五葉	16.1	11.4	11.3	10.3	1.0	0.1	0.8	15.9	10.7	9.5	3190.0	凝灰岩	墨書きあり(2箇)	
36 32	1 五葉	17.6	10.9	13.3	10.9	1.5	1.3	17.0	12.5	11.5	3570.0	凝灰岩	墨書きあり(1箇)		
36 33	2 五葉	18.5	12.0	12.7	12.0	1.2	1.6	18.5	12.5	12.7	3860.0	凝灰岩	墨書きあり(1箇)		
36 34	2 五葉	17.4	12.1	10.6	10.0	0.9	0.9	17.3	10.7	10.3	3080.0	凝灰岩	墨書きあり(1箇)		
36 35	2 五葉	19.9	12.4	11.5	8.3	0.8	0.7	16.9	10.1	8.3	5220.0	凝灰岩	墨書きあり(1箇)		
36 36	1 丸葉	19.1	11.2	9.9	9.6	0.6	0.6	19.2	9.0	8.9	5080.0	凝灰岩	墨書きあり(1箇)		
36 37	2 五葉	16.6	10.5	11.8	10.9	1.0	0.9	17.2	12.8	(6.0)	2490.0	凝灰岩	4分の1欠損		
36 38	1 丸葉	16.6	11.1	11.3	11.8	0.6	0.8	16.1	10.5	11.5	2920.0	凝灰岩			
36 39	2 五葉	16.5	10.8	10.6	10.5	1.0	1.3	17.2	11.5	10.3	3700.0	凝灰岩			
36 40	2 丸葉	17.0	9.7	12.1	11.3	0.3	0.6	16.6	10.5	10.3	3630.0	凝灰岩			
36 41	五散在	20.1	11.2	13.3	14.5	0.0	1.3	20.1	14.0	15.0	4350.0	凝灰岩			
36 42	1 土	21.8	13.2	17.1	14.6	1.1	0.9	18.8	12.5	(17.0)	7530.0	凝灰岩			

第10表 地輪一覧

番号	遺物番号	出土位置	A(cm)	B(cm)	C(cm)	D(cm)	E(cm)	F(cm)	G(cm)	H(cm)	I(cm)	重量(g)	石材	備考
37 43	1 五葉	18.5	15.6	18.4	(13.0)	(8.5)	1.1	(7500.0)	凝灰岩	墨書きあり(1箇)				
37 44	1 五葉	19.8	14.4	20.0	11.5	(11.3)	1.4	(7840.0)	凝灰岩	墨書きあり(1箇)				
37 45	2 2土	18.5	12.4	18.7	(8.3)	(12.3)	0.9	(5770.0)	凝灰岩	墨書きあり(3箇)				
37 46	2 2上	22.9	13.3	22.3	(10.2)	(12.0)	—	(9000.0)	凝灰岩	墨書きあり(1箇)				
37 47	1 五葉	20.1	17.4	19.2	17.3	17.5	2.2	10000.0	凝灰岩	墨書きあり(3箇)				
37 48	1 五葉	19.3	12.6	19.2	(13.1)	(13.0)	1.4	(7360.0)	安山岩					
38 49	2 五葉	18.2	14.3	17.3	13.8	(14.0)	—	(8490.0)	凝灰岩					
38 50	1 五葉	19.2	16.2	18.9	17.4	16.0	3.0	8640.0	凝灰岩					
38 51	1 五葉	19.6	18.7	19.2	14.4	(11.8)	0.8	(12500.0)	安山岩					
38 52	1 五葉	18.4	12.2	18.7	17.1	(16.0)	0.9	(7800.0)	安山岩					
38 53	遺構外	18.0	7.1	17.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	安山岩

第11表 宝鏡印塔もしくは六地藏幢

番号	遺物番号	出土位置	A(cm)	B(cm)	C(cm)	D(cm)	E(cm)	F(cm)	G(cm)	H(cm)	I(cm)	重量(g)	石材
34 15	2 五葉	13.7	9.5	10.4	9.2	(16.5)	11.8	1.2	(3.5)	14.1	2529.0	安山岩B	

第12表 遷移別出土遺物内訳

遺物名	構文	実 物										中 間										後 段									
		平 面	輪 廓	直 径	厚 さ	形 状	外 形	合 計	环 状	圆 形	不 規	合 計	灰 陶	黑 陶	白 陶	陶 器	石 器	黑 曜	石 器	金 屬	晶 石	古 鏡	瓦 器	骨 器	竹 器	編 織	人 骨				
1号社 陶器 (件)	陶器	76	198	939	4822	1.3	15	756	1136	6	1	116	6	1	15	28	1	1	3	3	4	4	7.1	—	—	—	—				
2号社 陶器 (件)	陶器	19	1	158	5931	763	1	1	765	201	18	83	401	—	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
3号社 陶器 (件)	陶器	402	4	—	—	—	—	4	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
4号社 陶器 (件)	陶器	6	19	132	10	6	10	10	6	6	6	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
5号社 陶器 (件)	陶器	43	612	64	9	305	192	165	5	5	47	3	3	3	14	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
6号社 陶器 (件)	陶器	52	107	221	3	413	59	2	2	63	12	21	1	1	33	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
7号社 陶器 (件)	陶器	1290	865	2662	145	4	3076	1411	207	3	1651	69	232	9	1780	97	97	97	97	97	97	97	97	97	97	97	97	97	97	97	
1号五輪 陶器 (件)	陶器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	22		
2号五輪 陶器 (件)	陶器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17		
5号社 陶器 (件)	陶器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9		
1号清 水井 (件)	陶器	1	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5		
1号空穴 陶器 (件)	陶器	1	2	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	21.4		
3号水井 陶器 (件)	陶器	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
5号空穴 陶器 (件)	陶器	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
6号空穴 陶器 (件)	陶器	1	1	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
7号空穴 陶器 (件)	陶器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
8号空穴 陶器 (件)	陶器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
11号空穴 陶器 (件)	陶器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
12号空穴 陶器 (件)	陶器	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6		
13号空穴 陶器 (件)	陶器	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
15号空穴 陶器 (件)	陶器	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2		
16号空穴 陶器 (件)	陶器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6		
18号土坑 陶器 (件)	陶器	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
19号土坑 陶器 (件)	陶器	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
22号土坑 陶器 (件)	陶器	25	64	78	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2		
通体外 陶器 (件)	陶器	57	156	225	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
合 计 陶器 (件)	231	344	971	6	7	1	36	1568	295	0	2	15	84	2	0	1	8	12	2	0	2	5	1	0	33	16	29	0	53		
合 计 漆器 (件)	2460	2579	21420	99	365	1185	3941	0	207	366	0	4184	2142	169	0	40	83	2058	97	0	466	218	257	0	319	70	0	283			

# 図 版



調査区全景① (西から)

図版2



調査区全景②(東から)



調査区全景③(西から)

図版 4



調査区全景④（真上から）



調査区近景①（東から）



調査区近景②（西から）



2号住居跡

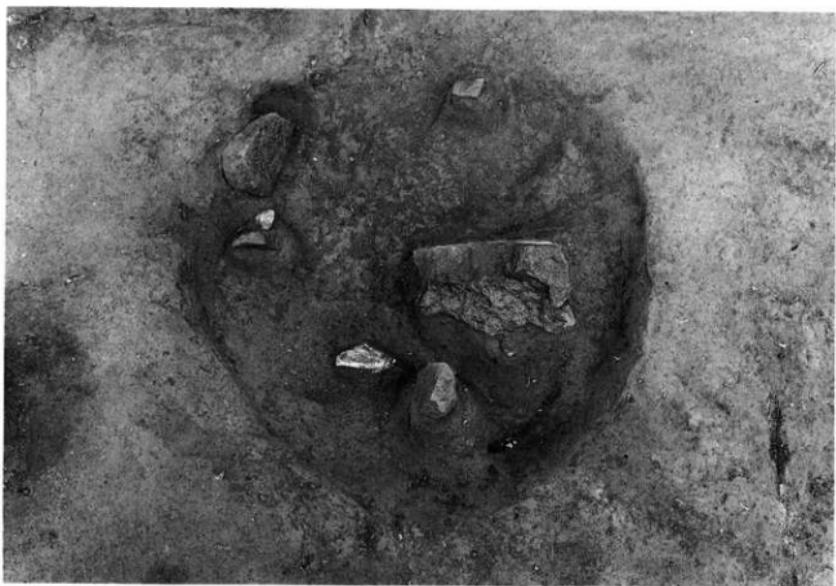


2号住居跡 地床炉

図版 6



3号住居跡



3号住居跡 地床炉



3号住居跡遺物出土状況①



3号住居跡遺物出土状況②



3号住居跡遺物出土状況③

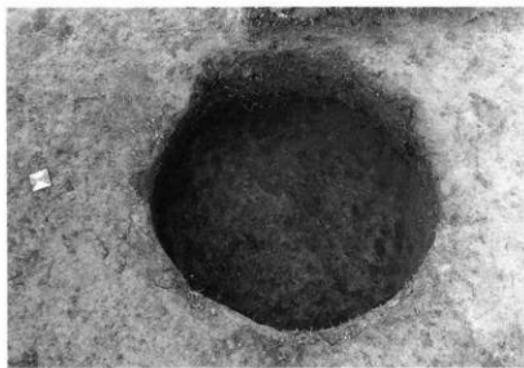
図版 8



5号土坑



5号土坑 遺物出土状況



23号土坑



1号住居跡



1号住居跡 カマド

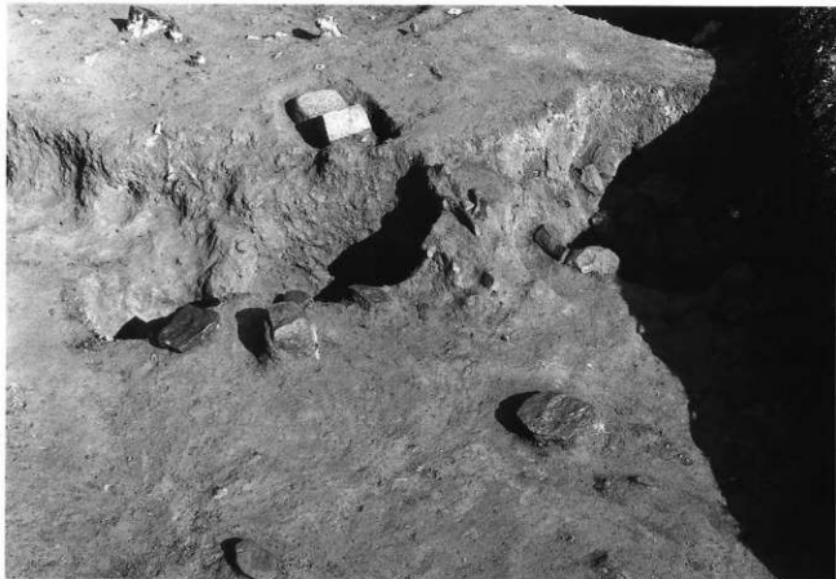
図版10



1号住居跡 実掘状況



4号住居跡



4号住居跡 カマド



4号住居跡 完掘状況

図版12



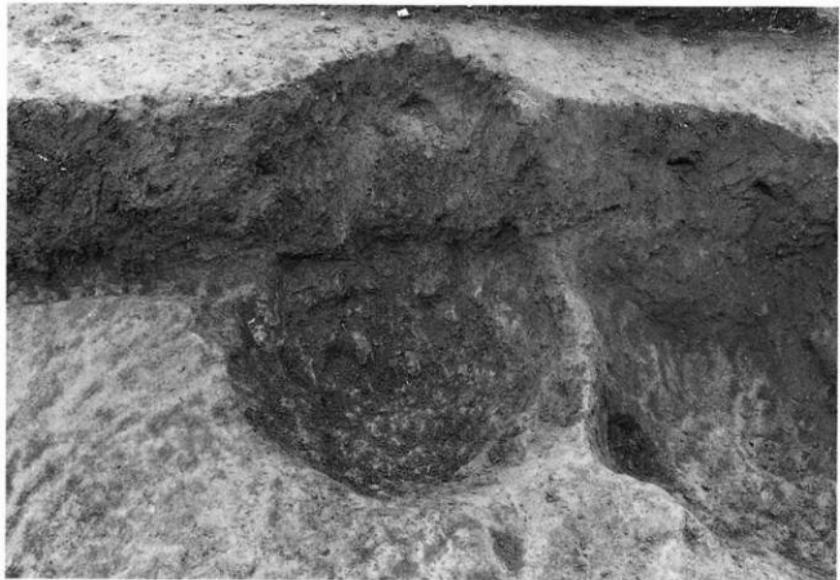
5号住居跡



5号住居跡 カマド①



5号住居跡 完掘状況①（西から）



5号住居跡 カマド完掘状況

図版14



5号住居跡 カマド②



5号住居跡 完掘状況②(北から)



5号住居跡 遺物出土状況①



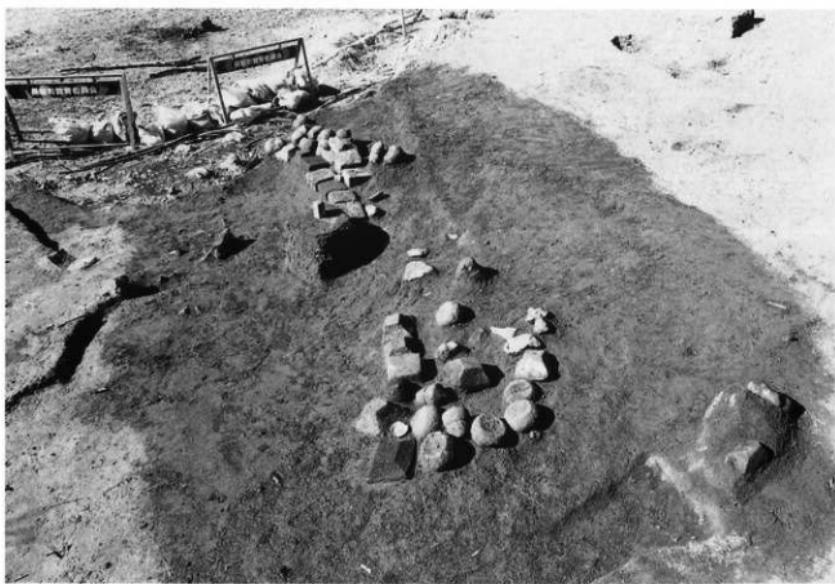
5号住居跡 遺物出土状況②



5号住居跡 遺物出土状況③



1・2号五輪塔集中地点①(西から)



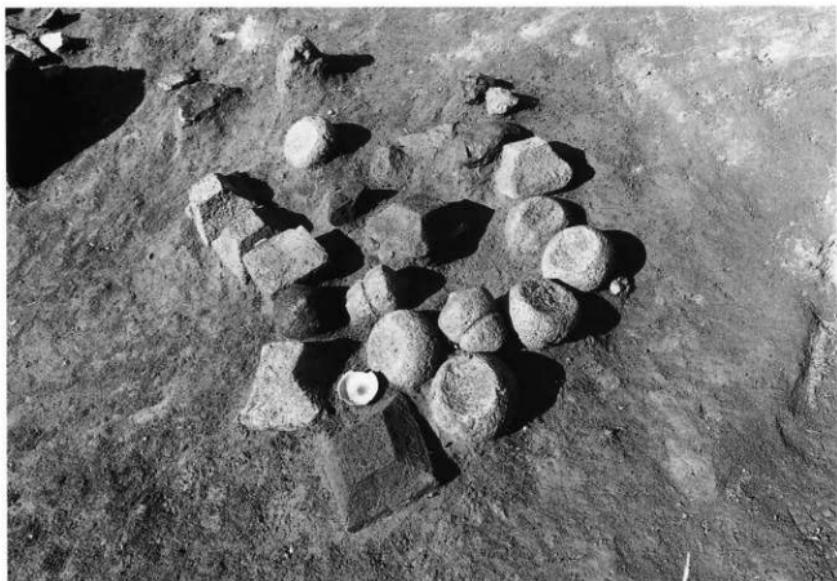
1・2号五輪塔集中地点②(東から)



1号五輪塔集中地点①（南東から）



1号五輪塔集中地点②（西から）



2号五輪塔集中地点①(東から)



2号五輪塔集中地点②(西から)



2号五輪塔集中地点③（北西から）



2号五輪塔集中地点 灰釉陶器出土状況



五輪塔散在地点①（南西から）



五輪塔散在地点②（西から）



調査区西端土坑群①（北西から）



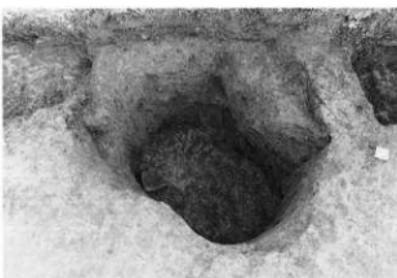
調査区西端土坑群②（南西から）



調査区西端土坑群③（西から）



7号土坑①（南西から）



7号土坑②（北から）



11(右)・12(左)号土坑



11号土坑



15・16・17号土坑①（北西から）



15・16・17号土坑②（西から）

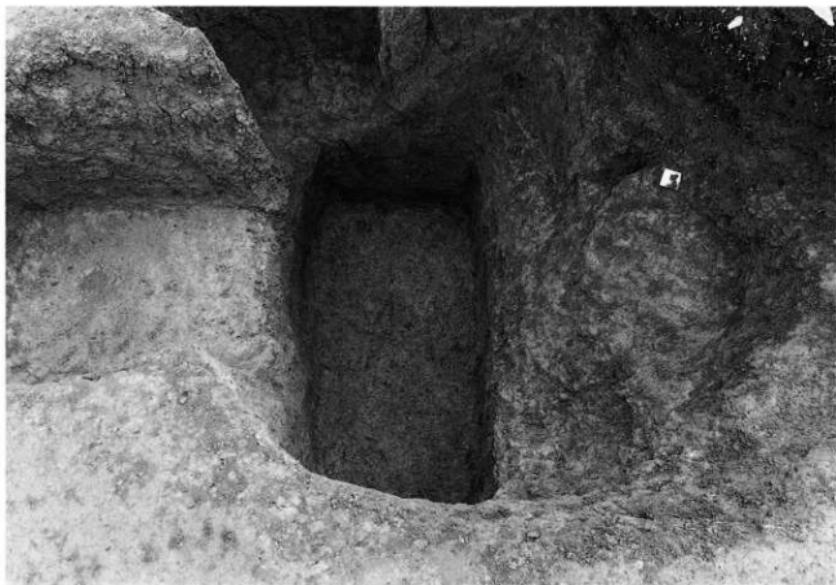


16号土坑①（西から）



16号土坑②（北から）

図版24



16号土坑 完掘状況



17号土坑



15・16・17号土坑 完掘状況①（北西から）



15・16・17号土坑 完掘状況②（南東から）



18-1・2号土坑①(北東から)



18-1・2号土坑②(北から)



18-1号土坑 人骨出土状況（西から）



18-2号土坑 人骨出土状況（東から）



18-1・2号土坑 完掘状況①（北から）



18-1・2号土坑 完掘状況②（西から）



18-1・2号土坑 完掘状況③（東から）



18-1・2号土坑③（北から）



18-1号土坑 かわらけ出土状況



19号土坑



20号土坑



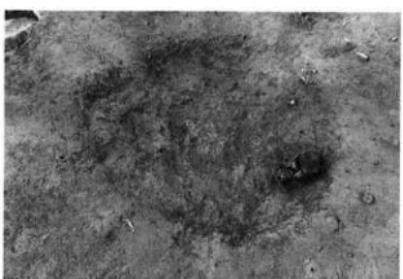
22号土坑



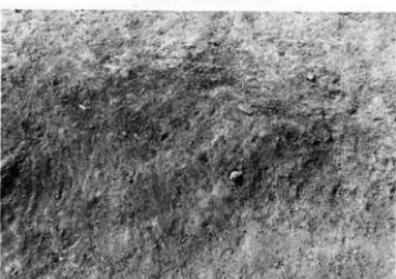
8号土坑



8号土坑 人骨出土状况



8号土坑 完掘状况



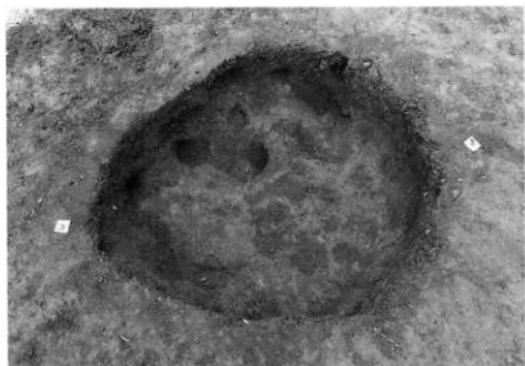
13号土坑



13号土坑 古钱出土状况



1号土坑

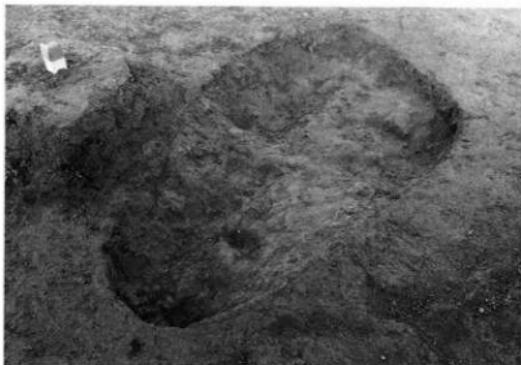


2号土坑



3号土坑

図版32



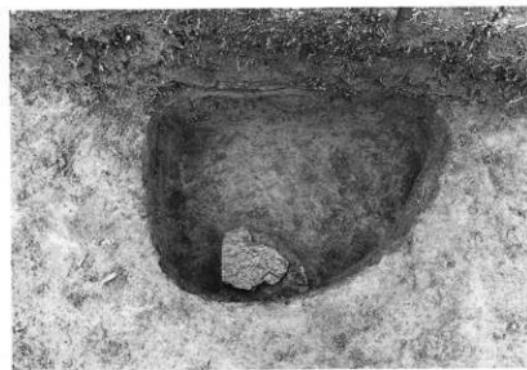
4号土坑



6号土坑



9号土坑



10号土坑



14号土坑



21号土坑



3住-1(正面)



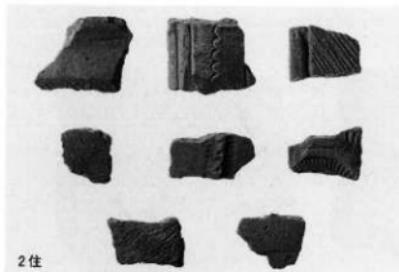
3住-1(右)



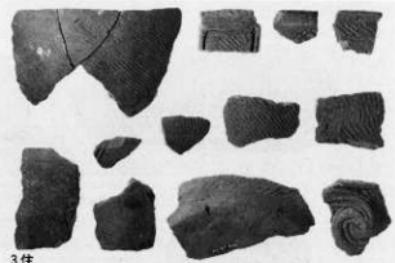
3住-1(左)



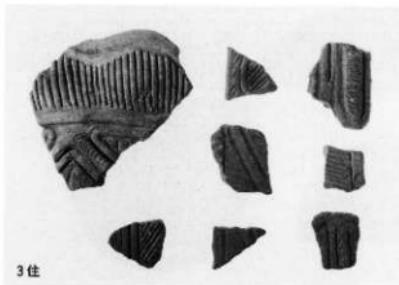
3住-1(裏)



2住



3住



3住



3住



1住



1住



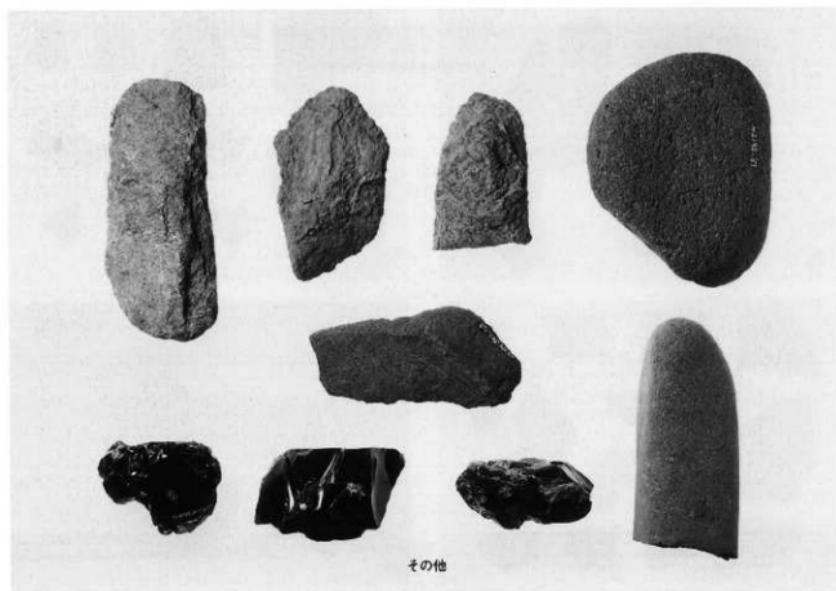
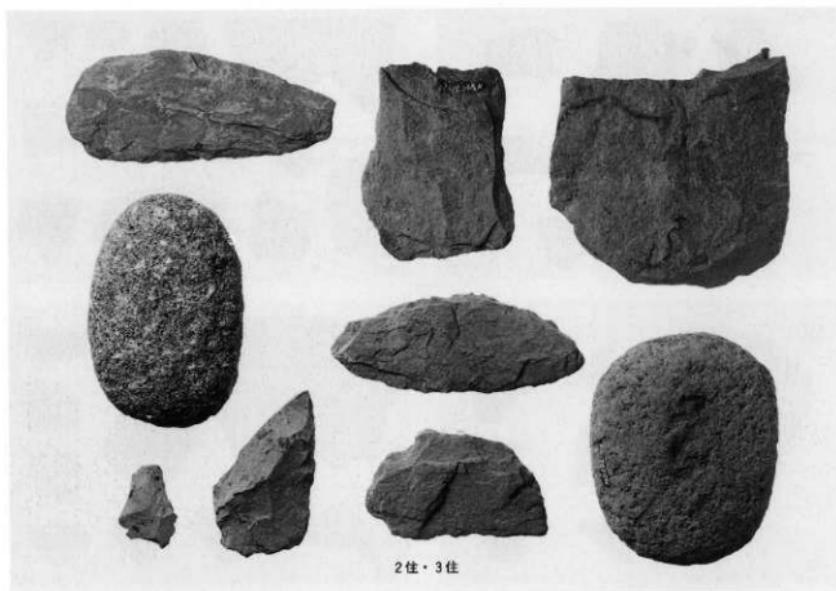
5住



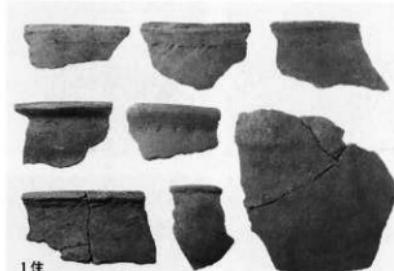
5土

出土土器②

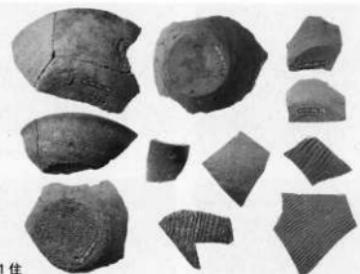
図版36



出土石器



1住



1住



4住-14



4住-16



4住-15



4住-13



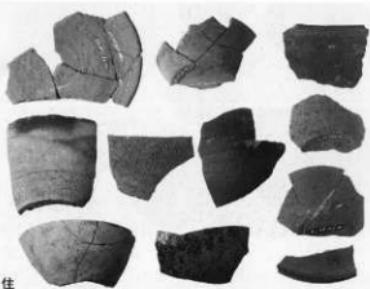
4住-1



4住-4



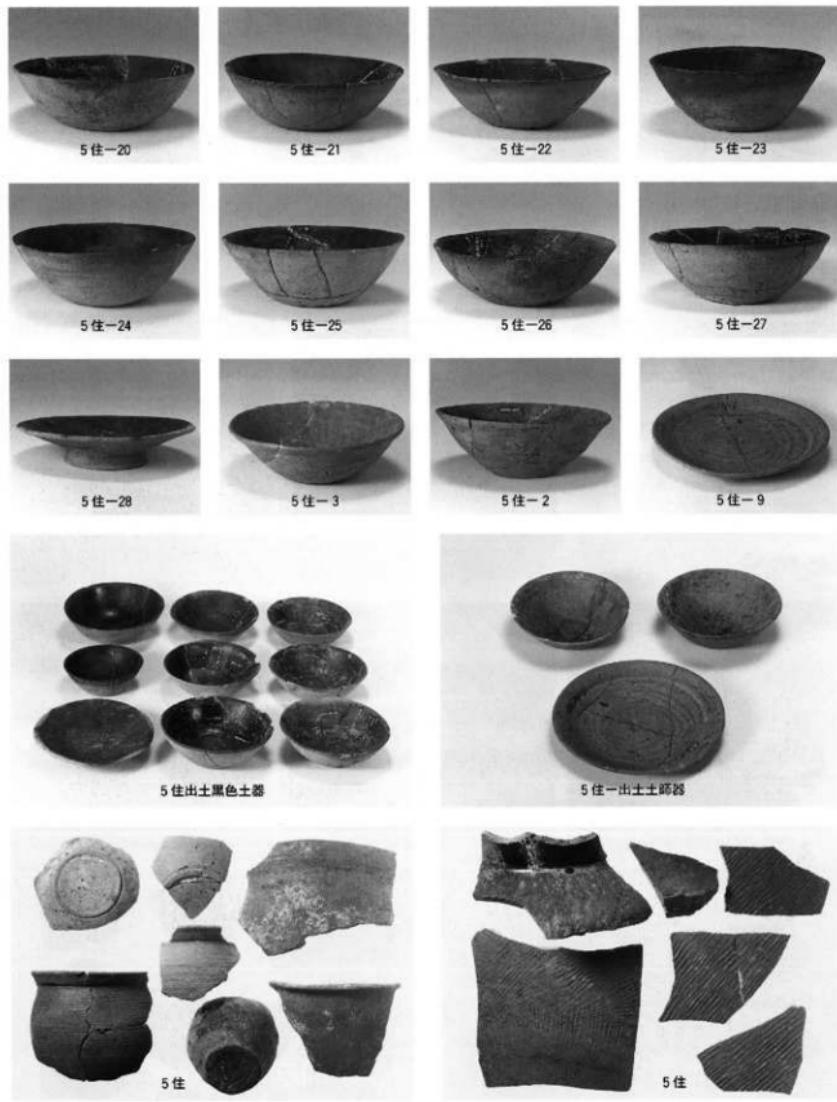
4住出土土器



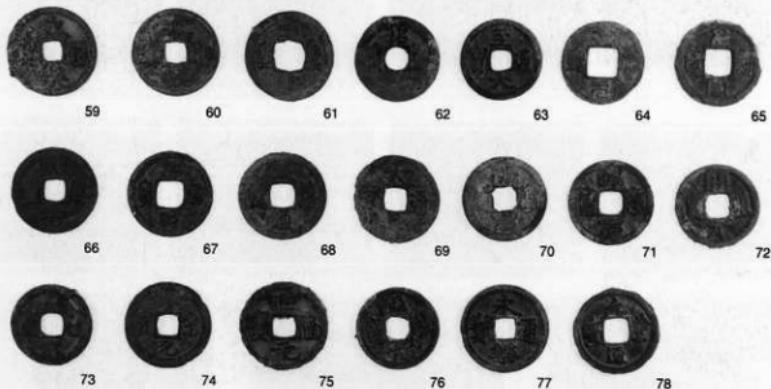
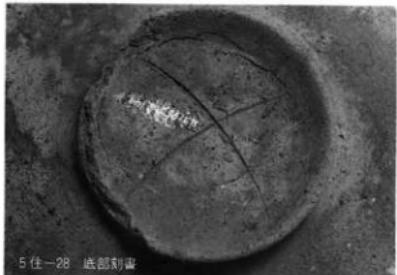
4住

出土土器③

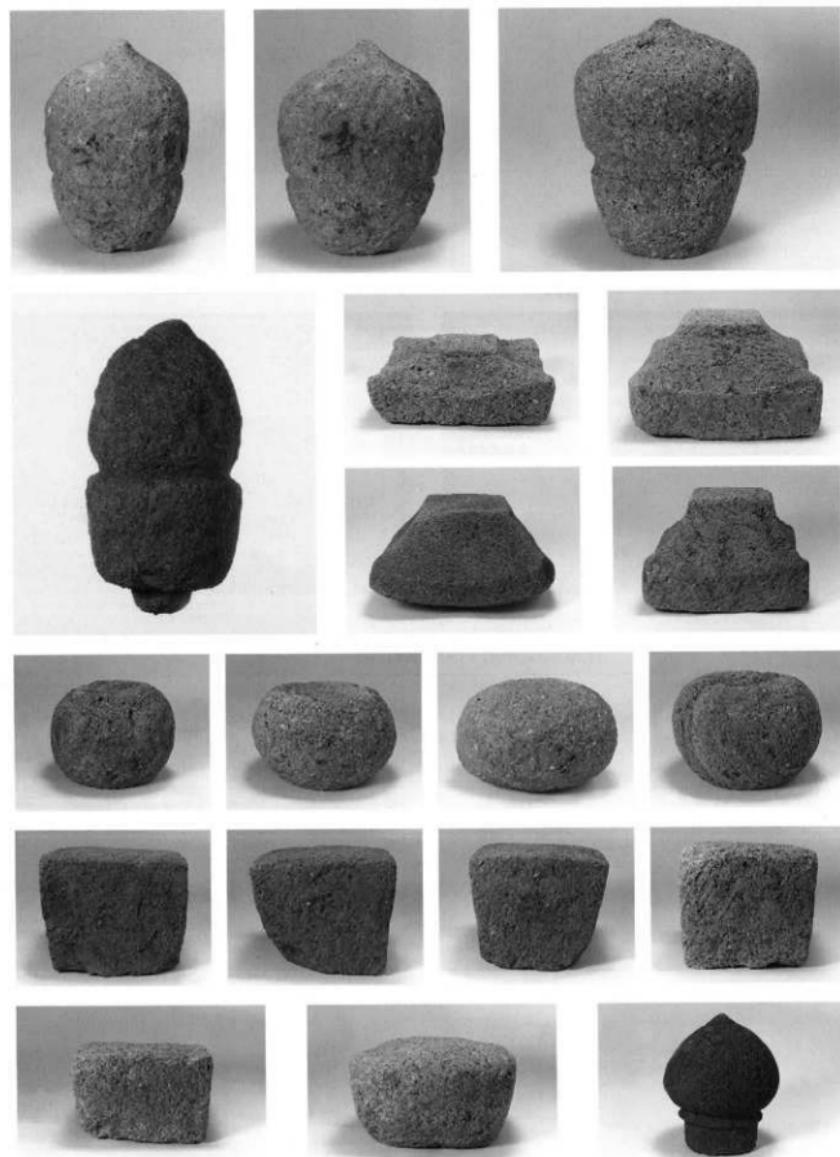
図版38



出土土器④



出土土器⑤・古錢



五輪塔

## 報告書抄録

フリガナ	コンヤイセキ ダイイチジハックツチョウサホウコクショ
書名	紺屋遺跡 第1次発掘調査報告書
副題	県営広域農業地農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
シリーズ	長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第20集
著者名	村松佳幸
編集・発行機関	長坂町教育委員会
住所・電話	〒408-0021 山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19 TEL 0551-32-2111
印刷所	鬼灯書籍株式会社 〒381-0012 長野県長野市柳原2133-5
発行日	2001年3月31日
遺跡所在地	山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条字紺屋
遺跡番号	長坂町 №195
1/25,000地図名 位置・標高	若柿子 北緯35° 48' 21" 東経138° 22' 45" 標高660~662m
調査原因	県営広域農業地農道整備事業
調査期間	1998年12月9日~1999年3月11日
調査面積	315m <sup>2</sup>
主な時代	縄文時代・平安時代・中世
主な遺構	縄文時代（中期中葉の堅穴住居跡2軒、土坑5基） 平安時代（堅穴住居跡3軒） 中世（墓坑10基、火葬墓または火葬施設2基、五輪塔集中地点2ヶ所、五輪塔散在地点1ヶ所） その他（堅穴状遺構1基、土坑22基、ピット8基）
主な遺物	縄文時代（土器、石器、黒曜石原石） 平安時代（土師器、黒色土器、須恵器、陶器、石製品、鉄滓） 中世（かわらけ、土師質土器、灰釉陶器、五輪塔、古銭）

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書 第20集

## 紺屋遺跡－第1次発掘調査報告書－

2001年3月25日 印刷

2001年3月31日 発行

編集・発行 長坂町教育委員会  
〒408-0021 山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19

TEL 0551-32-2111

印 刷 魂灯書籍株式会社  
〒381-0012 長野県長野市柳原2133-5  
TEL 026-244-0235 (代)

